

ORIGAMI TANTEIDAN

折紙探偵団

M A G A Z I N E

定価 600円

イベント情報

第7回 折紙探偵団コンベンション日程

Information About the 7th Origami-Tanteidan Convention



クローズアップ

Close-up : Modeling from Words: Re-Creation of Chinese Dragon

言葉からつくる — 龍の再生 —

Kimura Yoshihisa

木村良寿

折り図 **鹿**

Deer

Model and Diagrams by Kawahata Fumiaki

川畑文昭

展開図折りに挑戦

プロペラ機

Crease Pattern Challenge :
Propeller Plane

Miyajima Noboru

宮島 登

好評連載

Origami × Mathematics : Kawasaki Toshiyazu / A Philological Survey of Origami : Okamura Masao / New Origami Sampo : Maekawa Jun

折紙 × 数理 : 川崎敏和 / おりがみ庵・読み歩き : 岡村昌夫 / 新・折紙散歩 : 前川 淳

Tomoko in the Box : Fuse Tomoko / Tomoko's Shikishi-Hyakka : Tanaka Tomoko

TOMOKOのびっくり箱 : 布施知子 / ともこさんの色紙百花 : 田中具子

通巻 **66** 号

日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

第一章 名称と目的

第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、先取権の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

Chapter 1: Name and Purpose

Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing, designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies on the preferential right, studies of industrial and commercial design, and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and so on.

●折り方の約束記号 SYMBOL FOR FOLDING

谷折り線
Line indicating
valley fold.

山折り線
Line indicating
mountain fold.

手前に折る
Fold forward.

後ろへ折る
Fold backward.

折り筋を
つける
Fold and unfold.

段折り
Pleat.

裏返す
Turn over.

引き出す
Pull out flap.

図の見る
位置が変わる
Rotate.

図が
大きくなる
Diagram enlarged.

見えない
ところ
X-ray.

押す、
押しつぶす
Push here.

切る
Cut.

表紙作品解説

鹿
作:川畑文昭 (P.22)
Deer
Kawahata Fumiaki (P.22)

■川畑氏の「鹿」にはいくつかのバージョンがありますが、そのなかでもひとときわ
スリムな印象となっています。彫刻的で存在感あふれる仕上がり写真を参考に、折
り図通りの完成形からの発展を工夫してみましょう。

(解説:北條高史) Comments: Hojyo Takashi

No. 66

C O N T E N T S

■ 好評連載陣

Series

TOMOKOのびっくり箱 4

Tomoko in the Box

梅花いろいろ Umes of Every Variety

布施知子 Fuse Tomoko

ともこさんの色紙百花 8

Tomoko's Shikishi-hyakka

レンゲ草とつくし Chinese Milk Vetches and Horsetails

田中具子 Tanaka Tomoko

折り紙^{パイ}×数理 14

Origami×Mathematics

第5回 夢+俯瞰 A Dream in a Bird's-Eye View

川崎敏和 Kawasaki Toshikazu

おりがみ庵 読み歩き 16

A Philological Survey of Origami

第6回

岡村昌夫 Okamura Masao

新・折紙散歩 18

第6回 謎の仙人

New Origami Sampo (Origami Walk)

- Crane Wizard -

前川 淳 Maekawa Jun

JOASからの お知らせとお願い 34

A Note and a Reminder from JOAS

■ カラーページ

ORIGAMI PHOTO GALLERY 20

解説・北條高史 Comments: Hojyo Takashi

「レンゲ草とつくし」田中具子／「梅花いろいろ」布施知子

／「タペストリー」クリス・パルマー

／「ライオンファミリー」デビッド・ブリル

Chinese Milk Vetches and Horsetails: Tanaka Tomoko

／Umes of Every Variety: Fuse Tomoko／Tapestry:

Chris Palmer／Lion Family: David Brill

■ クローズアップ

Close-up

言葉からつくる～龍の再生～ 11

Modeling from Words:

Re-Creation of Chinese Dragon

木村良寿 Kimura Yoshihisa

■ 折り図

Diagrams

鹿 Deer 22

作・図: 川畑文昭

Model and
Diagrams by
Kawahata Fumiaki

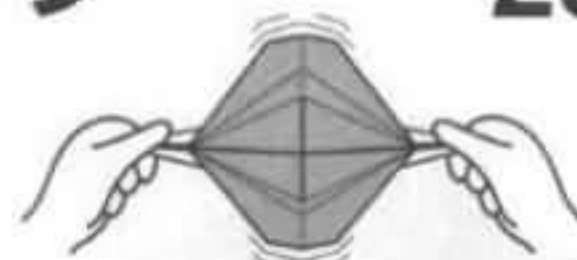


おしゃべりリップ 28

Chattering Lips

作・図: 山口 真

Model and Diagrams by
Yamaguchi Makoto



展開図折りに挑戦! 33

Crease Pattern Challenge

プロペラ機 Propeller Plane

宮島 登 Miyajima Noboru

■ エッセイ

Essay

おりすじ ——— 神谷哲史 32

Orisuji ("Fold-Creases") Kamiya Satoshi

■ インフォメーション

つまみおり Rabbit Ear (Information) 36

・第7回折紙探偵団コンベンション日程

Information About the 7th Tanteidan Convention

・12期継続のお知らせ

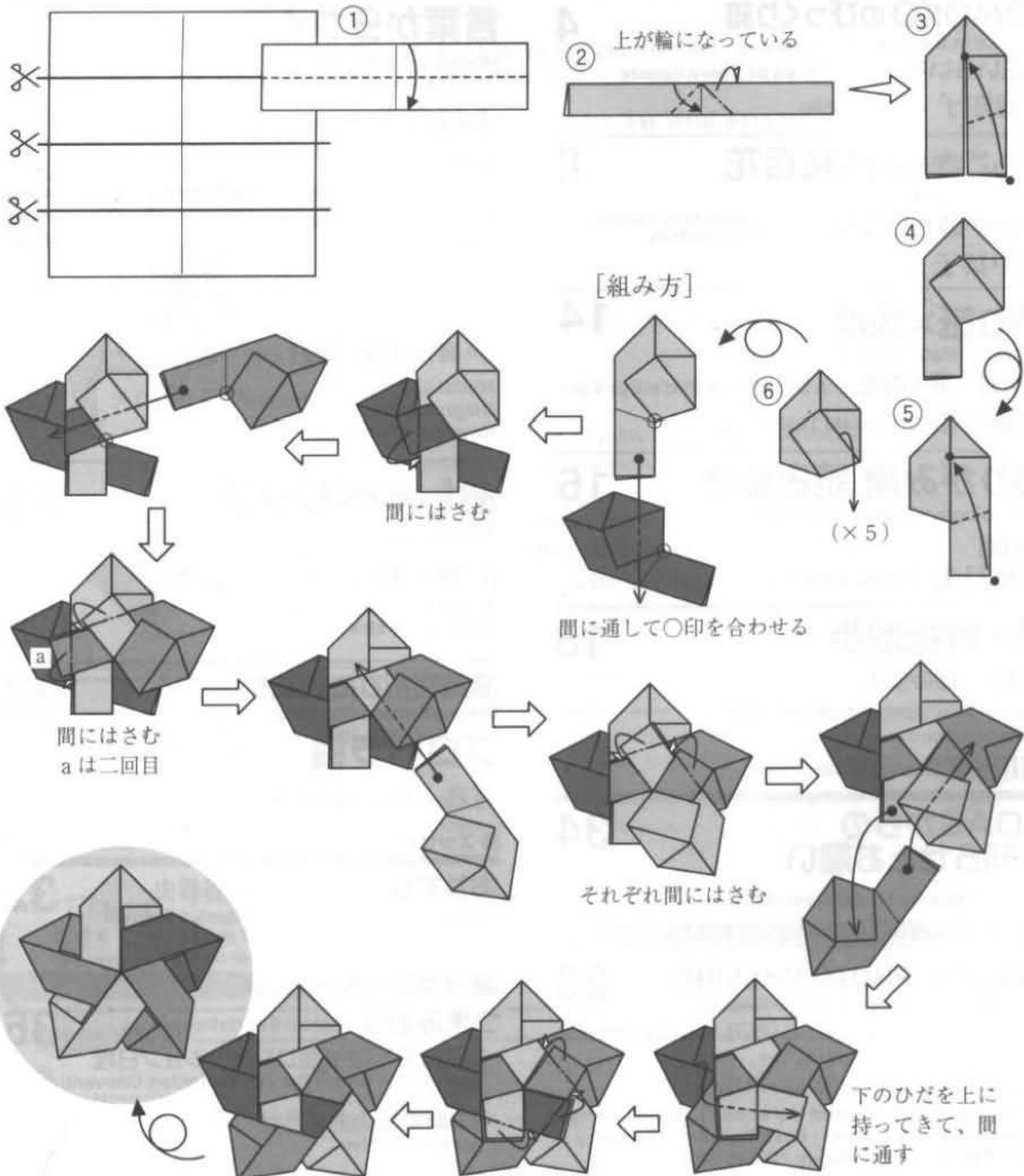
Renewal Notice

梅花いろいろ

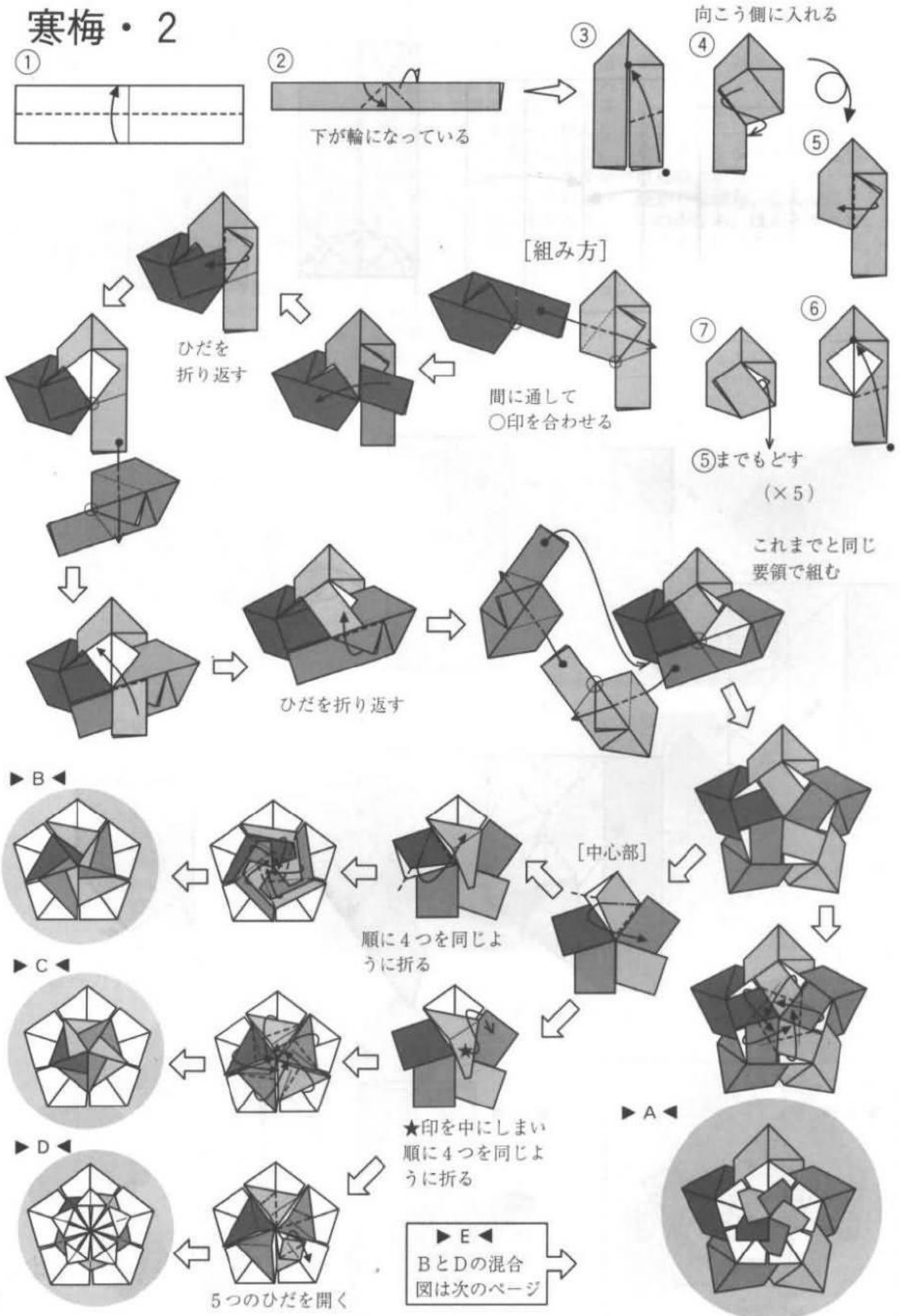
5枚で組む花です。大雪で朝から停電した日に、寒さにうちふるえながら考えました。「寒梅・2」はたくさんのバリエーションができます。角度の出し方は伝承方式で誤差がありますが、それほど気になりません。しっかりしたできあがりになります。



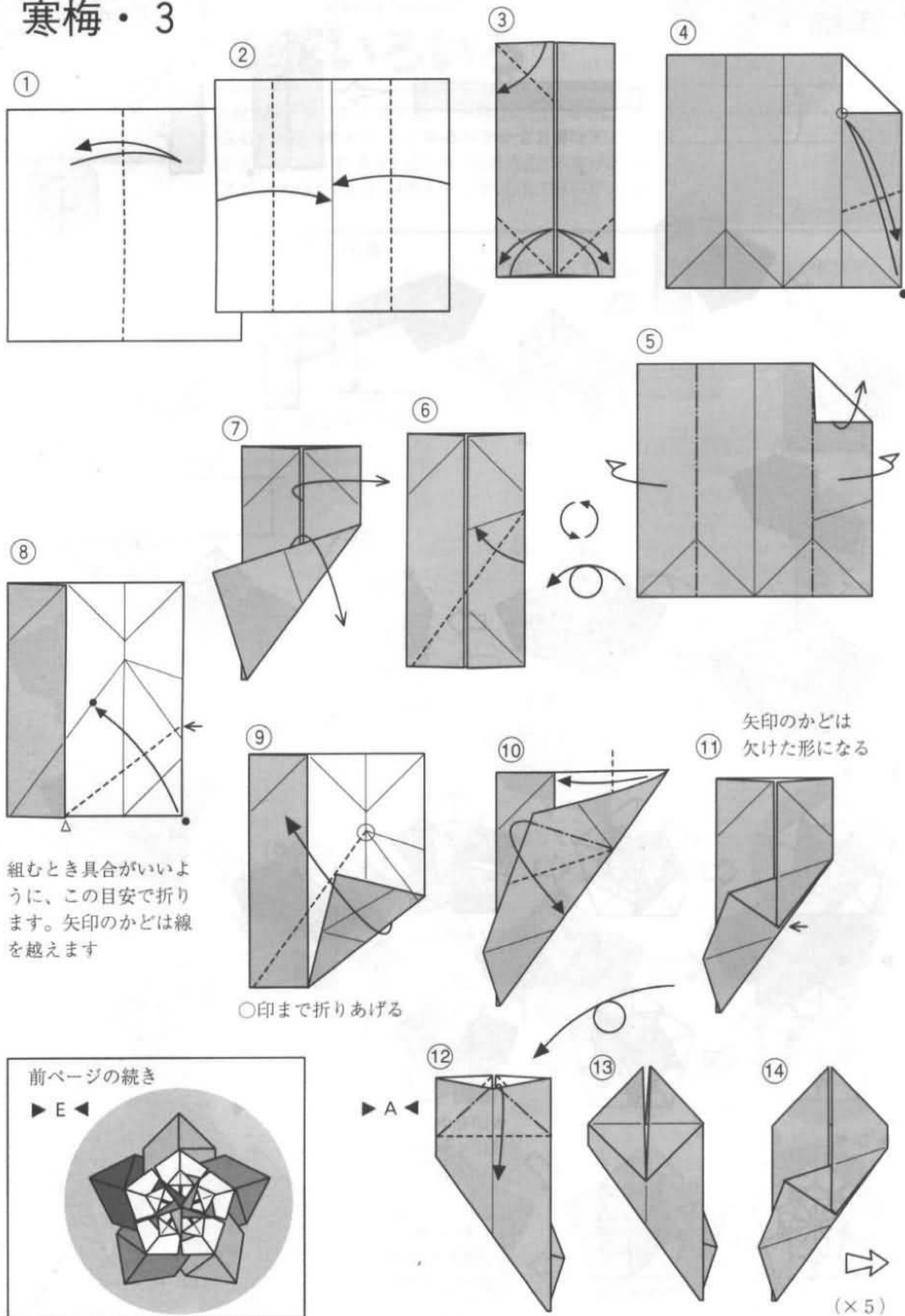
寒梅・1 始めにふたつに折ったとき、どちらが輪になっているかで寒梅1と2に分かれます。



寒梅・2



寒梅・3



ショートエッセイ「薪風呂」

15年間薪で焚いていた風呂を昨年末、ついに灯油に変えた。その据え付けを連れ合いのタロ氏がしていると、ちょうど郵便屋さんがきて、手際を検分しながら、「薪の方がいつまでもほかほかしてあったまるのに。壊れたわけでもないのに、何でまた……。この釜。もらっていいかね」

この郵便屋さんは、こちらで不用になったものをあちらに。あちらで場所ふさがぎになっているものをこちらに、と配達方々情報を集めて配分の世話を焼くのが好き、というか、それらを見ると頭をめぐらせる性分、というか。私たちも中古の耕耘機や、

車庫を作る材料を世話してもらった。話がそれた。薪は一、二度、森林組合で整形で出る廃材を買ったが、99%は何とか周りで調達した。木を運んで、チェーンソーで切り、積んで乾かす。生木のなんと重いことか。積んである薪の間に毎年ヤマカガシが住んだ。薪を取ろうとしてお互いにびっくりしたことが何度かあり、薪をとるときはコンコンたたいて合図をすることにした。でも、ときどき忘れてしまい、そんな時にかぎって「あぎゃ！」

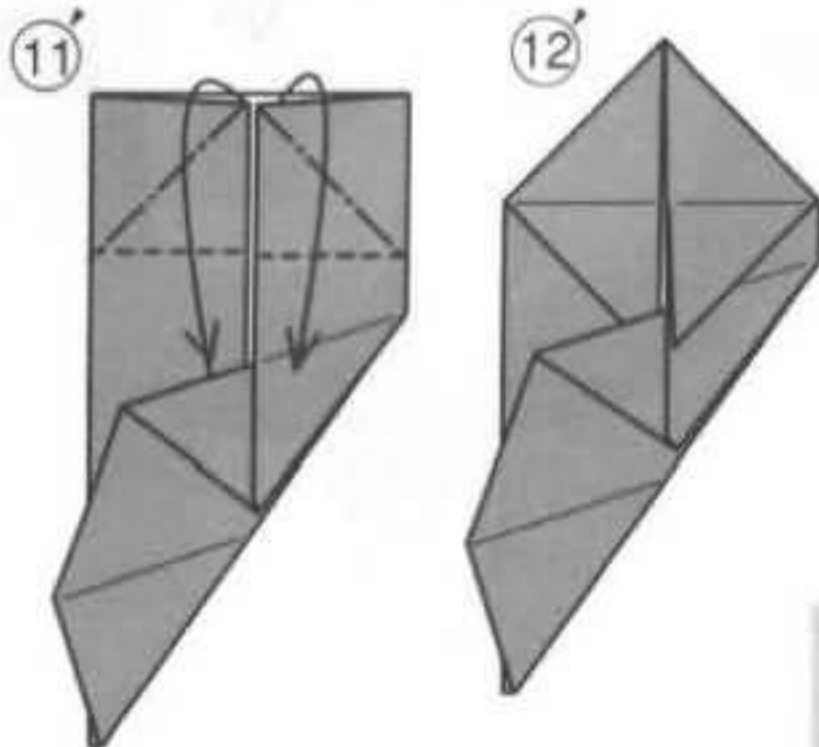
子どもで解ったことがあるらしい。朝、杉の枝に引っ掛かった、それは

それは可憐な抜け殻を見つけ、今コレクションの箱に収まっている。カントリーライフで薪ストーブは人気なのに、薪風呂は見向きもされない。薪風呂を入りこなすには年期がいる。日常の不便を風情と感じるに必要なものはテクニックではなく年期。それをやめちゃった私たちは、けむの上がらない風呂にらくちんに浸かりながら、こんなにラクしていいのかなあ、ほんとラクだ、やっぱりこんなにラクだったんだ、とあつという間に風情も年期も忘れ果て、にこにこしている。

「火を燃すのにあきちゃったんです」と郵便屋さんには答えた。

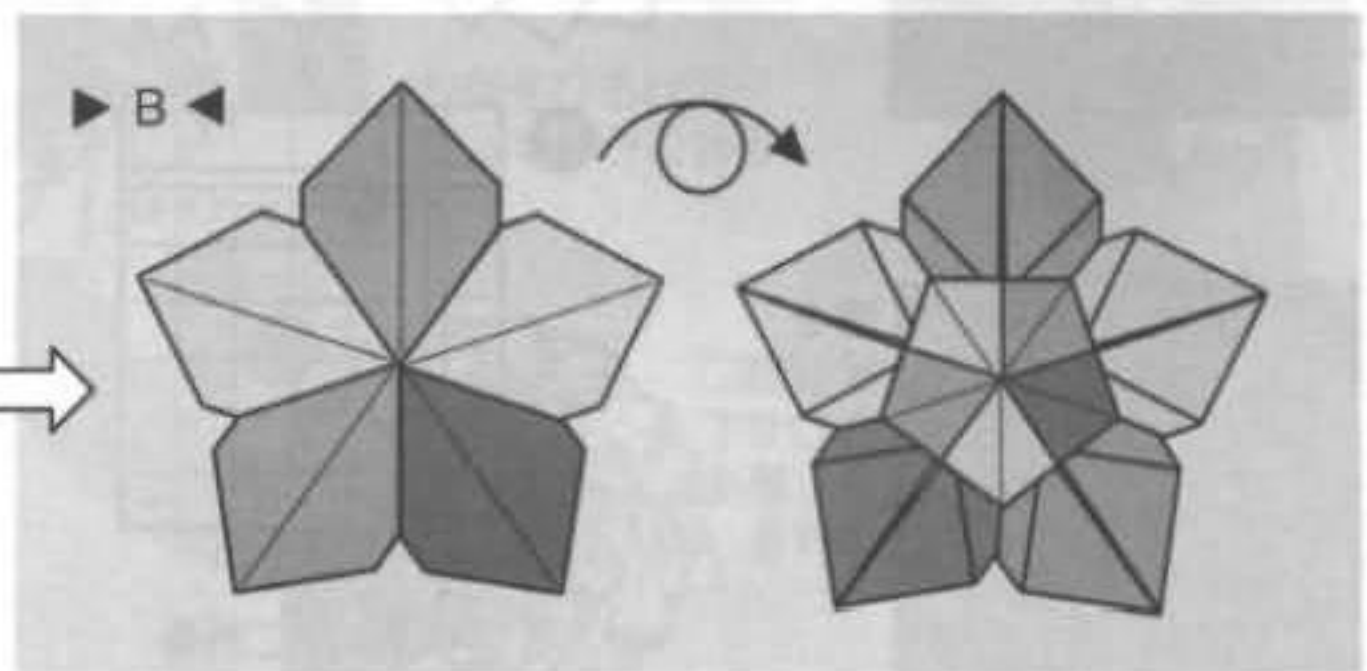
▶ B ◀

左ページ⑪から

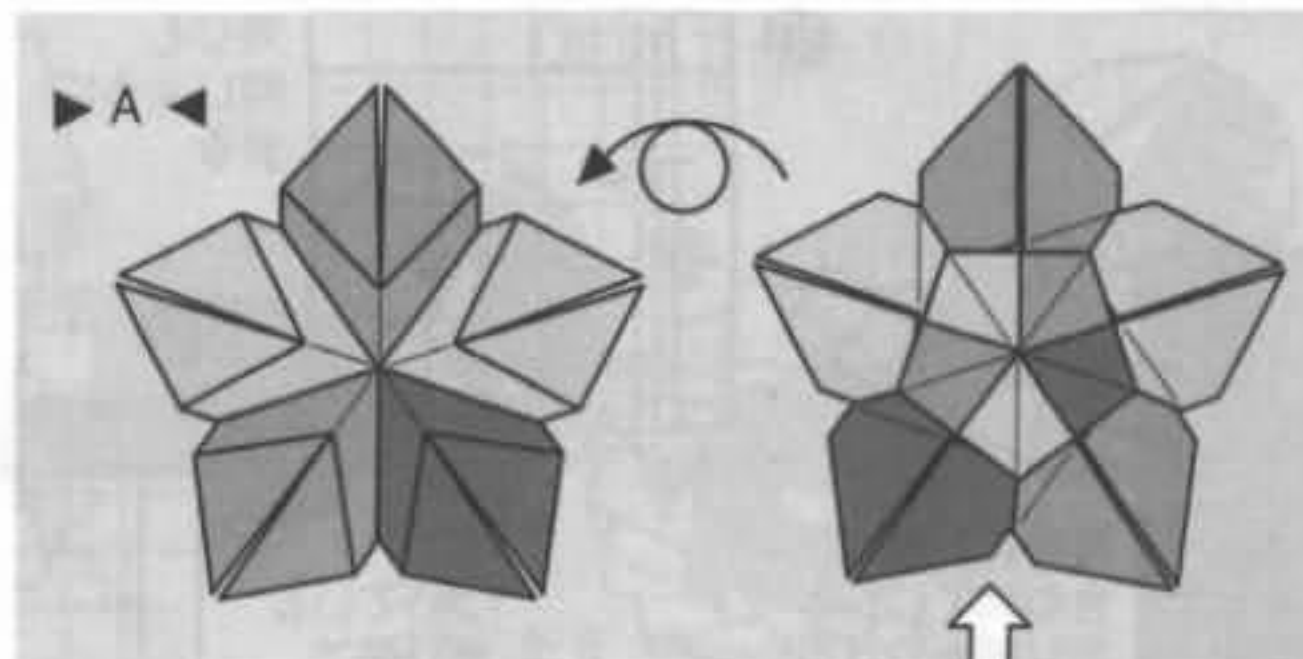


どちらを表にしても
かまいません

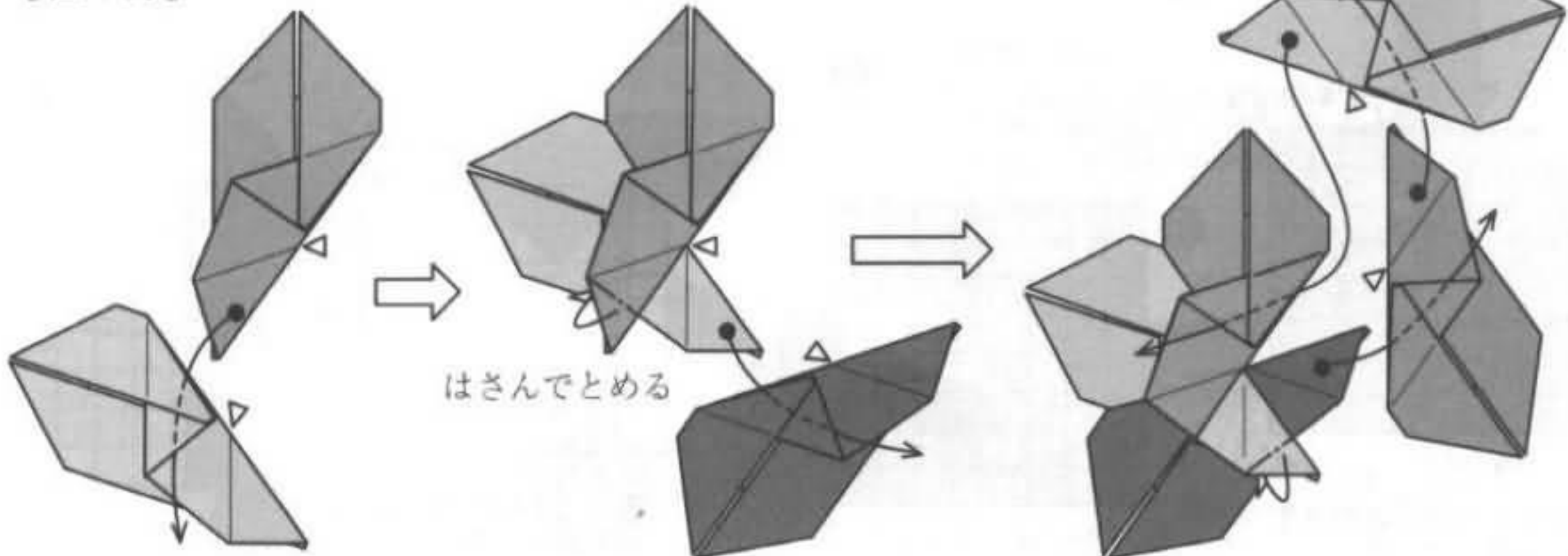
▶ B ◀



▶ A ◀



[組み方]



間に通して△印を合わせる

はさんでとめる

以下、同じ要領で組んでいく

ももこさんの 色紙 しきし ひゃっか 百花

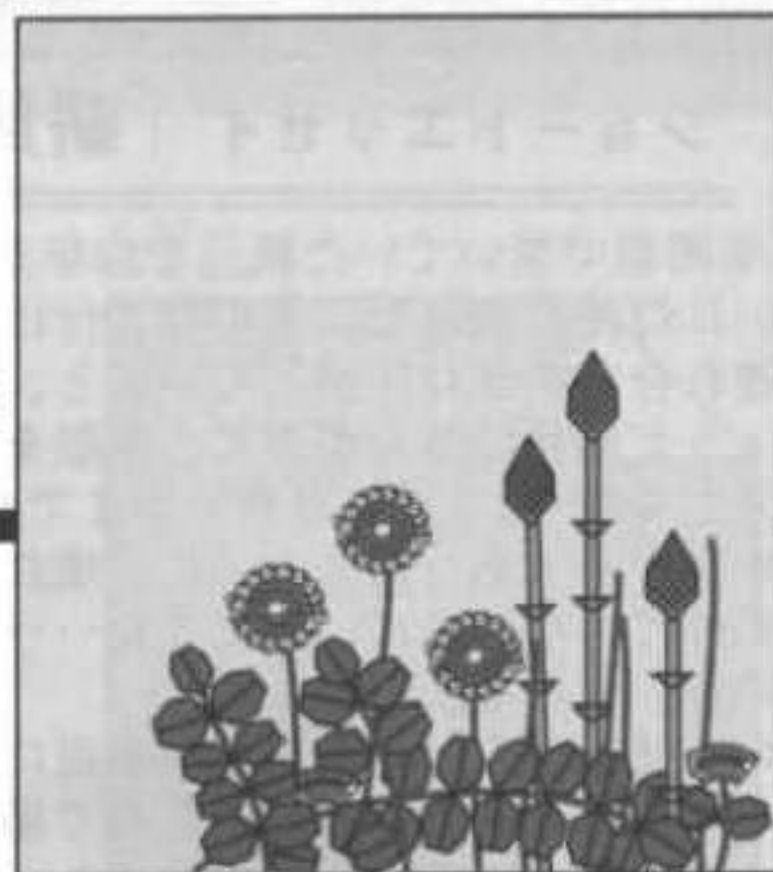
レンゲ草とつくし

Chinese Milk Vetches and Horsetails

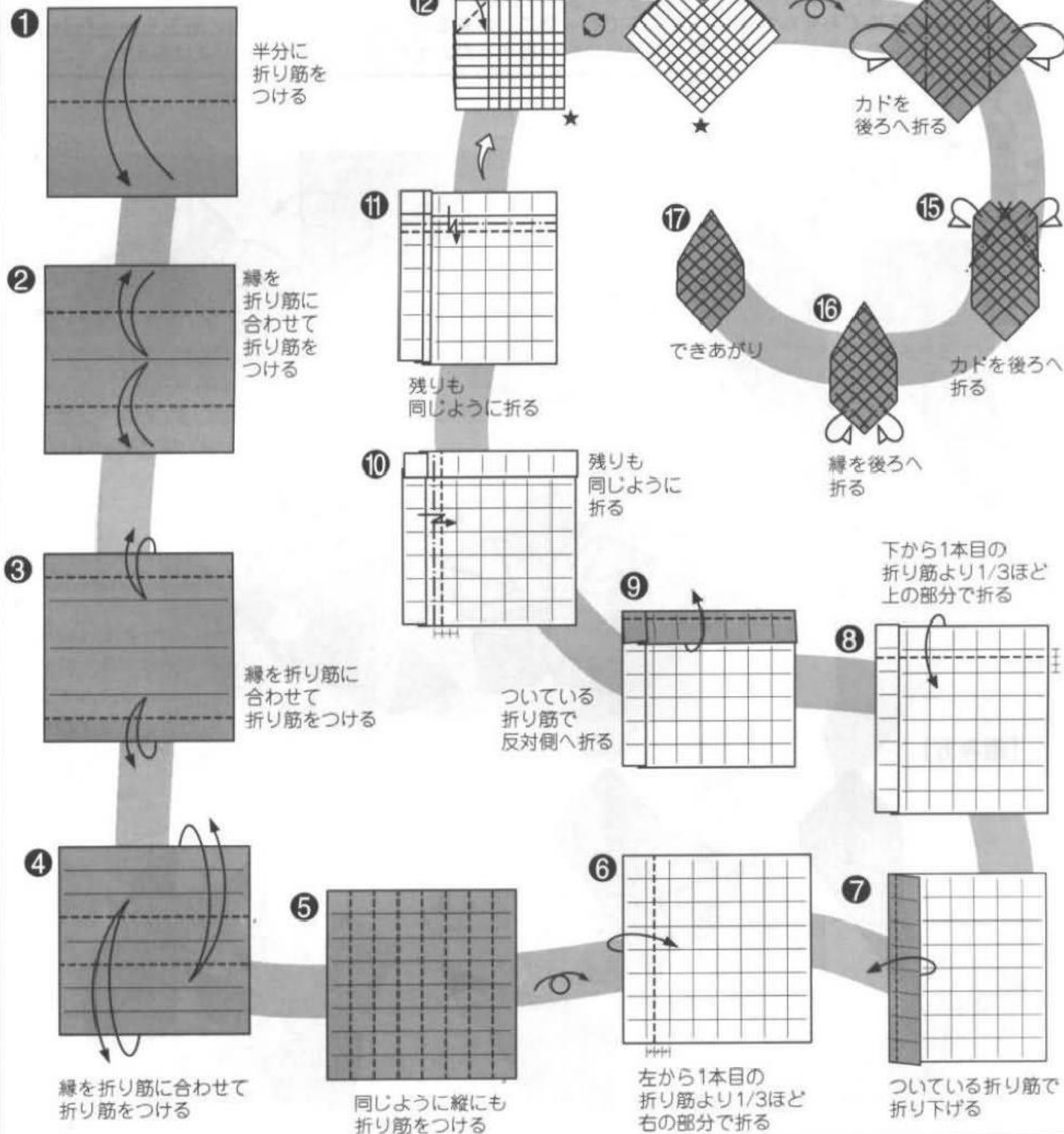
田中具子

Tanaka Tomoko

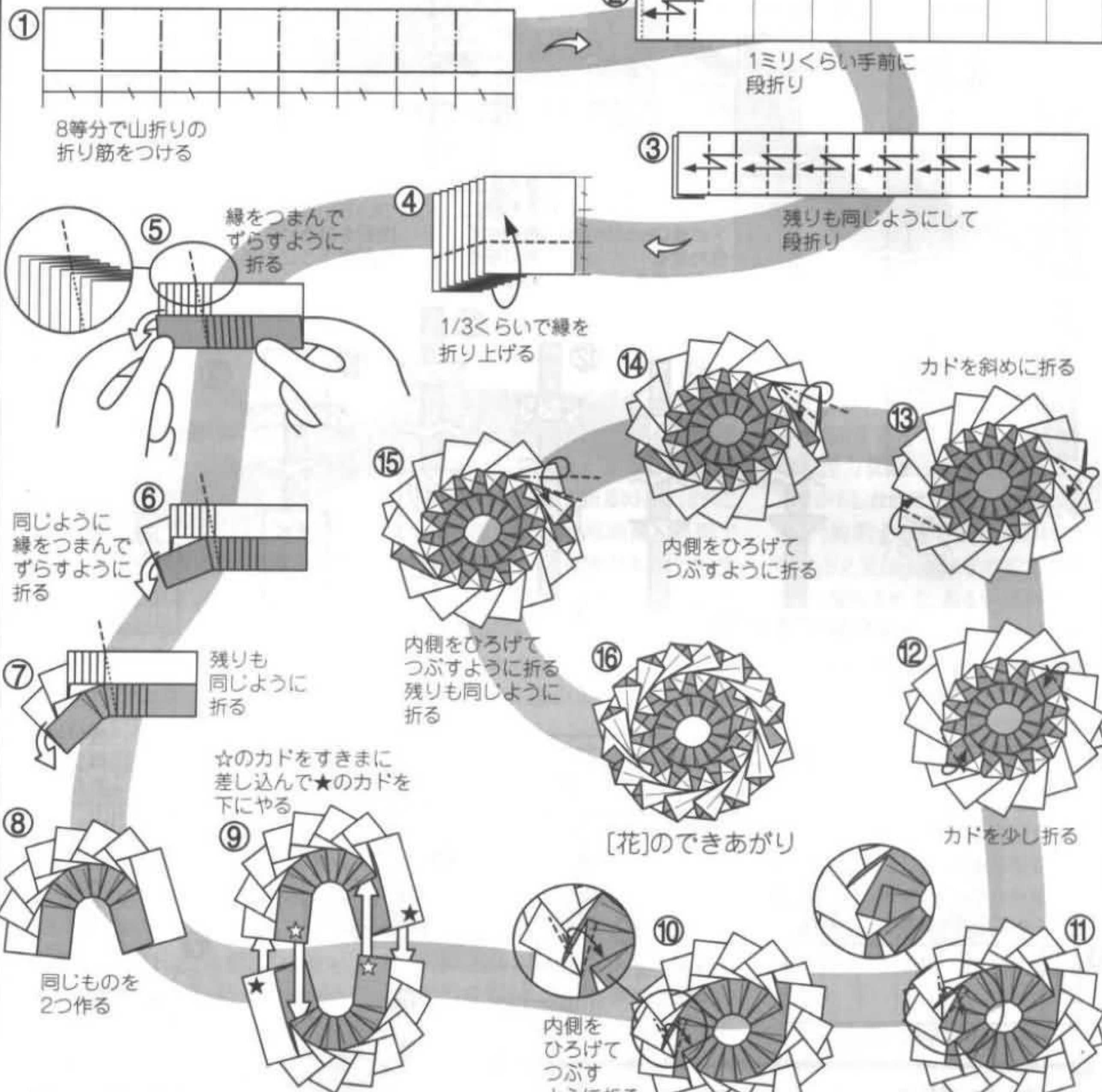
細かい折りが多いので丁寧に折りましょう。
つくしのじくの節は好きなところに作って下さい。



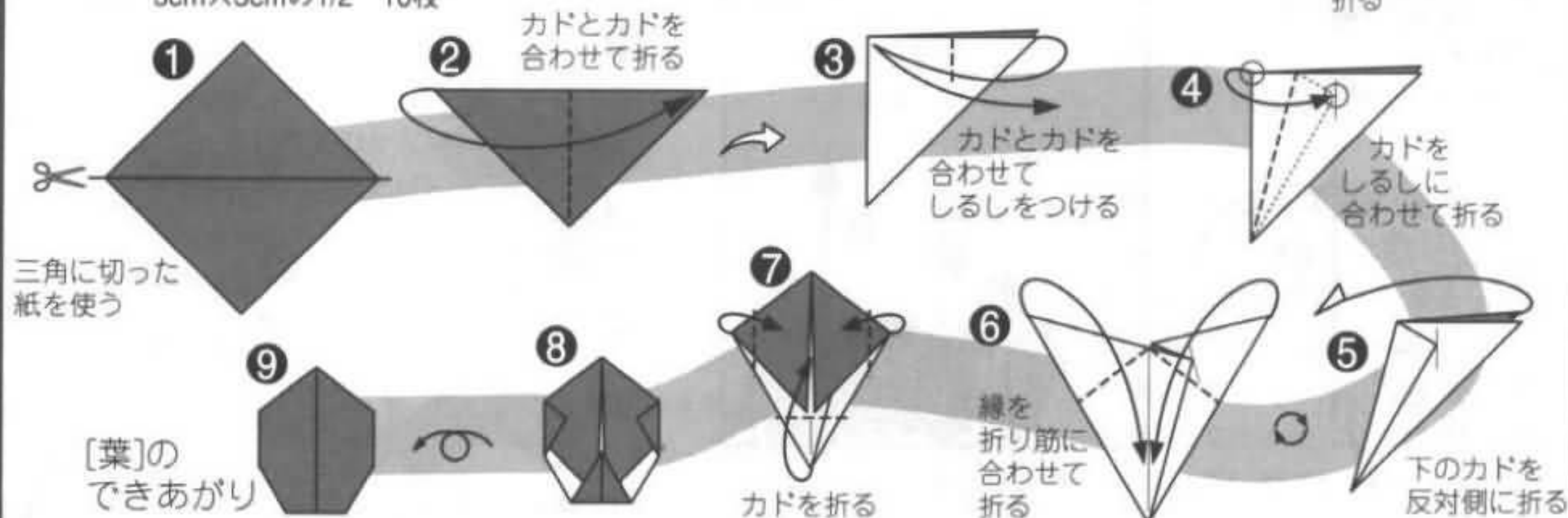
[つくし] [つくし]の大きさ
5cm×5cm 2枚
4cm×4cm 1枚



[花] [花]の大きさ
2cm×15cm 6枚

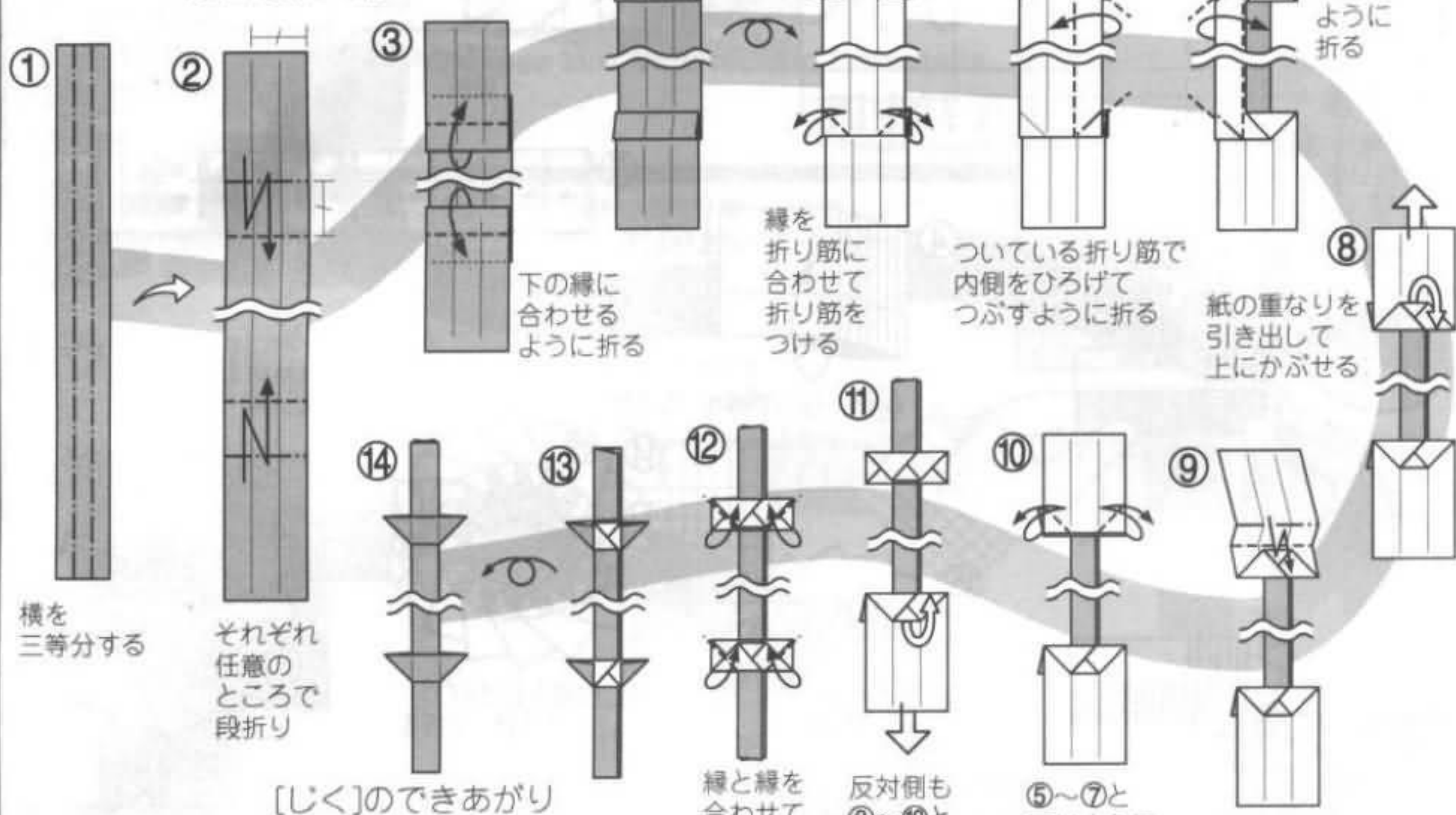


[葉] [葉]の大きさ
3.5cm×3.5cmの1/2 22枚
3cm×3cmの1/2 10枚



[じく]

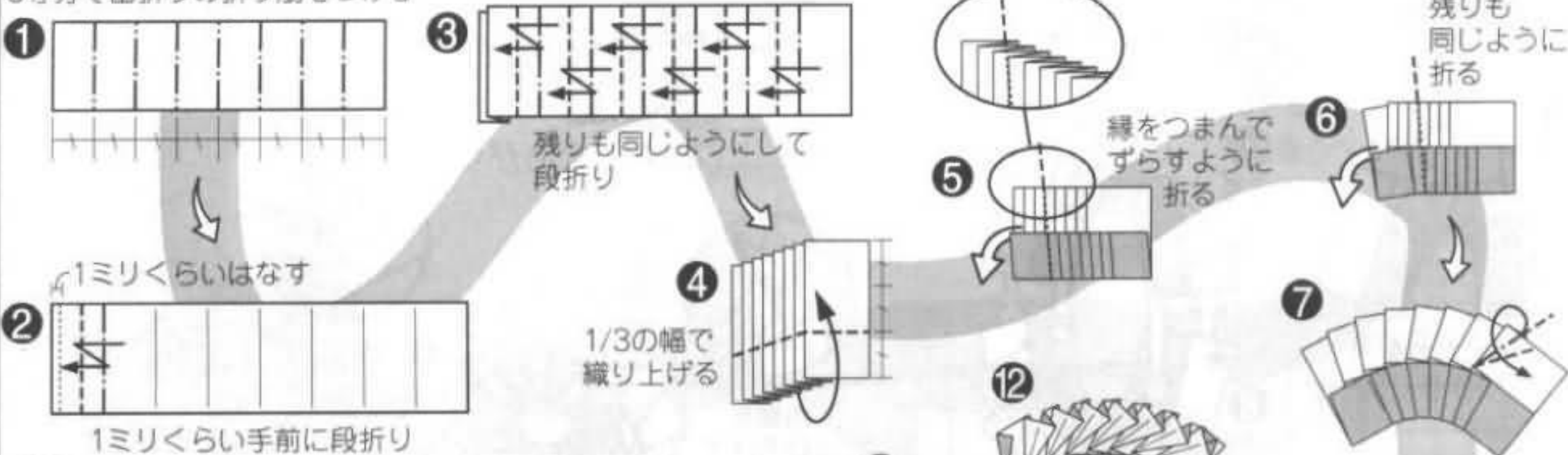
[じく]の大きさ
1cm×20cm 1枚
1cm×15cm 1枚
1cm×10cm 1枚



[つぼみ]

[つぼみ]の大きさ
2cm×7.5cm 2枚

8等分で山折りの折り筋をつける



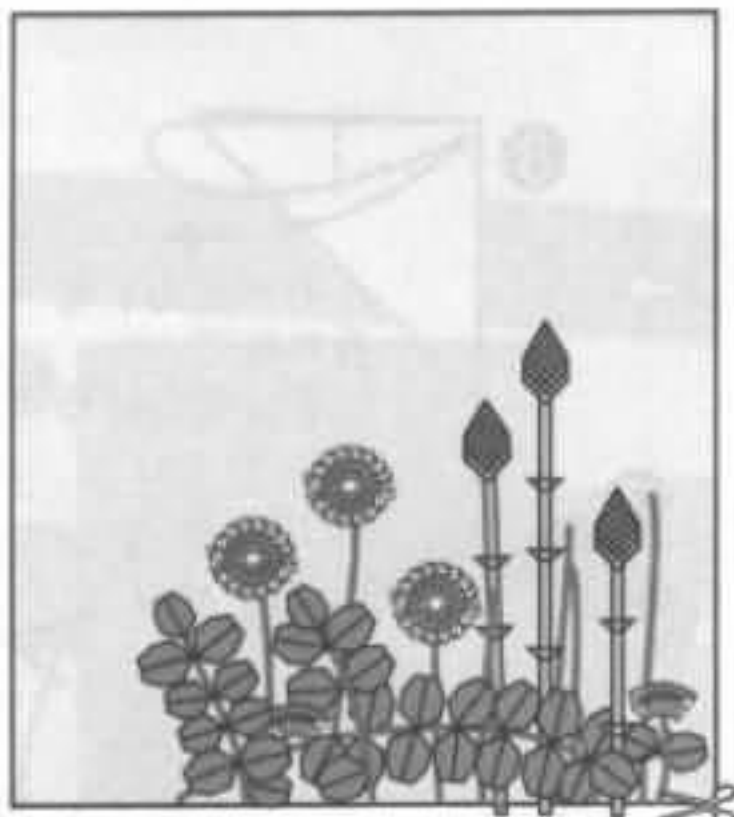
[くき][草]

[くき]の大きさ
1.5cm×30cm 1枚
[草]の大きさ
0.5cm×30cm 1枚

こよりに
よった紙を
レイアウトを
考えて切ったり
曲げて使う



[組み方]



重なりを
考えて奥から
レイアウトする

言葉からつくる

龍の再生

Modeling from Words: Re-Creation of Chinese Dragon

木村良寿

Kimura Yoshihisa

題 名で言い尽くしてしまった感もありますが、創作における初期の段階としてのイメージ生成について演習をしてみます。

創作の題材として架空の生物を作ってみようかと思えます。ここで言う架空の生物とは、ドラゴン、ペガサスなどの伝説上の生物です。

なぜ架空の生物なのか。現存する生物ではその姿形ははっきりとわかっています。いわゆるリアルな造形をするなら、目指す姿は誰でもほぼ同じになるでしょう。一実際は必ずしも同じになることも限らず、「平凡な題材をいかにして自分なりに表現するか」というテーマも考えられます。それは作家性そのものに連なっていく内容になるのですが、今回はひとまず他人と同じ完成形にならない為に全く同じ形を題材とはしない、という仮定で話を進めます。

で は、実在しない生物の姿をいかにして思い描くか。伝説上の生物の絵や彫刻などはそれこそ無数にあります。それらの内、特定の一作品をモチーフとした場合、イメージがはっきりすぎて実在の生物を作るのと大差なくなってしまう。逆に、たとえばドラゴンに関するあらゆる絵や彫刻を渉猟して総合的イメージを作り上げるというのも相矛盾することが多くてまとまりがつかないでしょう。(総合的イメージを作る作業というのも面白いかなとは思いますが)

少し話は飛びますが、架空の生物と

いうことなら特撮映画の怪獣・宇宙人やアニメのキャラクターもそうです。これらははっきりとした画像があるので、伝説上の生物の絵を見て折るのとはほぼ同じであると言えます。実写映画の怪獣ではぬいぐるみという実物があるので、実在の生物とそう大きくは変わりませんが、アニメ・漫画のキャラクターの場合は既に簡略化された表現がなされているため、一本余計に線が入っただけでも台無しになってしまうこともあります。そういった意味ではアニメ・漫画の方が折紙の題材にはしづらいのでしょうか。また、こういった実写・アニメも含めたキャラクター物とは過去に誰かが作り上げた作品です。そういった物を折紙の題材にする時は「自分は他の人の作品の縮小再生産をしているだけではないのか?絵の模写をしているのとどこが違うんだろう?」というある種の虚しさに捕らわれることもありました。自分の作品は、大好きな物に対するオマージュ(献辞)であると割り切れば良いだけなのかもしれませんが、更に、極めて世俗的ですが、マルC物は許可があるので発表しづらい一面もあります。閑話休題。

話 を戻して、架空の生物にはそれを描写する言葉があります。それを元に造形イメージを固めていこうというのが今回の演習の内容です。

架空の生物を描写する言葉は、SFやファンタジー、怪奇小説などには沢山出てきますが、読んでみると実在の生物の

つぎはぎにすぎなくて落胆することもあると思います。しかし、それは読み手側が想像力貧困であると言われたらそれまでかもしれません。そう、言葉は聞き手がどう解釈するかが肝心なわけですから、たとえ元はつぎはぎの言葉でも自分なりに膨らませる、あるいは昇華するという作業でイメージが作り上げられるはず。そのイメージが「架空の生物の絵」であると見なせるわけです。

で は何を題材とするか。たとえばペガサスは「翼の生えた馬」です。全くそのまま姿もまとまりが良すぎて、今回の題材としては面白みがありません。ぬえ(の声でなく怪物)やキメラはつぎはぎであること自体が特徴ですので、ある意味つぎはぎのままで十分とも言えます。

そこで、龍を題材としてみました。その理由は

1. 一般的な共通イメージがある。
2. 言葉での描写もあるが一般的イメージとは少々ギャップがある。

この2点からです。

言葉での描写を書き写してみよう。

一龍は、中国の漢以降にできあがった「9似説」という考え方によっていて、9つの種類の動物によく似た姿をしていると言われます。すなわち、頭はラクダに、角は鹿に、目は兎に、首は蛇に、腹は蟹に、鱗は魚(または鯉)に、爪は鷹に、掌は虎に、耳は牛に似ているとしています。(中

言葉からつくる

龍の再生

Modeling from Words: Re-Creation of Chinese Dragon

木村良寿

Kimura Yoshihisa

図1 9似説の龍



図2 折り紙的表現

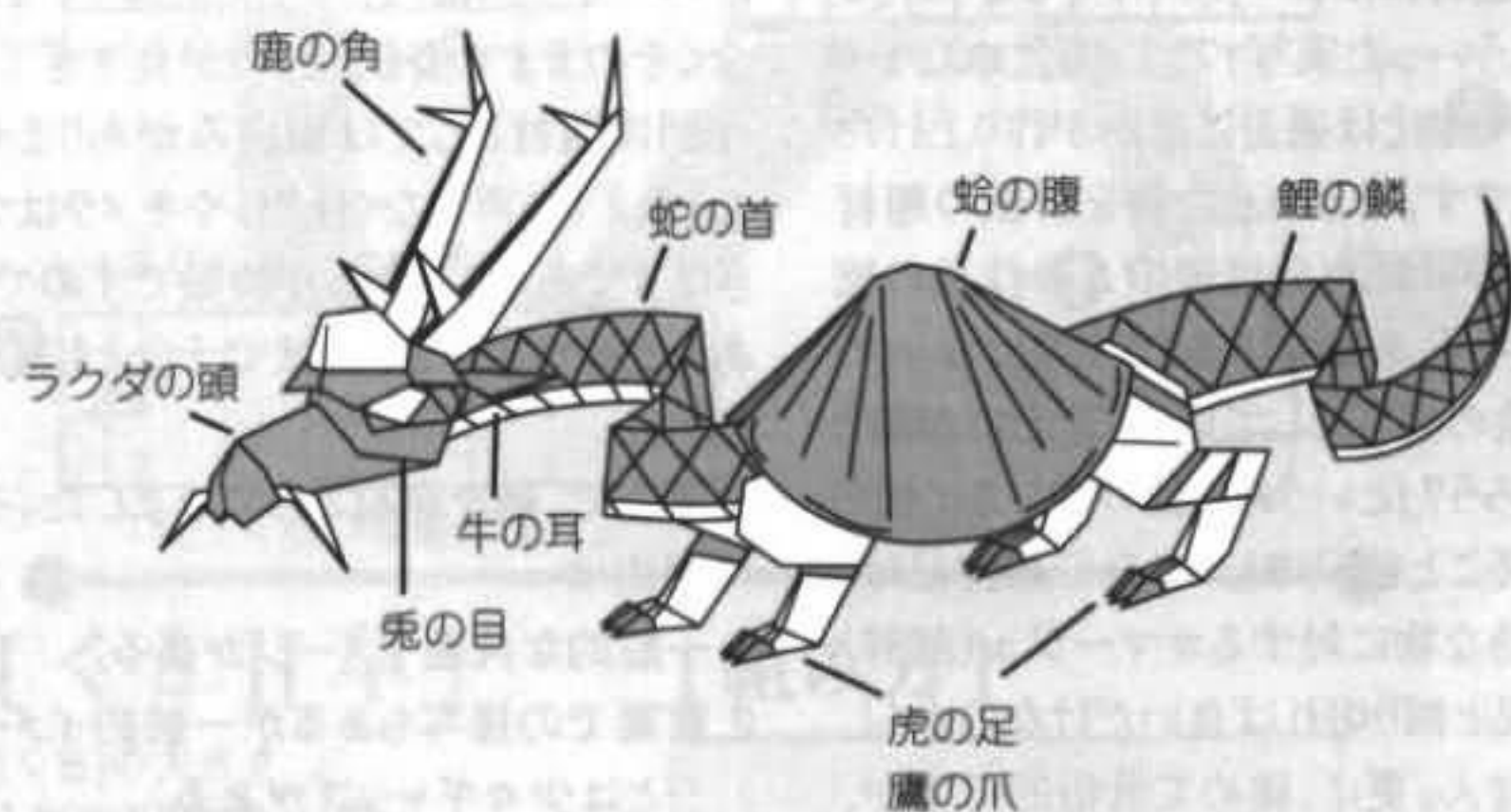
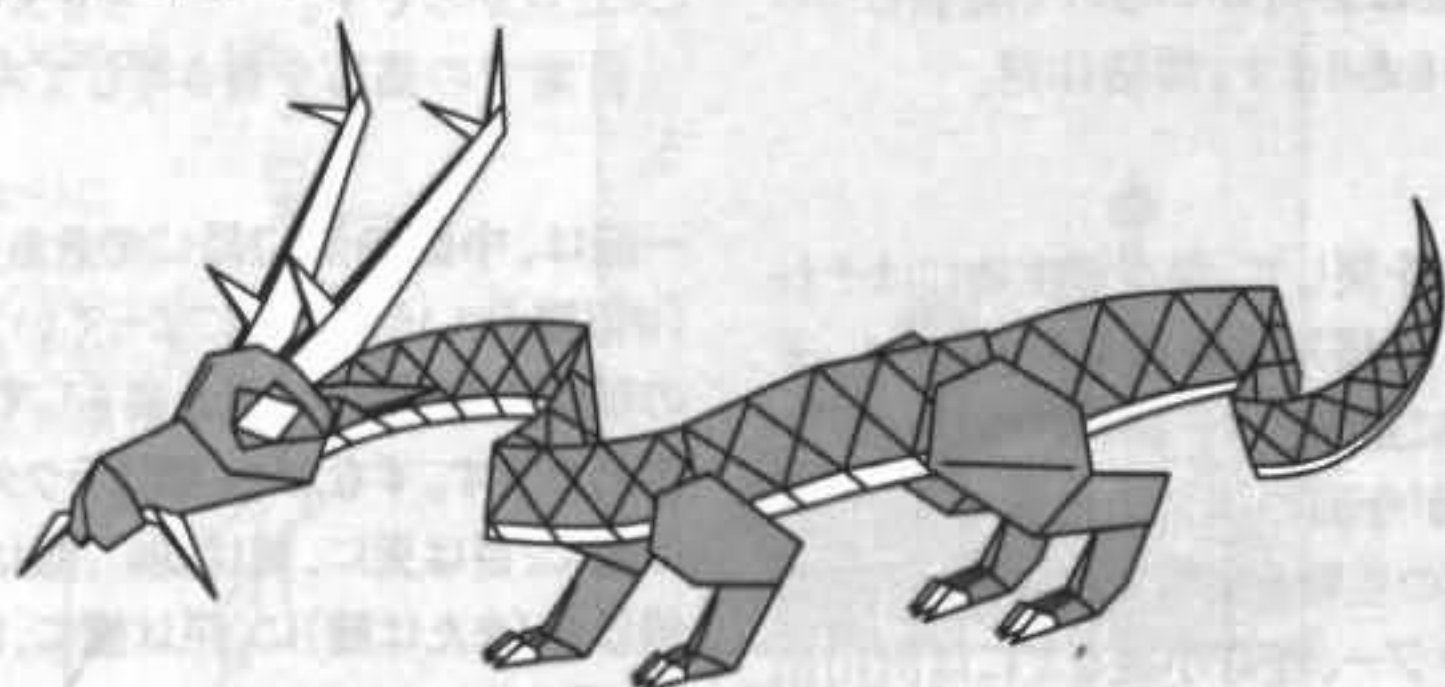


図3 「普通の龍」に近づいたか



略)口もとには長い髭があり、(中略)頭の中央には、博山と呼ばれる肉の盛り上がりがあり—(「幻獣ドラゴン」苑崎透・著 新紀元社・刊より)

他にも龍を表現する文章はあるようですが、この言葉から馬鹿正直に龍の絵を描いてみると(図1)・・・なんとも珍妙な生物が生まれてしまいました。おそらく、皆さんの脳裏にある龍の姿とはかなり異なっていることでしょう。

蟹とはハマグリのことですが、はたしてこんな解釈で良いものか。特に記述がないので尾も蛇です。また、虎の掌でなく手足としました。

現時点では「9似説の龍の絵」が目の前にあるだけの状態です。では、もし折紙で作ったらどうなるか、イメージを変換してみましょう。(図2)一枚折りには無理があるかもしれませんが、各部品は何とか折ることが可能でしょう。

未だに、ハマグリの腹がなんともおかしい風情です。では違和感の元凶たるハマグリと虎の縞、額の盛り上がりを取り去ってみると(図3)。この姿ならば一般的な龍のイメージとはそう大きくかけ離れてはいないのではないのでしょうか。実際に足が長い龍の図案も存在しています。ただし、一般的なイメージに合わせるといった操作がはたして表現を行う上で適切な行為かという疑問は残ります。理解されることを考慮しての行為なら一概に否定も出来ませんが、そもそも自分独自のイメージを作り上げるはず

○木村良寿(きむら よしひさ)=1959年東京生まれ。折紙探偵団初代団長。代表作は「走るダチョウ」じゃなくてこの場合はフェアリーとブラックドラゴン。



だったのでは?実際、誰を観客として想定するかによって表現が異なるのはごく自然なことでしょう。ただ、「最初の観客は自分」は現実ではあると思いますが、「唯一の観客が自分」ではあまりに寂しすぎる。「自分独自」と「広く理解される」とは表現者にとっては常にせめぎ合う物なのでしょう。

ところで、このような「言葉からつくる」イメージングは、はたして折り紙創作において例外的な作業でしょうか。たとえば、生物の姿形そのものを思い浮かべるより先に、「昆虫は足が6本ある」「キリンは首と足が長い」など、まず最初に必要条件としての言葉を満たそうとして創作を行う場合も少なくないように思われます。その言葉、つまり条件を満たしさえすれば、必ず優れた作品になるとは限りません。逆に必要条件(どの部分がどうである)は満たしていないのに、十分条件(そのモチーフに見える)をクリアしている事がままあるのが折紙の面白いところです。

こう書くと、「何々がどうであるなどという言葉にこだわってはいけない。折紙を創作する場合は、何よりもその題材となる物の形そのものを正しく捉えることが大事だ。」と主張しているように読めるかもしれませんが。たしかに私自身そんな考えを持つ場合もあります。しかし、今回はそう言いたいものではありません。

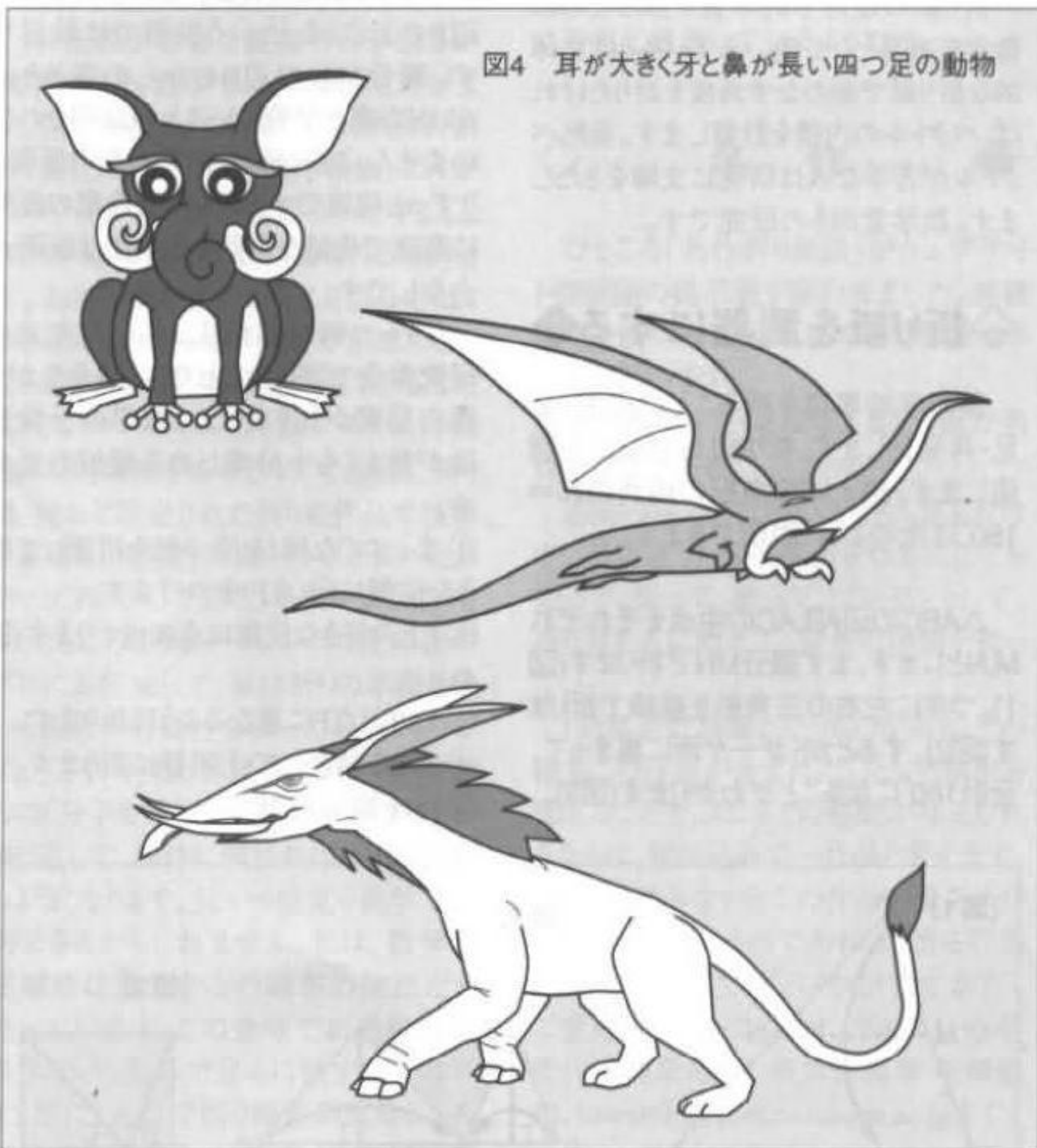
この演習を行ってみて生まれた感想は、題材を咀嚼し直すことによって、既

存のイメージに拘泥されない自分なりの表現形が生まれる可能性があるという事です。たとえば「耳が大きく牙と鼻が長い四つ足の動物」のキーワードのみでゾウを折ってみたら、各人各様の面白い結果が出るのではないのでしょうか。(図4 あれれ、どれもこれもゾウに見えたものじゃありません。必要条件は満たしているはずなのに、十分条件にはほ

ど遠い、いやこうなるとイメージの迷走状態ですね。)

もちろん、題材の咀嚼とは言葉についてのみ限定するものではありません。最初の頃に戻ってしまいましたが、どんな題材であろうと解釈の仕方さえ考えれば、決して作り尽くされることはないと言えます。

図4 耳が大きく牙と鼻が長い四つ足の動物





○川崎敏和＝1955年11月26日生まれ。九州大学理学部数学科卒業。専門は代数的整数論。博士課程2年より研究テーマを折り紙の幾何学に変更。佐世保工業高等専門学校基礎専門科目助教授。



川崎敏和 Kawasaki Toshikazu

第5回(最終回) — 俯瞰+夢 — A Dream in a Bird's-Eye View

◇ 折り紙×数理の主役 ◇

数学による折り紙の解析、折り紙を用いた数学の解説。折り紙と数理の関係はこの2つに大別されます。折り鶴変形や本連載第2～4回は前者、オリガミクスや阿部恒氏の角三等分折りは後者です。

◇ 数学を武器にする ◇

折り紙の幾何学的本質を探るために数学を道具として使います。例えば立体的な折り紙で面のなす角度を計りたければ、ベクトルの内積を計算します。当然ベクトルが苦手な人は研究に支障をきたします。数学者向きの研究です。

◇ 折り紙を武器にする ◇

幾何学的事項を折ることで説明・発見・再発見します。折り紙は道具として機能します。例えば三角形の内角の和＝ 180° は次のように説明できます。

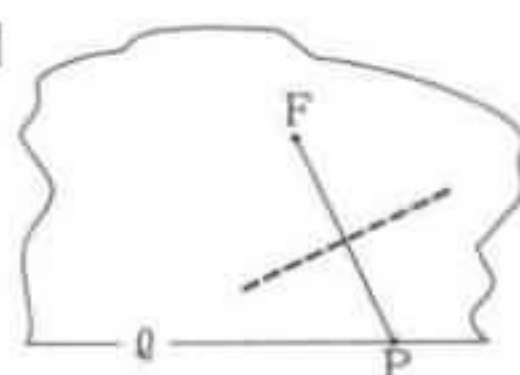
$\triangle ABC$ の辺 AB, AC の中点をそれぞれ M, N とします。まず線分 MN で折ります(図1)。つぎに左右の三角形を垂線で折ります(図2)。するとカドが一ヶ所に集まって、合計 180° になることがわかります(図3)。

この証明の売りは視覚と触覚による体感です。教科書にあるような数式や文字の羅列を追う煩わしさはありません。三角形の内角の和＝ 180° が活字としての知識ではなく、砂糖は甘いと同レベルで認識できます。しかし厳密さに欠けるといふ欠点もあります。 MN で折ったとき頂点 A が底辺 BC の上にあることや3つのカドが一ヶ所に集まることなどがきちんと証明されていません。「三角形の高さは、折り返しても変わらないから頂点 A は底辺 BC 上にくる」という説明では駄目です。線分 MN の辺 BC からの高さや $\triangle AMN$ の高さが等しいことが証明されていません。この証明は内角の和の証明よりずっと複雑です。基本的な命題の証明に高度で複雑な命題を用いては証明が台無しです。

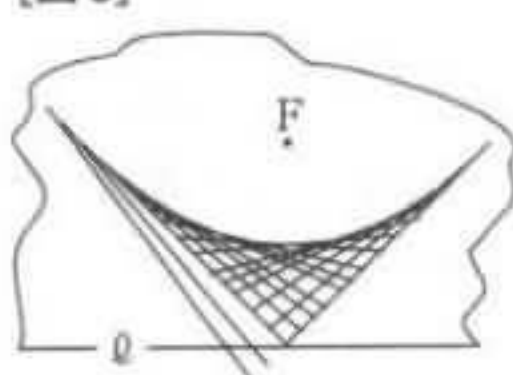
もう一つ例を挙げましょう。一昨年末の研究集会で習ったことです。残念ながら誰の発案か知りません。数学の予備知識が無くても十分楽しめる幾何折り紙です。

- ① まっすぐな線 l を持つ紙を用意して好きな位置に印(点 F)をつけます。
- ② l 上の好きな位置に点(P)をとります(図4)。
- ③ 点 P が点 F に重なるように折ります。
- ④ 点 P を移動して③同様に折ります。
- ⑤ ④を繰り返します。

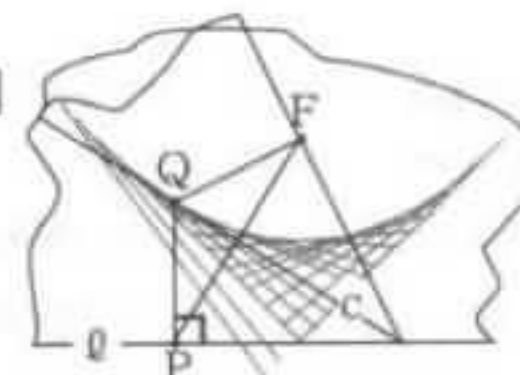
[図4]



[図5]



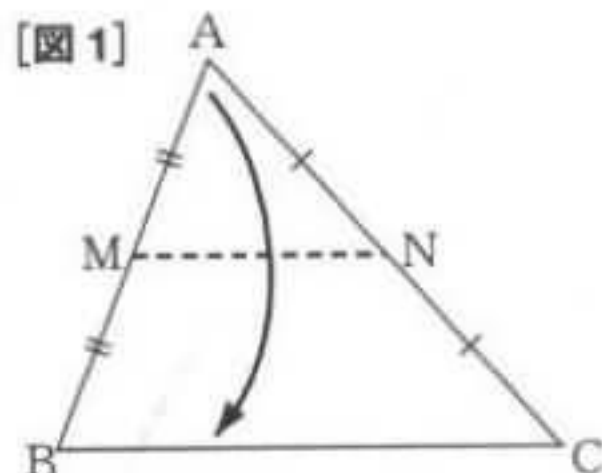
[図6]



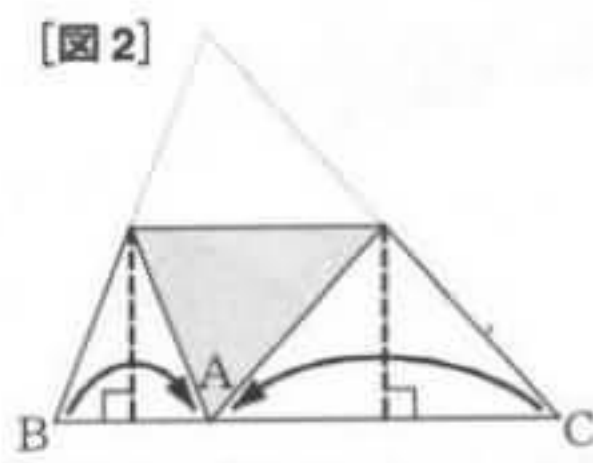
こうしてできた折り目の中から曲線が現れます(図5)。図6のように、曲線上の好きな位置に点を取り Q とします。次に点 Q を通る折り目 c で紙を折り、点 F と重なる点を P とします。 QF と QP は重なっているのので $QF=QP$ です。そして、長くなるので証明しませんが、 $PQ \perp l$ となります。焦点 F との距離＝準線 l との距離を満たす点の集まりが放物線になることが知られています。つまり図5の曲線は放物線です。二次曲線と焦点の関係が、折りを通して、体感できます。

図7は円の縁を定点 F に合わせるように折ったもので、図8のような楕円が現れます。

$QP=QF$ 、 $OQ+QF=OP=半径=一定$ となり、2点(O と F)からの距離の和が一定となる点の集まりが楕円を形成することが体験できます。双曲線も同様に作図(作折)できます。再発見の感動を味わってみませんか？



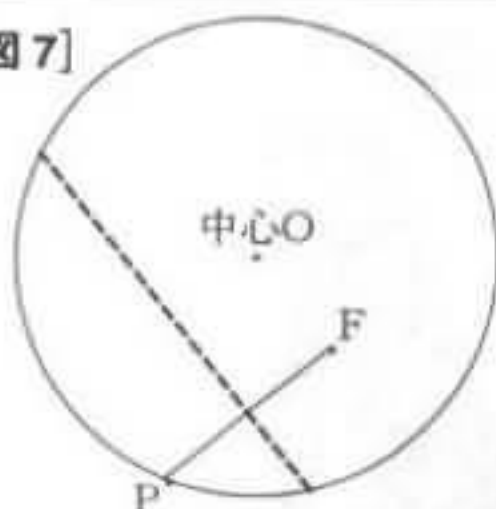
[図2]



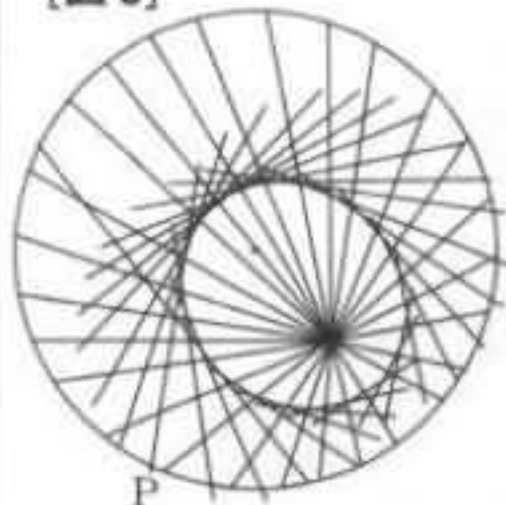
[図3]



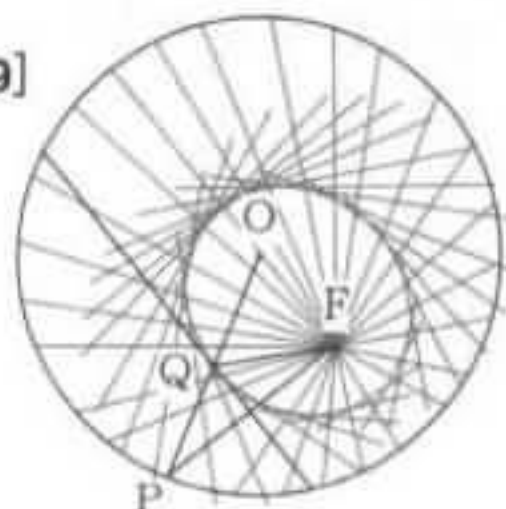
[図7]



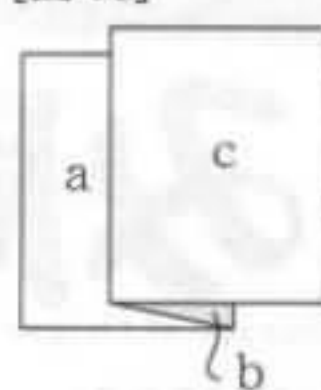
[図8]



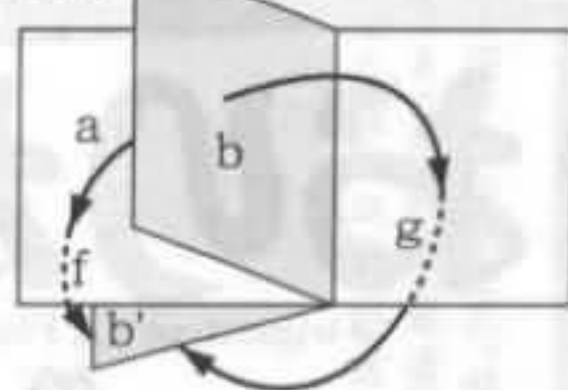
[図9]



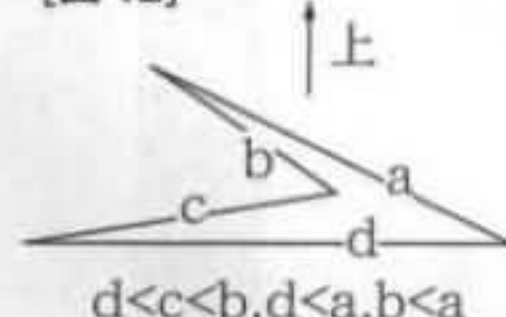
[図10]



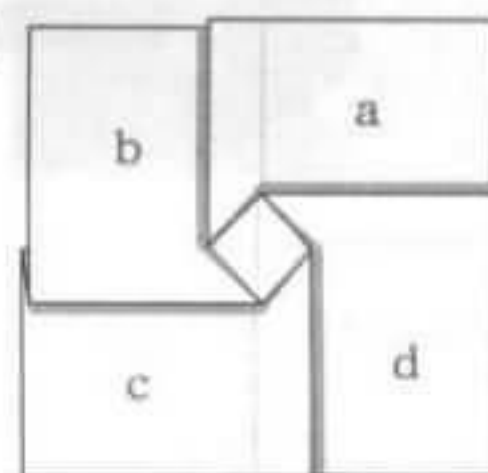
[図11]



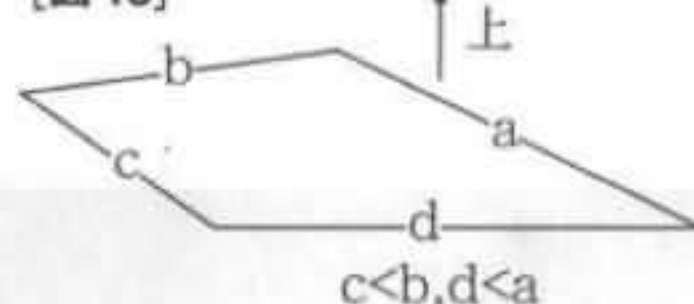
[図12]



[図14]



[図13]



です。そこでプログラム可能な制約条件: $a < b$ という関係はいきなり $b < a$ に変えられない。必ず面 b を面 a に重ならない位置に移動させてから $b < a$ とするを加えて折り f を排除します。

図12は折りたたんだ紙の切断面で、 $d < c < b < a$ となっています。図12の折りを変化させた図13では $d < a$, $c < b$ です。しかし a と b , a と c , c と d は重なっていないので上下関係を定める必要はありません。このように比較が必要な範囲での矛盾ない順序づけを、数学では、半順序と呼びます。先の制約条件を満たしながらの、折りの変化に対応した半順序構築。これがバーチャル折り紙開発のキーです。ところが半順序構築を妨げるものがあります。ねじり折りです。ねじり折りでは、 $a > b > c > d > a$ となって半順序が形成できません(図14)。ねじり折りを処理できるほど高度なバーチャル折り紙システムの開発には時間がかかりそうです。当面、折り鶴、兜など限定された折り紙作品で技術を蓄積し、汎用性の高いシステムへとステップアップしていくしかないようです。もっともこのようなチャレンジはその道のプロにお任せして、私は折りの半順序という概念の可能性を探っていくつもりです。うまくいけば、目黒俊幸氏が言うところの「分子を適当に組み合わせることを繰り返して、操作に慣れれば何でも折れるようになります。」という感覚を数学で説明できるかもしれません。私は、数学の醍醐味は渾沌からの調和の抽出だと思っています。この意味で折紙設計は数学という道具で登るに値する山系です。既に1合目で折り鶴変形理論という素敵な花に出会いました。半順序は芽

が出たばかりでどんな花になるか皆目見当が付きませんが、研究しないことにはその姿を見ることはできません。共に登り観察する仲間が欲しいものです。

⑥ 本連載で解説した通りです。

このほかに田中正彦氏により折り紙の複雑さという新テーマが提示されました(『折紙探偵団』61号)。また1月12日に仙台電波高専の海野啓明氏から論文「4次元折り鶴変形」が届きました。折紙×数理は着実に発展しているようです。

◆ 近年の成果 ◆

季刊誌を8号で折り紙の幾何学今後の課題①山谷問題 ②折り線図の組織的構成 ③局所構造の一般化 ④公理的折り紙の幾何の構築 ⑤立体的な折り紙 ⑥曲線折りを提示しました。5年経過した今、私が知る限りでは、①③ほとんど進展していません。②折紙設計の数学への取り込みの過程で折り鶴変形理論が生まれました。④原点は阿部恒氏の角三等分折りですが、岐阜大学の尼野一夫氏により数学として完全に体系化されました。⑤バーチャル折り紙が始まっています。情報処理学会誌に中京大学宮崎研究室の研究が載っています。私も10年程前に立体折りについて少し研究したことがあります。

その場合、紙の重なり順序が重要であることがわかりました。段折り(図10)では、 $a < b < c$ です。もちろん $a < b$ は、面 b が面 a より上にあることを意味します。紙の動きを数値計算で表現すると、紙は純粋な数学的な平面として振る舞います。数学の平面は紙と違って透過性を有します。仮想空間内の透過性を持つ紙では、本来あってはならない図11の折り f が可能

◆ 名作 ◆

ひところ「名作折り紙談」がウェブサイト探偵団の掲示板を賑わせました。連載の場を借りて、2001年私の名作観を書きたいと思います。

感動や喜びをたくさん与える折り紙が名作折り紙である。

感動の与え方は問いません。見るだけで、不切正方形一枚折りであることを知って、折って、飾って、プレゼントして、折り方を人に教えて、背景の理論を知って、…。

「折紙設計理論というものがあり、その結果この作品が生まれた。」という解説を加えることで、より多くの感動が与えられるならば、解説込みで一作品と考えます。

「折ってみないとこの作品の良さは分からない。」というのであれば、折る行為込みで一作品です。いかがですか？

ご意見お待ちしております。〒857-1193 佐世保市沖新町1-1 佐世保高専 川崎敏和、kawasaki@post.cc.sasebo.ac.jpまで。

おりがみ庵

Origami-an : A Philological Survey of Origami

第6回(最終回)

読み歩き

Okamura Masao

岡村 昌夫

『折紙と図画』

木内菊次郎著

実業之日本社発行、1908年

-明治の折り紙の総まとめ本-

明治41年に出版されたこの本は、なかなかの名著である。

当時盛んだった教科としての「図画」と「手工」を連結させるべしという説によって、手工科の一部だった折紙細工と図画とを連結させようという趣旨の題名であるが、内容は折り紙に重点を置いた編集で、「図画」は挿絵があるだけである。

前後編に分かれていて、前編「総論」では、教授法、多角形の性質、紙の裁ち方などの具体的な記述があって、実用的で参考になるが、この本の折り紙史上の価値は後編の「実習」にある。当時存在していた折り紙を総まとめ的に、基本的な折り方の型を中心に分類して、折り図つきで掲載しているのだ

が、凡例の最後にあるとおり「本書折方の名称は新案の外は皆従来用ひ来りしものを其儘採用し敢て独断的に名称を附せず。」という態度が史料として信用度を高めている。私が名著と呼ぶのはそこである。(ちなみにここで「折方」というのは「折る方法」ではなく「折った作品」の意味である。)

--実習編の内容--

後編は8集に分かれている。

[第一集]

「屏風」「折本」から「提灯」に至る12種で、「縦横に折る折方」(この「折方」は「折る方法」と説明されている。いわゆる「カンノン」がもとである。

この中で「催合船(もやひぶね)」(「二艘船ともいふ」とある)は「豚」と並べて掲載されていて、図からも現代の普通の「にそうぶね」ではないことが分かる。「和漢船用集」(1766年)の図と同じで

ある。普通のダブルボートは第三集に「風車」と並んで出て来る。

[第二集]

「斜めに折る折方のみ」とあって、「ばった」から「兜」「蟬」など14種。

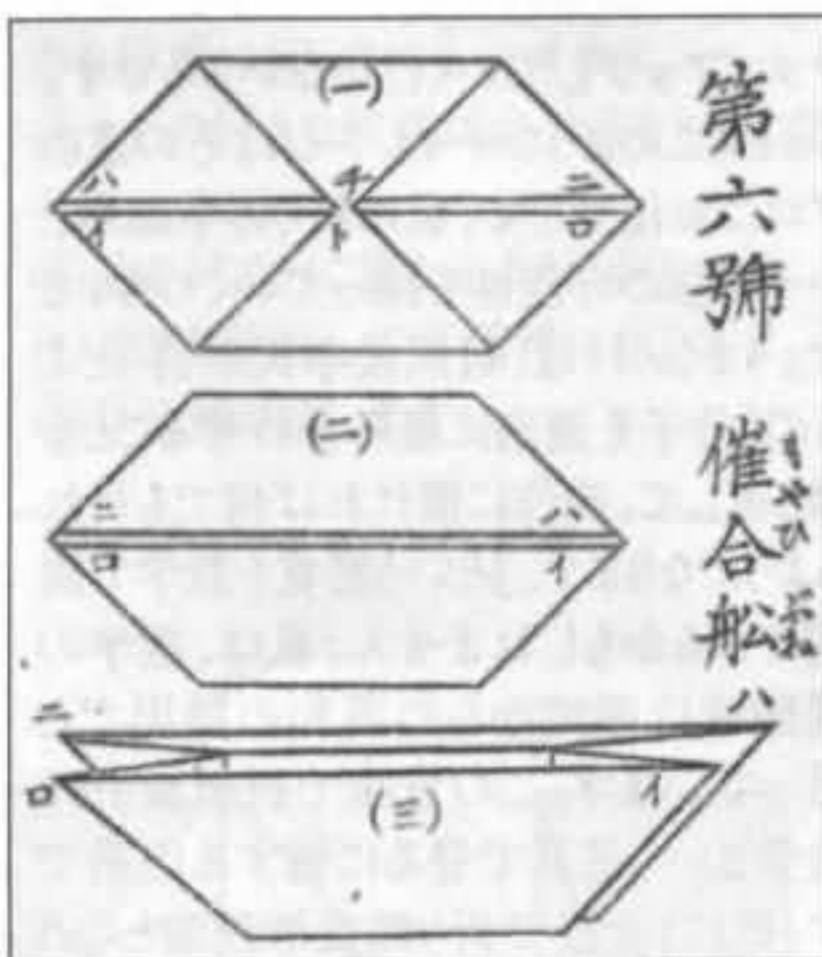
[第三集]

「四隅を中心に向けて折る折方のみ」とあって、「座布団」から「福助」などから「大船」「三宝」まで24種が続いているが、「窓」(二重に裏表へのザブトン折り)や「冠(女王の冠)」など、明らかにヨーロッパ系が、フレーベル式の手順で出てくるのである。そして「二艘船(其一)」「二艘船(其二)」がそれに続いていることを重視したい。(ただし、肝心の完成図が、前の第一集のものと同じで、こちらの方は折り図と整合していないのであるが単純ミスとしておこう。)

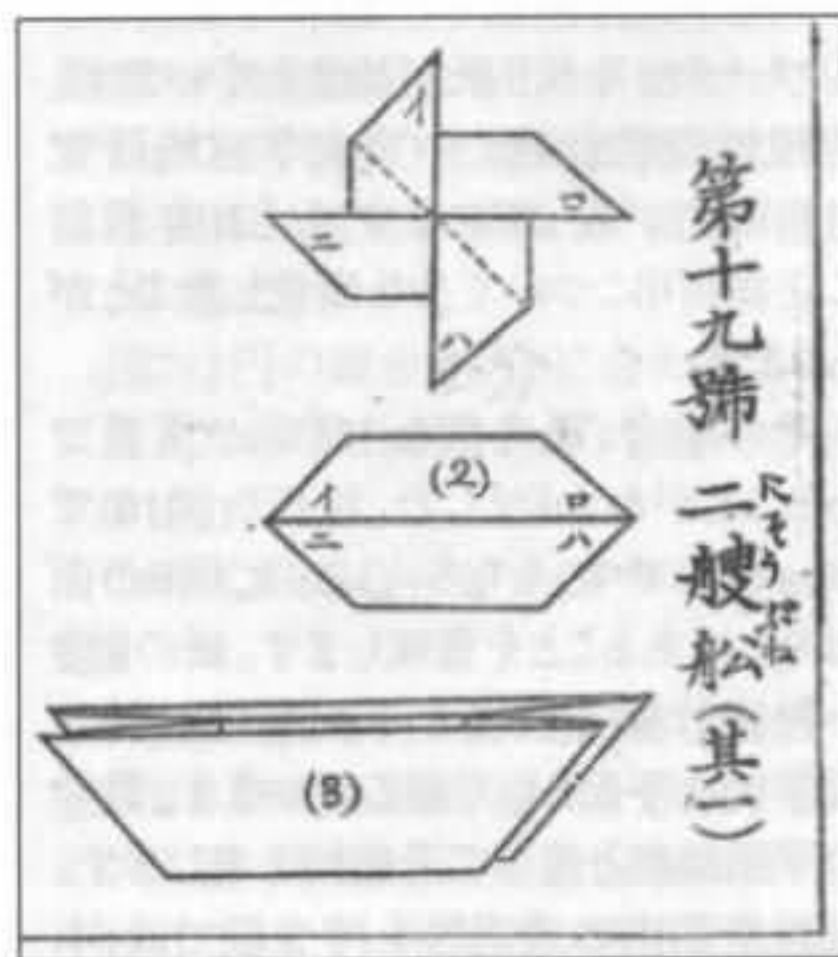
「二艘船」がここに入れているのは、折り手順を現在普通に行われている「カンノン」からではなくて、フレーベル式に二重の「ザブトン」からの変形にしているからである。



■木内菊次郎著「折紙と図画」



■第一集より

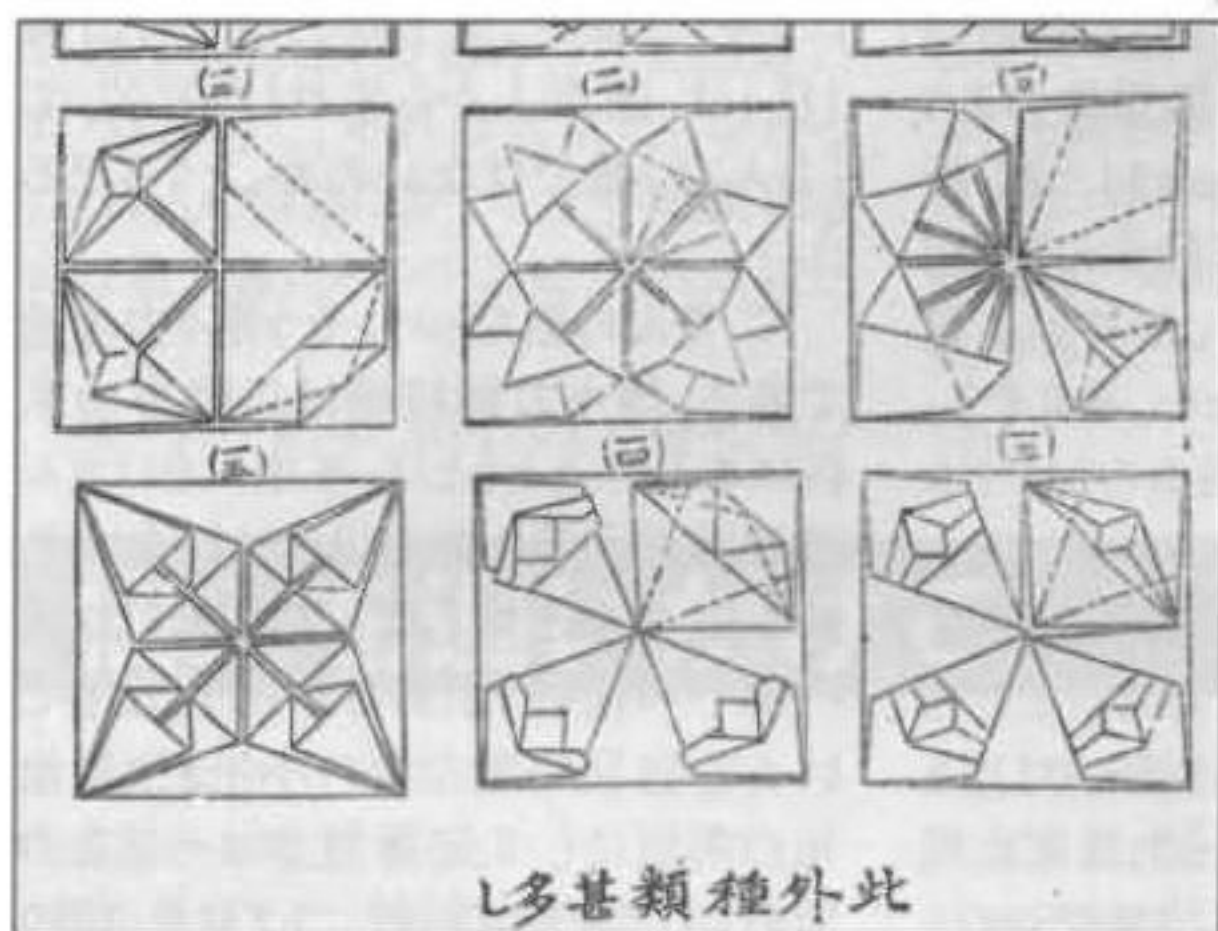


■第三集より

一九三四年東京生まれ。都立高校の国語教師を六年前に定年退職。折り紙以外の主な趣味は能・歌舞伎を観ること。

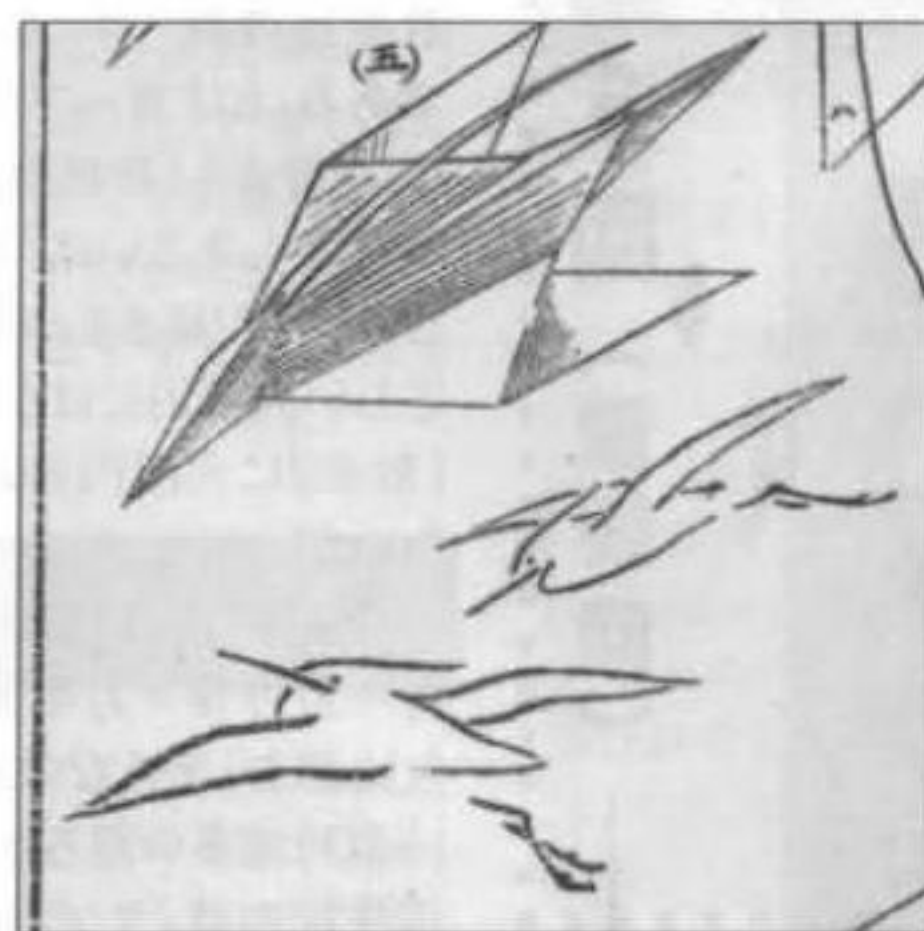


おもしろ折紙



し多基類種外此

■第四集より「花模様折方」



■「鶴」生徒作 第六集より

【第八集】

ここには「日常使用の実用的折方」すなわち、「熨斗包」から「雌蝶雄蝶」まで30種を載せ、水引の結び方や包みの心得もいろいろと書いている。

以上計182種ということになる

「二艘船(其一)」は普通のもの、「二艘船(其二)」はザブトンにカンノンを重ねて折るもので、明治以来広く行われていた。紙の裏が見えず、厚く丈夫になるという利点もあり、「大船」(宝船)に連続させる目的があったからであろう。

【第四集】

計36種の「花模様折方」で、「此外種類甚多し」とある。何の説明もないが、フレーベルの「美の形式」の折り紙である。

注目すべきは、図の書き方である。完成図と途中の工程の一部を同時に描いていて、一図だけで完成させられるようになっている。たいした工夫だったと思う。後に本多功氏が「オリガミ」(昭和6年)で踏襲している。

【第五集】

ここは鶴の基本型から、「香箱」「火鉢」「鶴」「鷺」などお馴染みのものも多く、江戸時代にはやった「男雛」「女雛」から「赤毛布(雪降道者)」「蛙」「蟹」まで23種が並んでいる。

【第六集】

ここには「紙鉄砲」など長方形で折るものと、正多角形の「たとう」類が集められている。それに、前の「花模様折方」の基本で折る「碁盤」と「鷺」が入っているのはやや整理に問題があるが、計16種である。

「鷺」は千葉師範生徒高島貫一作とある。他に同校生徒角田与四郎作の「隅違」というのがあるが複雑で図に表わしにくいので略したと説明されているのは、折り紙創作少年の存在の一端が偲べて興味深い。

長方形で折るものに「荷船」があるが、これは古く『欄間図説』にある「にふね」である。

【第七集】

正三角形の紙で折るものばかりを27種載せている。ほとんどがたとう式にねじった模様折りが主で、一部に「麻の葉」「水車」などの見立て題が付けられているものの、大部分は前の「花模様折方」同様、無銘である。

が、模様類をどう数えるかで、掲載作品の数は変わると思う。『をる』7号に再録された宮下温氏の「折り紙百年」には「八十余点」とある。

--木内菊次郎--

著者がどんな人か調べていないが、関西の出身は間違いない。1905年に『手工科教本』を出していて、また1910年には『図画応用紙細工』の著があり、これは『折紙と図画』の続編と言える内容である。1908年『手工研究』第貳輯に「折紙細工の研究」という論文が出ているが、面白い部分はあるものの、内容は自分が出した「新案折紙用紙」の宣伝である。5寸平方の色紙に1寸づつの印を各辺につけて、基本的な折り線も印刷してあって、100枚で30銭だから、1枚2銭の美濃紙から4枚取るより安上がりだというようなことを細かに書いている。この文中に「折紙の手技はどこの国にもあるが、我邦のは優れて巧妙なる者が多い、云々」という記述がある。この文を『折紙と図画』の中にも書いておいてもらいたかった。

前川 淳の 新・折紙 散歩

謎の仙人

第6回 (最終回)

— Crane Wizard —

自宅の居間。座っているのは、笠松栄さんの「オリガミファニチャー」。



筆者紹介＝東京生まれ。折り紙創作・研究家。折鶴モノコレクター。「一足めのわらじ」は科学技術計算。阪神タイガースの熱狂的なファン。

In Japan, there is a custom of putting up on a wall or a pillar of a shrine a sheet of paper with a name of pilgrims on it. My friend found a mysterious sheet that said "Orizuru (= paper crane) journey - Crane Wizard" the other day. Who is "Crane Wizard"?

散歩はつづくよどこまでも

「折紙散歩」を引き継いだ「新・折紙散歩」も連載一年となり、今回が最終回である。とは言っても、(御想像のように)次号から「折紙散歩 part3」、「真・折紙散歩」、あるいは「折紙散歩の逆襲」なるものが始まるわけで、最終回に相応しい大団円にはならない。そもそも、「散歩」に大団円もなにもあろうはずもないが。

今回の注目は、東京都世田谷区等々力の等々力不動である。「とどろき」と読む。そんなのあたりまえでしょというひとも多いだろうが、それは東京周辺住民の話。サッカー競技場でかなり有名になったが、難読地名であることは変わらない。地元では耳慣れた地名でも、たとえば、代々木(よよぎ)を「だい

だいぎ」と読んでしまう非東京人もけっこう多いと聞き、地下鉄三田(みた)線(注)は、関西人からすれば、どうして「さんだ」線ではないのか、とくるだろう。

で、なんの話だっけ。そう等々力の話である。等々力競技場は川崎市中原区にあるが、もともとは、多摩川をはさんだ世田谷区等々力のほうがよく知られている。なぜと言え、ここには「23区内唯一の溪谷」があるからだ。溪谷といっても、早い話ただの小川だが、地元の名所にして定番散歩コースなのである。「都内に溪谷! トドロキ、桃の木でしょ」という駄洒落は、世田谷区民の半数が使ってしまうネタである(世田谷出身の筆者の推測)。

謎の千社札

と、前振りが長かったが、等々力不動にあった千社札。それが謎を呼ぶものだった、というのが話の発端である。発見して報告してくれたのは大学の同級生で、「『一折鶴紀行一鶴仙人』という怪しい千社札を発見。まさか『翁』のでは、と思ってしまった」とのことだった。翁というのはわたしのことである。最近なぜか、大学時代の友人から「前川翁」と呼ばれている。30過ぎたころから「御隠居さん」を理想とした生活をしている成果が表れているのかもしれない。しかし、残念ながら、鶴仙人はわたしではない。「舞空術」(ドラゴンボール)が使えれば便利だろうが、翁と仙人には年齢しても数百歳の違いがある。

報告には、「千羽鶴も飾ってあったような。千羽鶴を見つけると札を貼る、という方針の人なのかも」ともあった。仙人本人が千羽鶴を奉納するのかもしれない、

興味をそそる話だったので、風の強い冬のある日、札と千羽鶴を確認しに行っ



千社札「折鶴紀行 鶴仙人」(等々力不動) Senja Fuda (= paper with a name of pilgrims printed) of Crane Wizard

た。たしかに千社札はあった。他の札に比べても大きいもので、ある種のオーラが感じられる。じっさいそうでなければ、千社札の内容に気がひかれることはないだろう。ただ、折鶴の件は記憶違いだったようで、それは見当たらなかった。仙人の眼鏡にかなった千羽鶴、あるいは仙人御自らの千羽鶴、あれば見たかった。

等々力不動は、玉川八十八番札所の

ひとつである。玉川八十八番札所なんてものがあるのを知ったのも、これが縁だったわけだが、謎の鶴仙人が札所巡りをしているかもしれないと考えたわたしは、そのひとつ、世田谷区岡本の長円寺にも脚を伸ばしてみた。この寺を選んだのは、言わずもがな、「千羽鶴折形」の魯縞庵の寺と同じ名だからだ。札所巡り。やることが、ますます年寄りじみてきた。

仙人を追いかけて

残念ながら、長円寺には、鶴仙人の札はなかった。代わりというか、紙屋という札を発見した。神谷哲史氏(注)の別名か?、なんてことはないだろうが、紙関係のひとの可能性はある。トーヨーの社長かもしれない。そして、仏縁というか、思い込みというか、わたしはここでも「折鶴」を発見した。本道正面の宝珠の意匠。そこに、折鶴の基本形で使われる三角形の内心の定理が…、見える者には見える。ありがたや。

その後、玉川八十八ヶ所ではなく、不動巡りをしているかもしれないと思いたったわたしは、目黒不動と目青不動

(知る人ぞ知るところだが、江戸には、赤、白、青、黒、黄の五色の不動がある。目赤不動は「おりがみはうす」の近くだ)などにも行って見たが、鶴仙人の札に出会うことはなかった。鶴仙人、仙人だけに天に上ったのか、行方は杳として知れないのである。というわけで、「話の発端である」などと書き始めたが、そこから一步も進んでいなかったりする。

仙人といえば、中国の八仙のひとり、張果老の「得意技」が、折り紙を思わせるものであることが知られている。八仙というのは、名の知れた八人の仙人のことで、縁起物の画題などによく使われ、日本でいう七福神のようなものだ。張果老はこのうちのひとりで、唐代の人物(仙人も「人物」なのだろうか)である。白い驢馬にまたがって一日に数万里移動することができるそうで、しかもその驢馬は、畳むと紙のように薄くなり、箱の中にしまうことができたという。折り畳み式の驢馬! 折り畳み式の自転車とはわけが違う。

これに限らず、折り畳みや折り紙が、ある種の魔術として取り上げられることはままある。早川ミステリマガジン1990年11月号に載った「立体幾何学」(イアン・マーキュアン著)もそんな話だった。正直「な



長円寺(世田谷)の「内心の定理」(?)
"Inner point theorem" at a temple
ありがたや、折り目が見える、何にでも。
We live in a world
With crease patterns everywhere;
We thank God for it.

折紙辞典

三田線【みたせん】 固有名詞

港区三田と板橋区西高島平を結ぶ都営地下鉄路線。折紙探偵団東京友の会の例会が行われる文京区民センターおよび文京シビックセンターのある「春日」、ギャラリーおりがみはうすと折紙探偵団コンベンションの会場・東洋大の最寄り駅である「白山」、古書店で「をる」を見つけることもできる(かもしれない)本の街「神保町」など、重要な駅が多い。

神谷哲史【かみやさとし】 固有名詞(人名)

不切正方形一枚折りの、若き達人。名前からして、折り紙の道を歩む者であることが暗示されている。「神」は「紙」、「谷」は「折り目」を表している。「哲」が「折」と「正方形」を表していることは言うまでもない。小松英夫氏によると、「史」は、「長方形の紙を鉄で正方形にしているところ」であるとされる。

んだかなあ」という話なのだが、紙を特定の方法で折り畳むとそれがふっと消えてしまう、というところは、折り紙ごろを刺激しなくもない。

などと、話題をずらして調査の行き詰まりをごまかしているが、鶴仙人の正体はいったい? ああ、気になってしょうがない。(つづ…かないだろうな、きっと)



張果老(イラスト:前川)

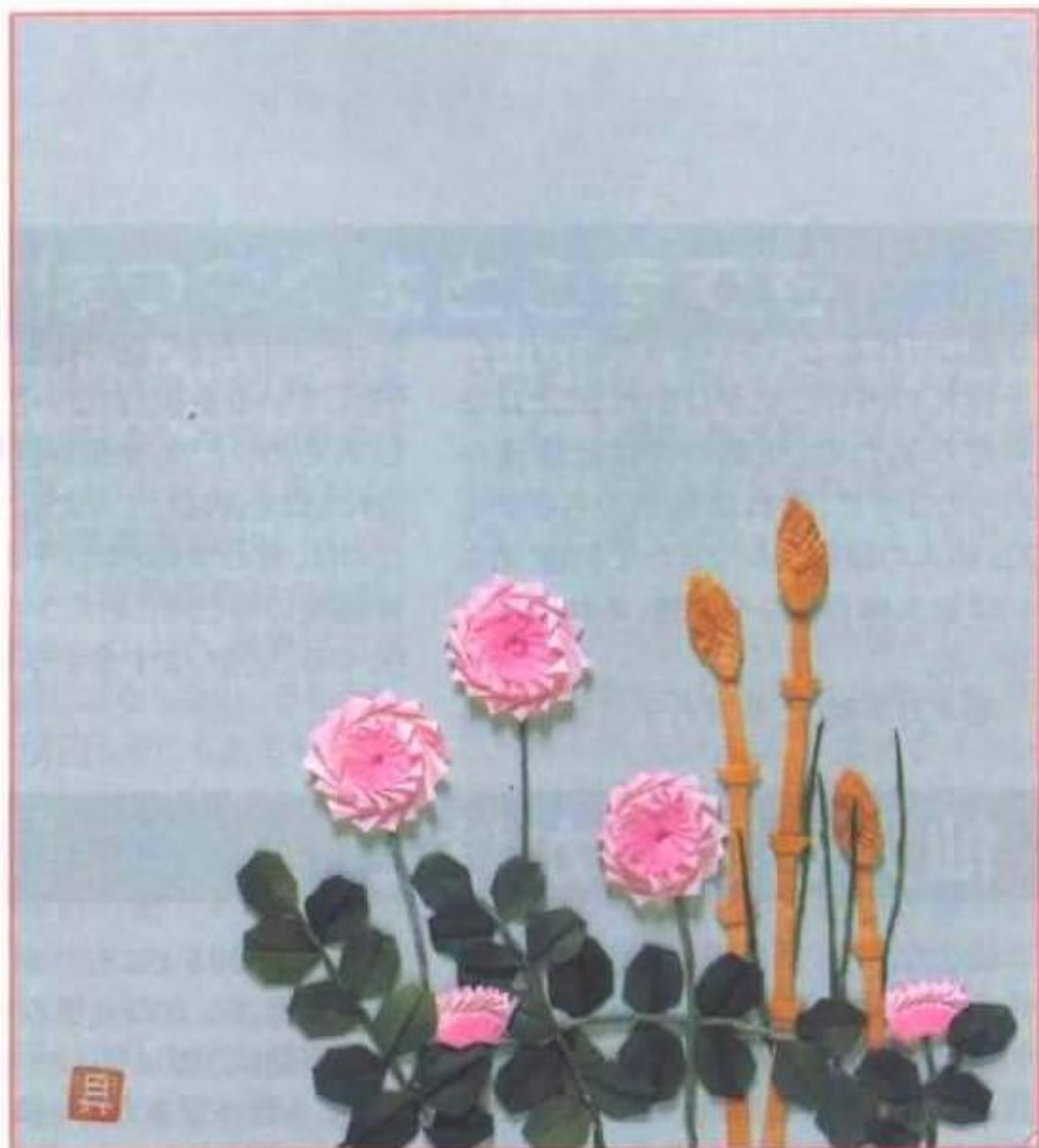
Choka: a Chinese wizard who brings a foldable jackass
張果騎白驢 日行數萬里
疊驢厚如紙 置於箱之中
Every day Choka rides
Long way on a jackass
Which he folds like paper
And put it in a box.

■草と土の湿ったにおいがしたら、春はもうすぐそこです。パステルトーンを中心にした今回の色紙は、一面にひろがる草原からそのまま切り出したようなみずみずしさと落ち着きを持っています。

■今回のびっくり箱は、さまざまな応用・改造がきく平面のユニット。すっきりとした工程から五角形の梅の花が折り出されます。中心部の加工を変えることにより生まれる豊かなバリエーションをお楽しみください。

■パルマー氏の「タペストリー」は、一辺1メートルはあろうかという大作。平織りでできた層の複雑な重なりから得られる透過光の陰影が、柔らかくかつリズムミカルな印象です。

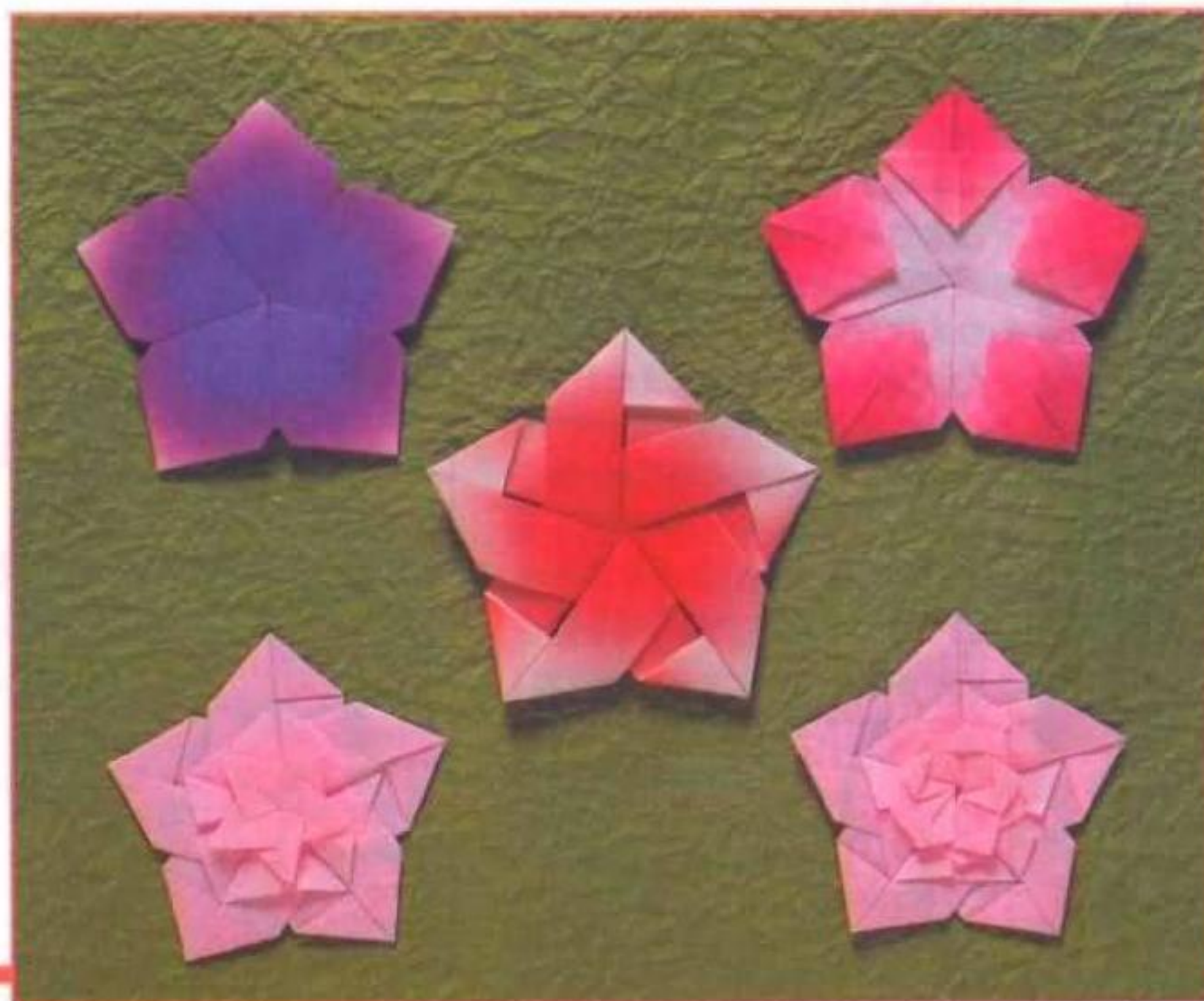
■しっかりとしたデッサン力と繊細なタッチで、常に注目を集めるブリル氏の動物作品群のなかから、ライオンの親子を掲載しました。スタイリッシュでキレのいい造形を見ると、創作からすでに20年以上経っているということが一瞬信じられなくなります。



「レンゲ草とつくし」作:田中具子(P.8)

Chinese Milk Vetches and Horsetails: Tanaka Tomoko (P.8)

■大きくとられた背景の空間からは、背丈の低い草のイメージと暖かい日差しが同時に感じられます。ふんわりと春の空気を含んだ雰囲気の花と全体構成は、制作の際に非常に参考になりますね。



「梅花いろいろ」

作:布施知子(P.4)

Umes (= Plum-Blossoms)
of Every Variety:

Fuse Tomoko (P.4)

■「手裏剣」や「たとう」のような感覚で編み込む工程により、まったくストレスなく組み上がります。カードに貼ったりしおりにしたり、使い道をいろいろ考えるのもまた楽しみです。

「タペストリー」

作:クリス・パルマー(アメリカ)

Tapestry : Chris Palmer (USA)

■幾何学的で明確な折り基準のもとに導き出された造形であるにもかかわらず、強烈なオリジナリティーを感じさせます。作者はこのほかにもネクタイや帽子など、布を用いて平織りを組み込んだ作品を多数発表しています。

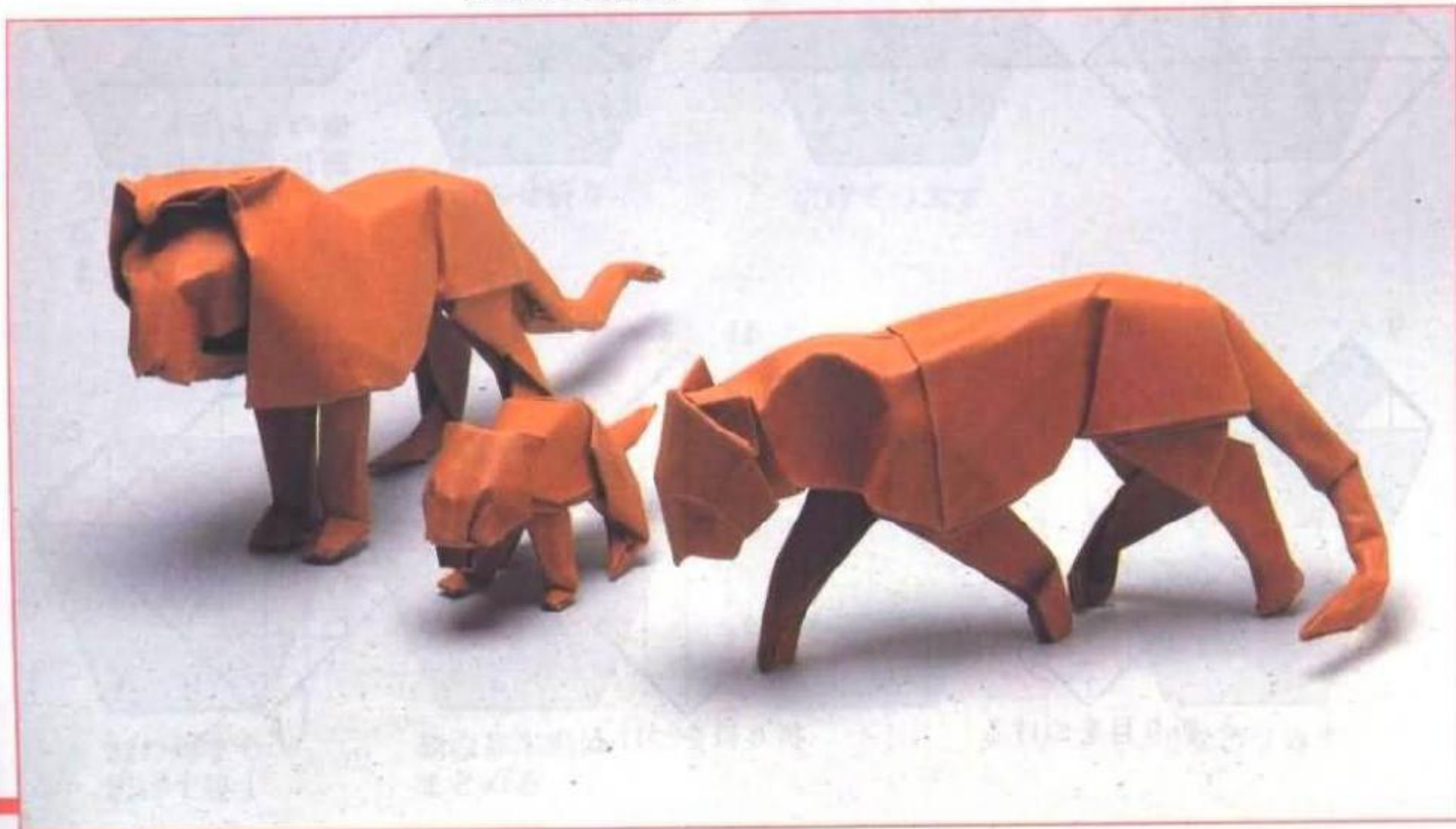


「ライオンファミリー」

作:デビッド・ブリル(イギリス)

Lion Family : David Brill (England)

■動物の背骨のラインに紙の端を出さない(「背中が割れている」状態にしない)という設計方針は、海外作家に多く見られます。曲面的な加工も手慣れた感じ。一匹ごとのポーズ・表情付けには、油彩画を趣味としている作者ならではの観察眼が感じられます。ちなみに親ライオンは正三角形用紙からの折り出しです。





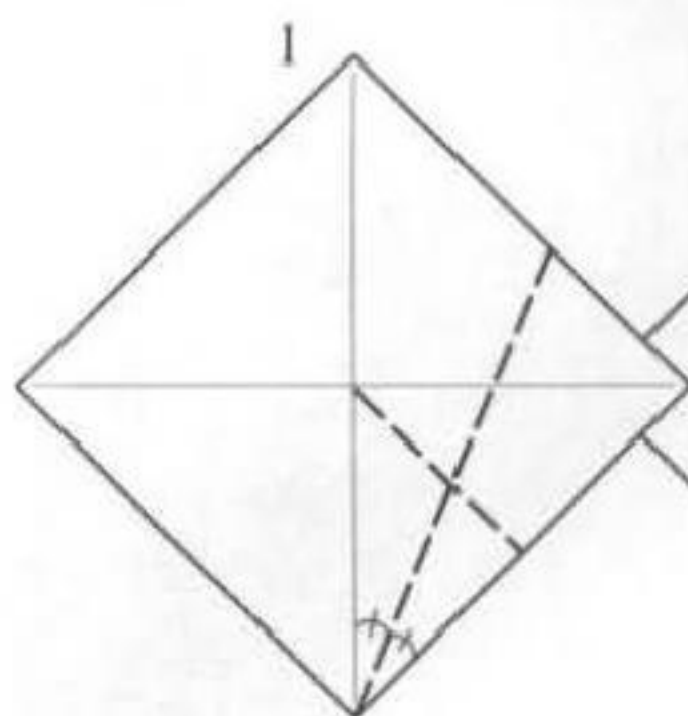
鹿

Kawahata Fumiaki

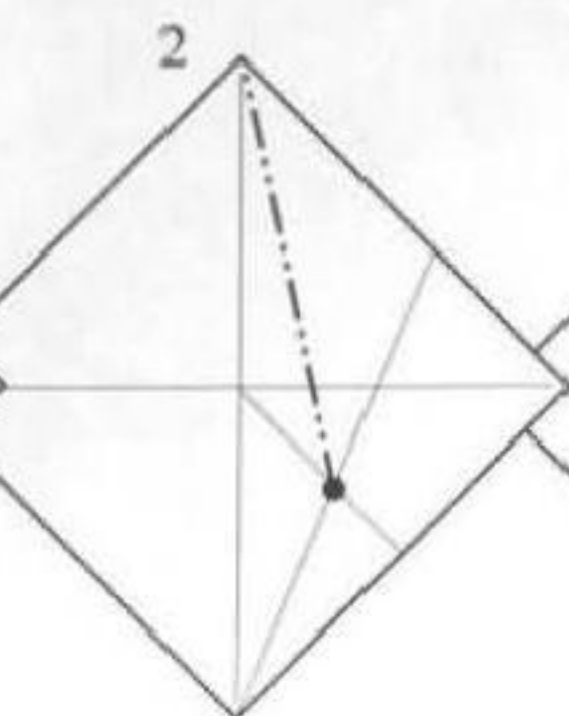
川畑文昭

創作 1998年

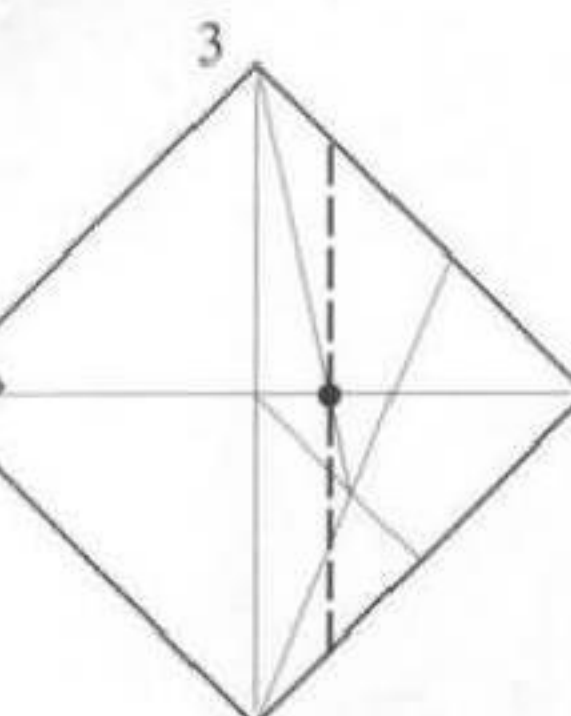
作図 2001年3月5日



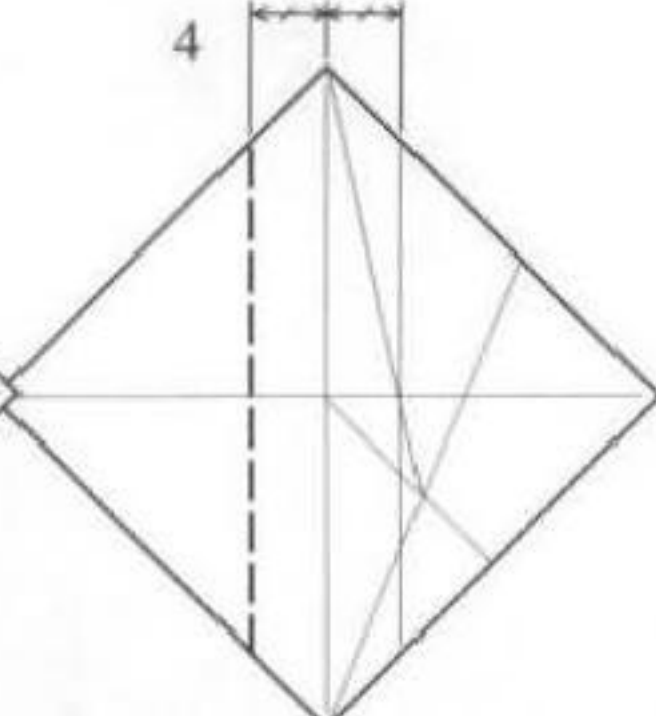
折り目をつける



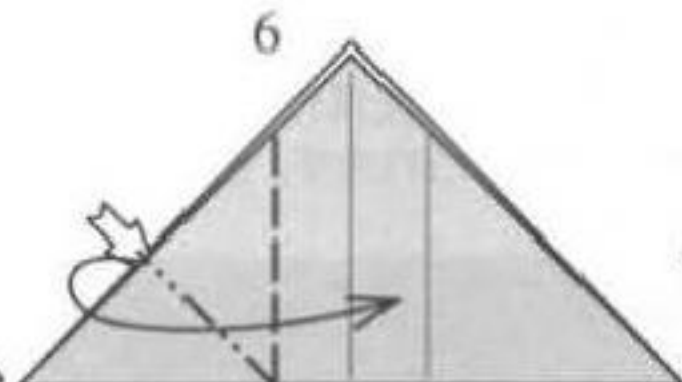
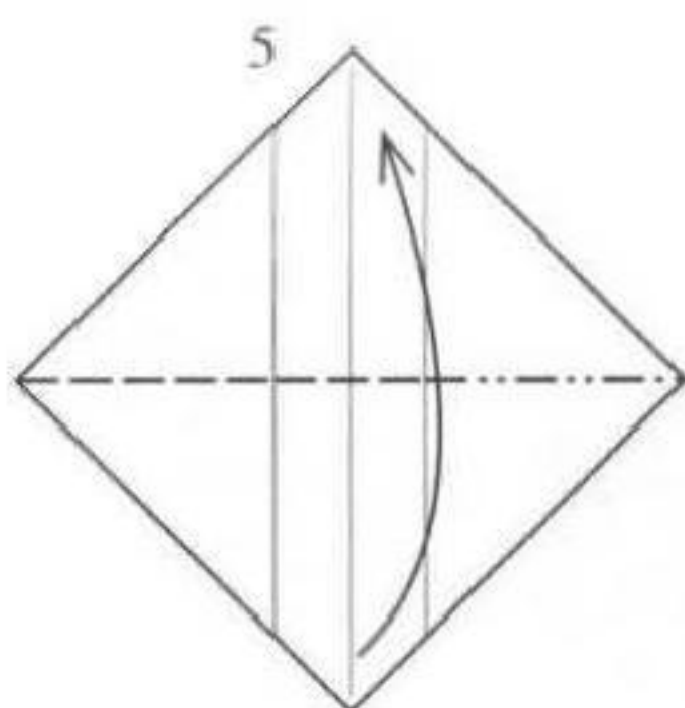
折り目をつける



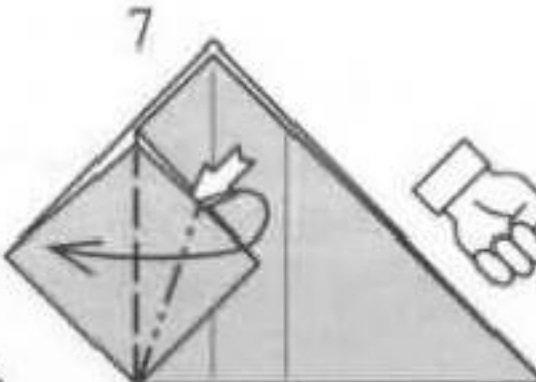
折り目をつける



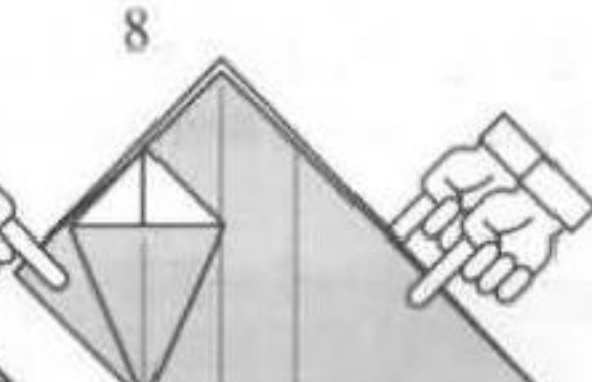
折り目をつける



広げてつぶす



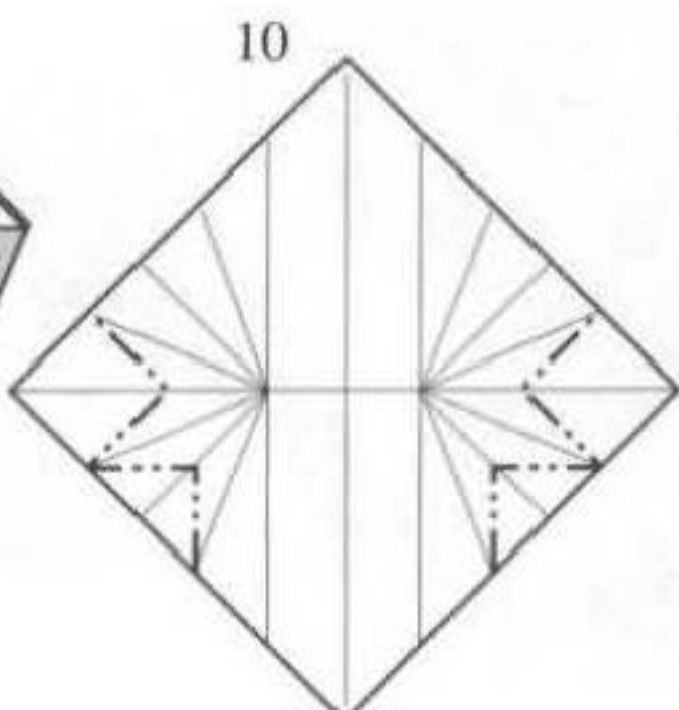
広げてつぶす



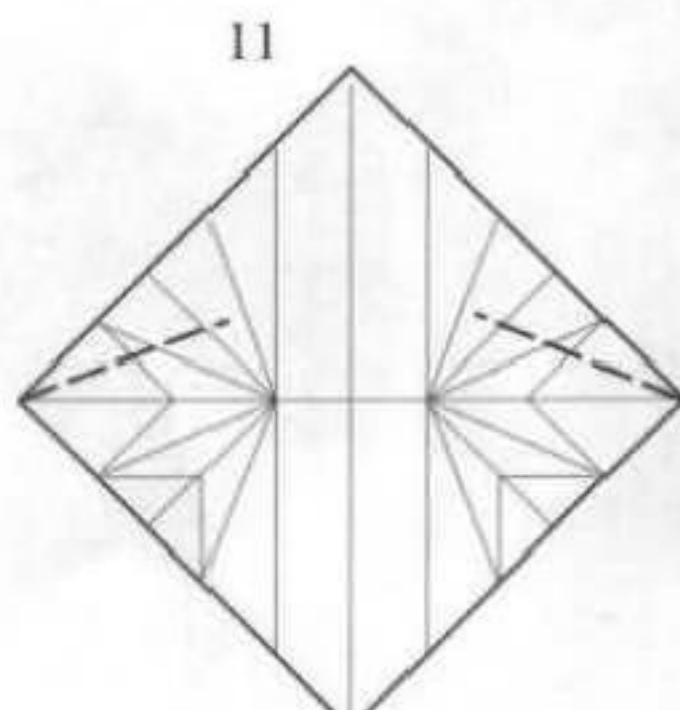
他の3ヶ所も
同じように折る



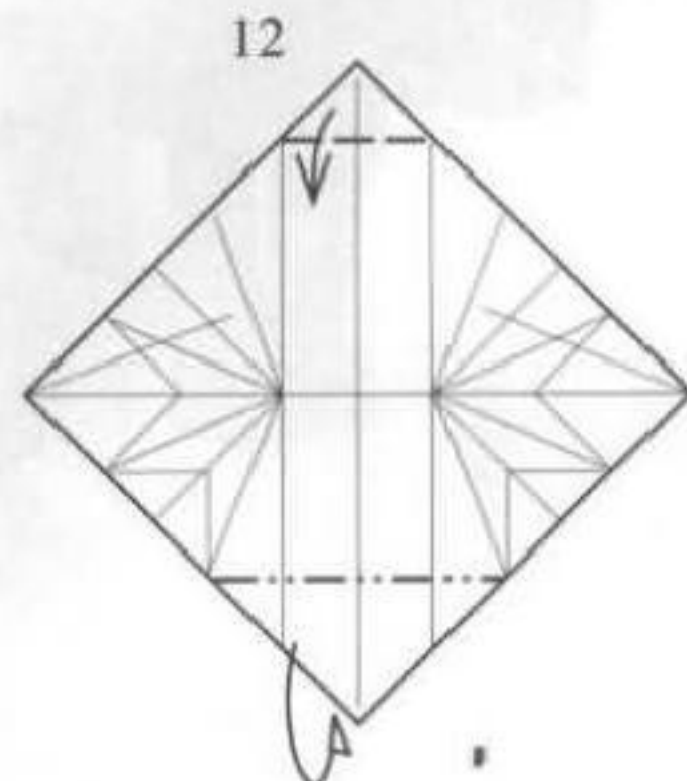
広げる

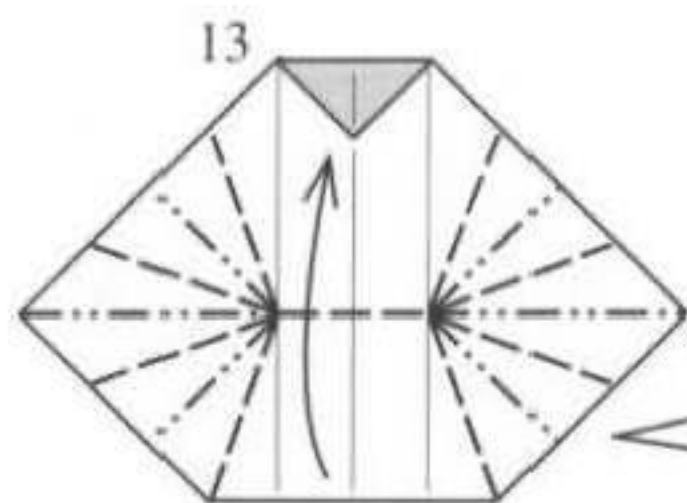


折り目をつける

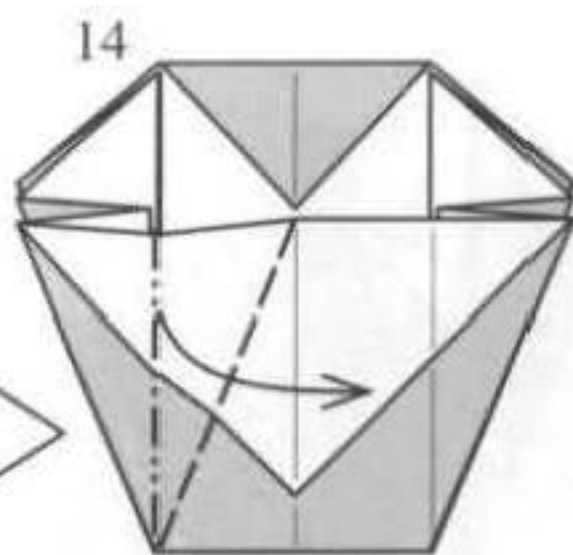


折り目をつける

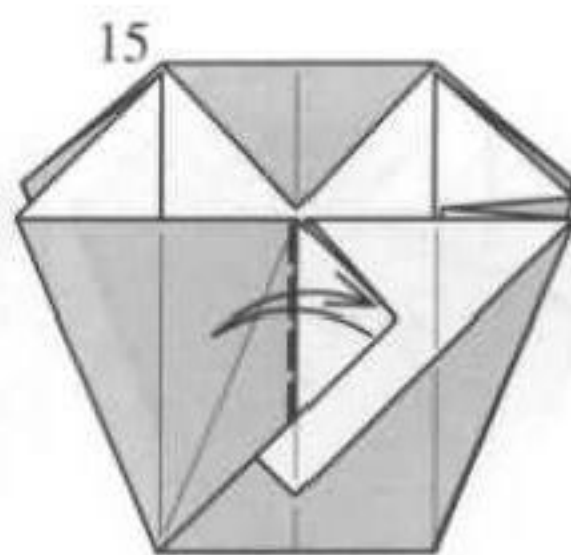




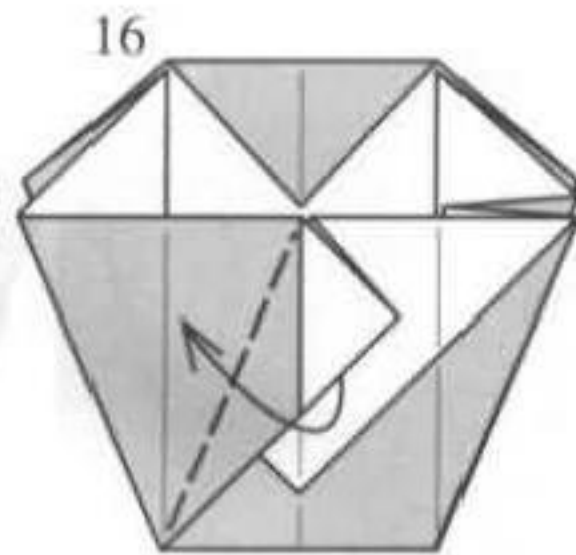
折り目に沿って
まとめる



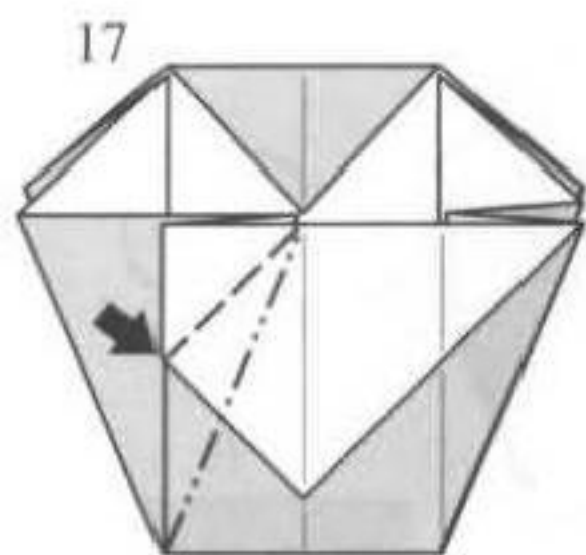
引き寄せるように折る



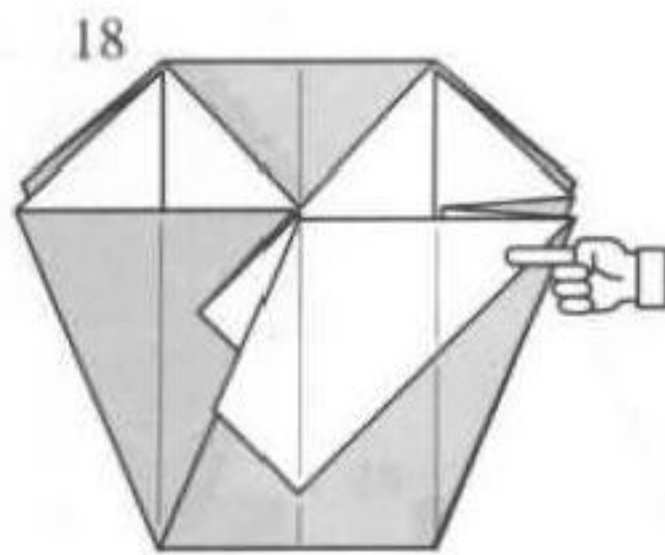
折り目をつける



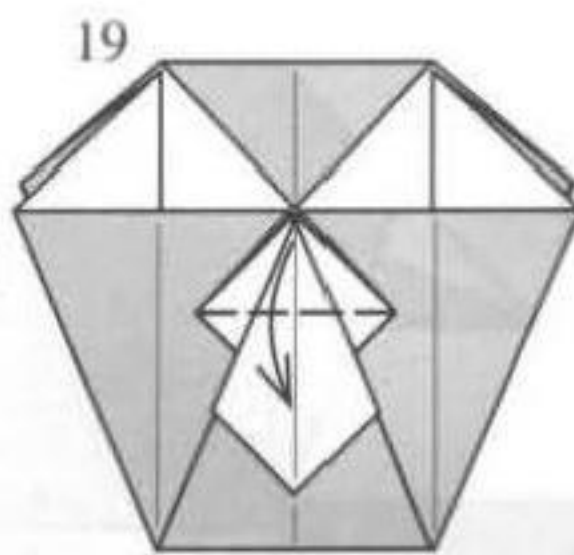
折りかえす



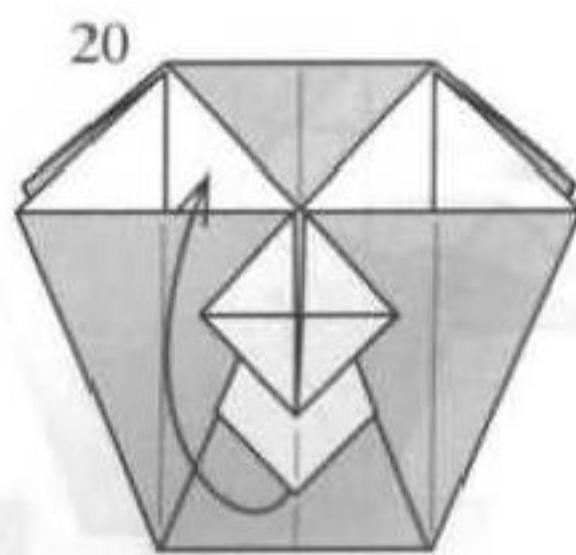
沈めるように段折り
(中わり折り繰り返し)



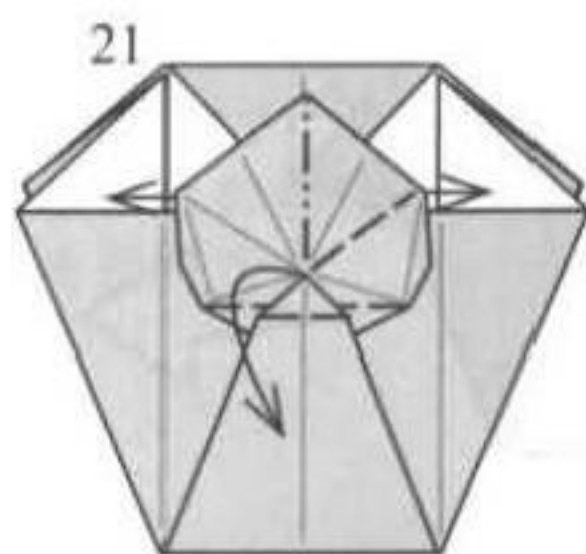
右側も14~17と
同じように折る



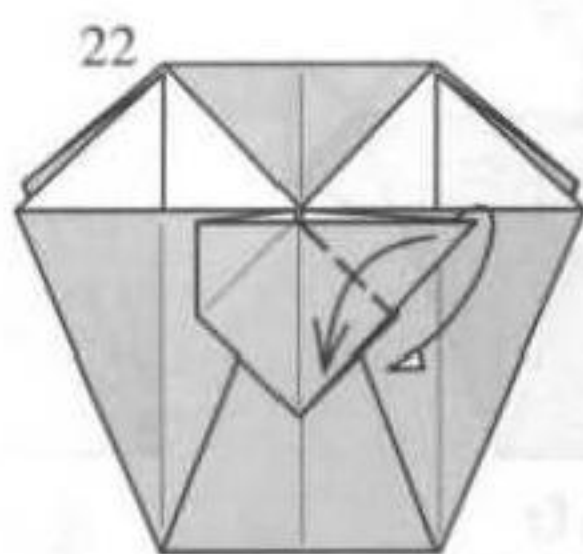
折りかえす



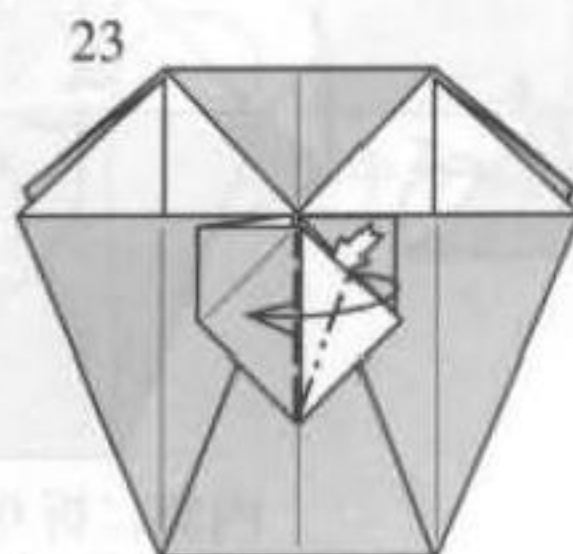
重なっている
一枚を引き出す



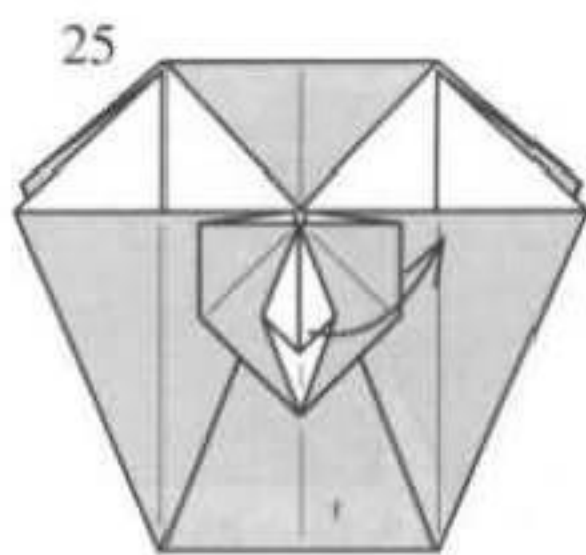
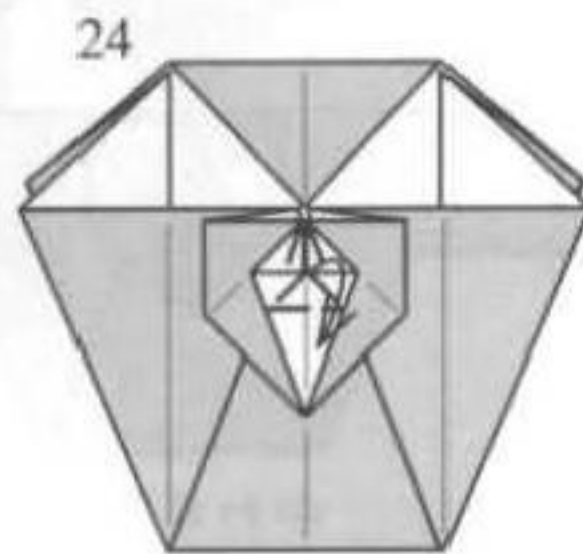
ついている
折り目に沿って
まとめなおす



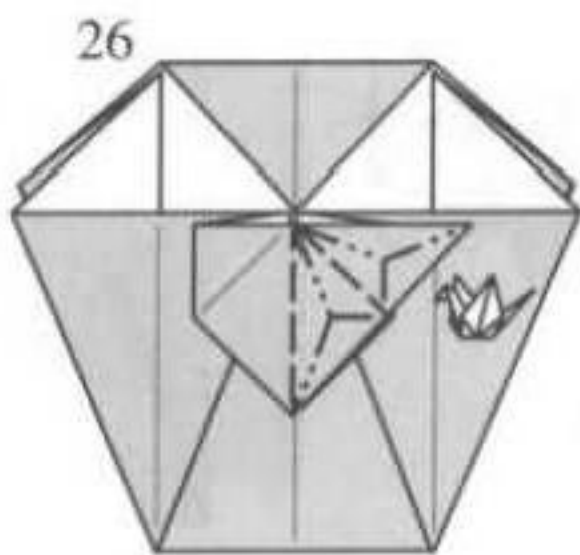
かぶせ折り



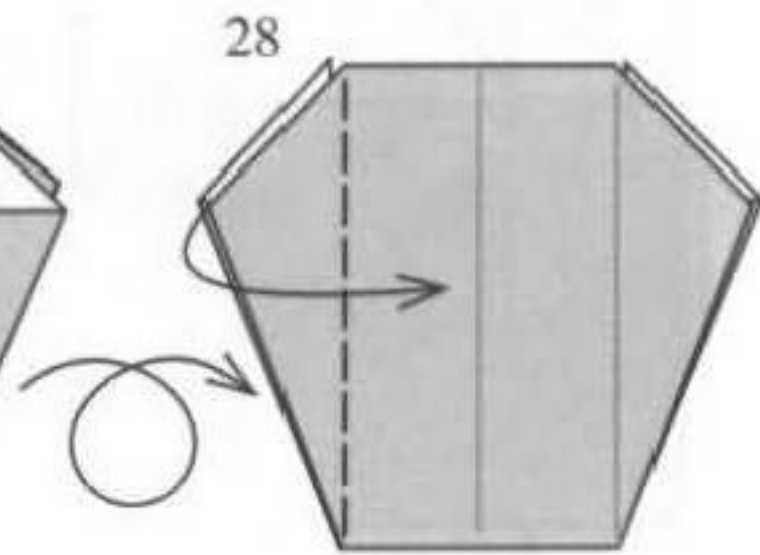
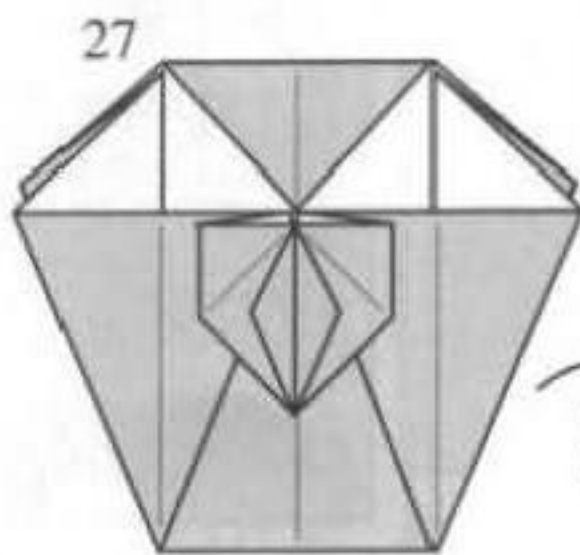
広げてつぶす



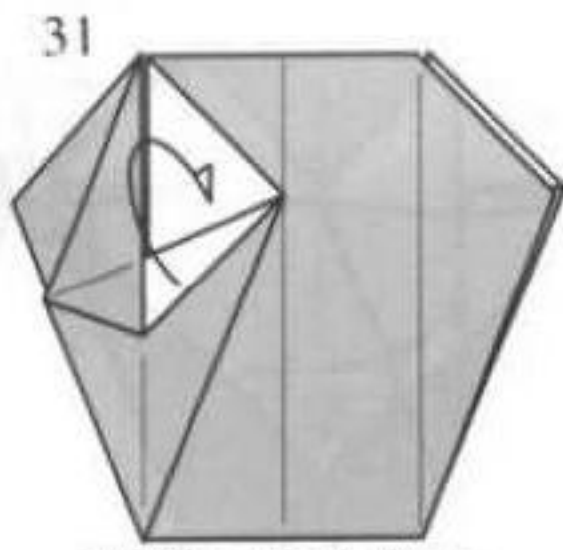
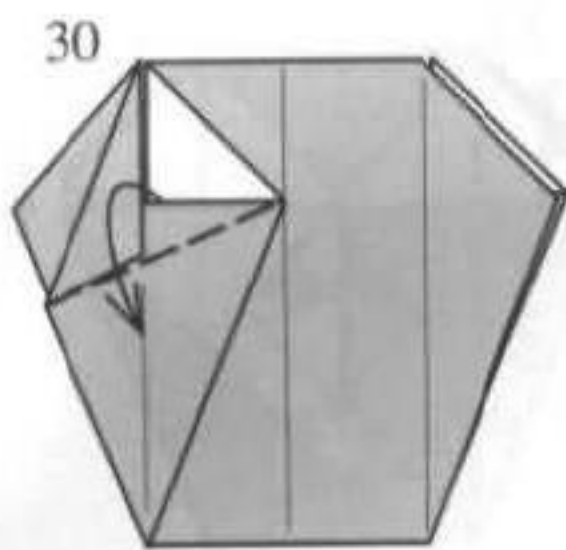
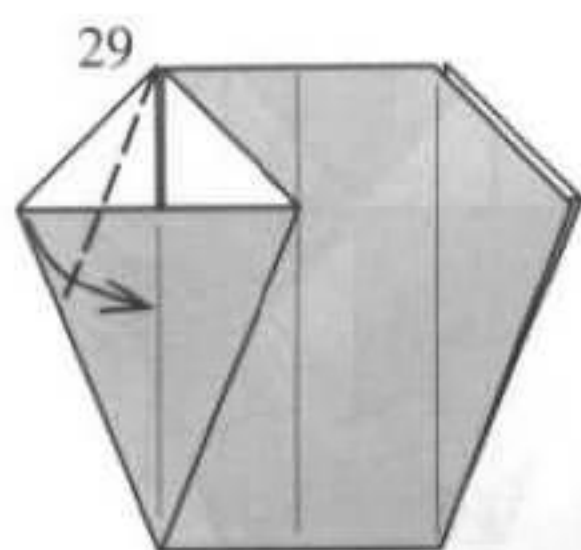
22の形まで
広げて戻す



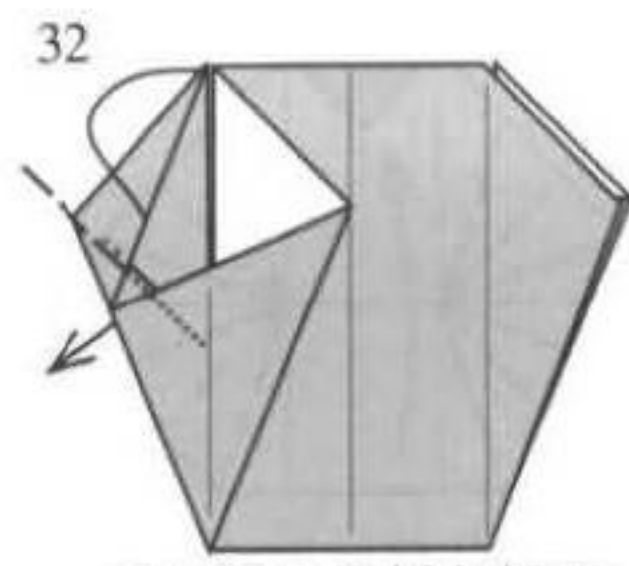
鶴の基本形に
まとめる



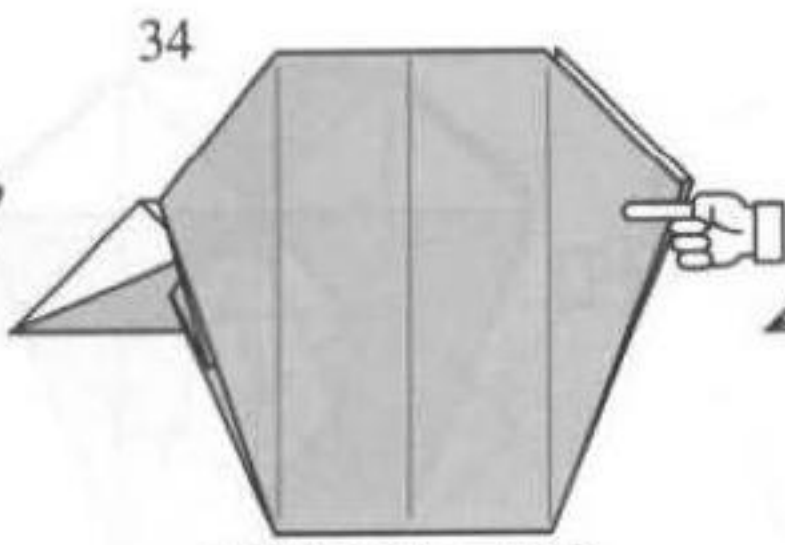
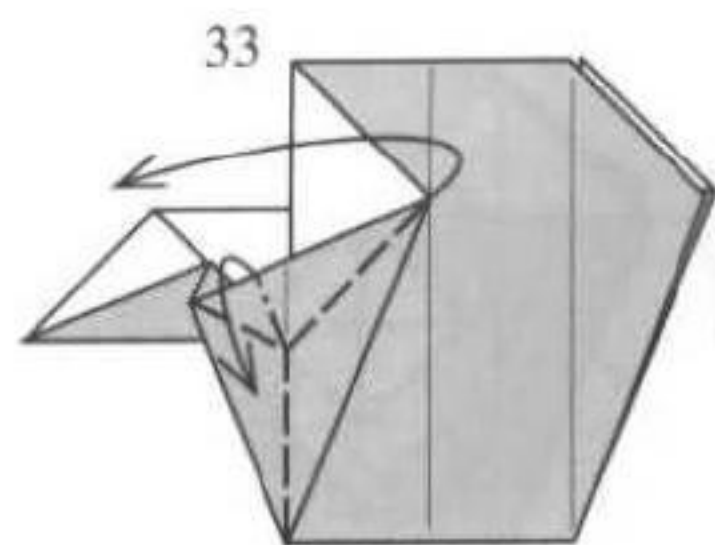
1枚折り返す



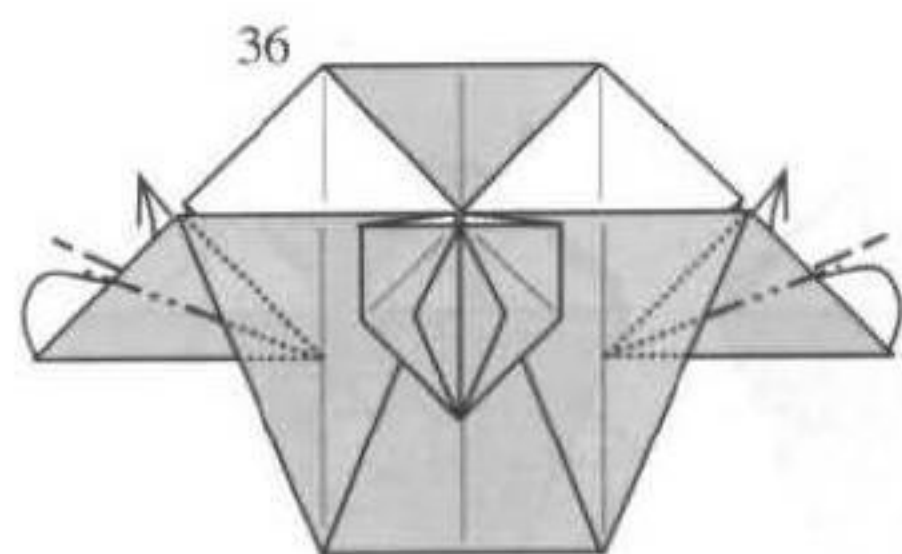
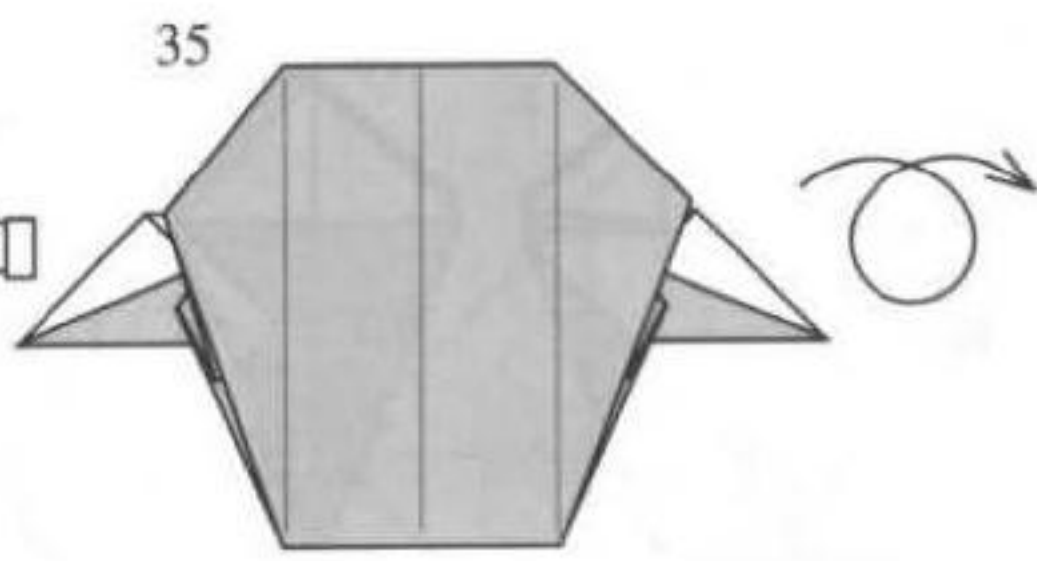
内側に折り込む



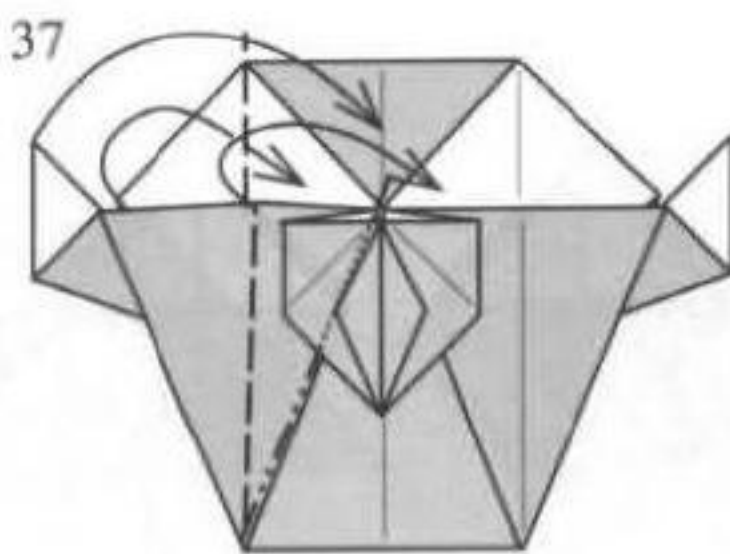
ついている折り目に
沿って中わり折り



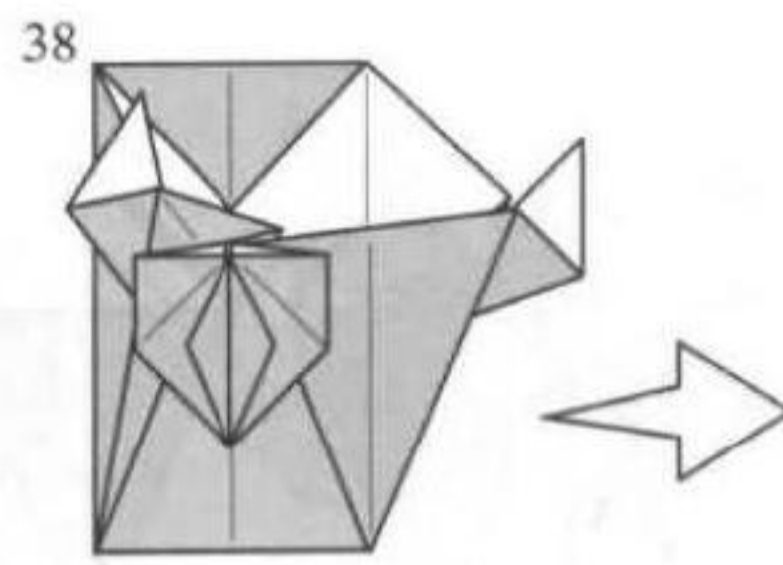
右側も28~33と
同じように折る



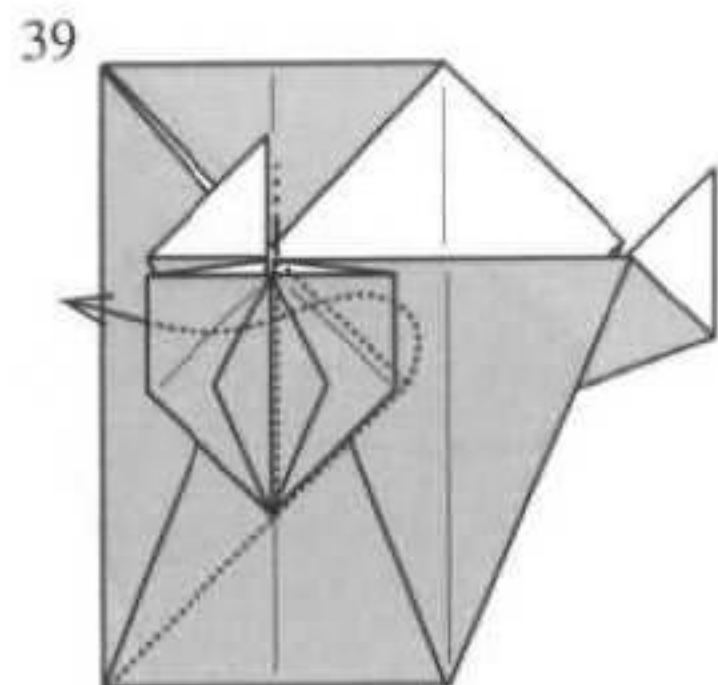
中わり折り



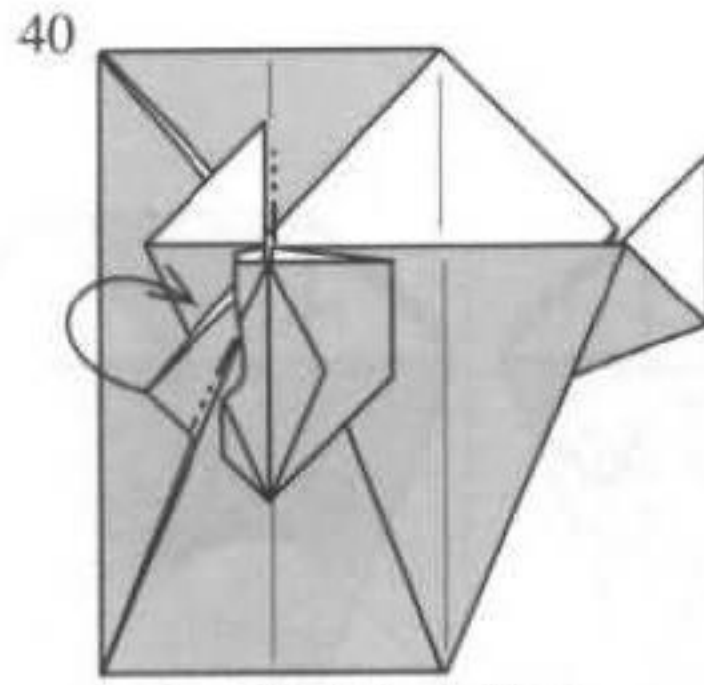
内側に折り込む
山谷線の位置を良くみて



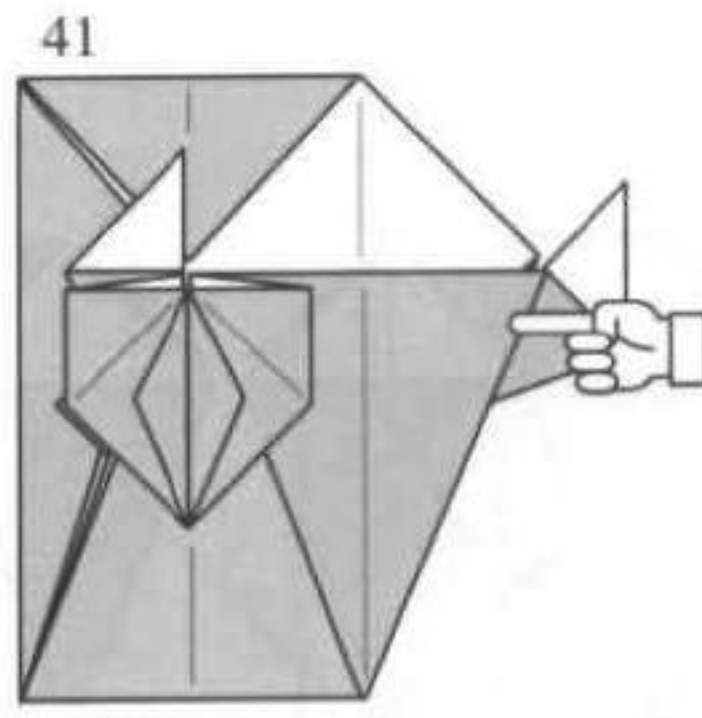
途中



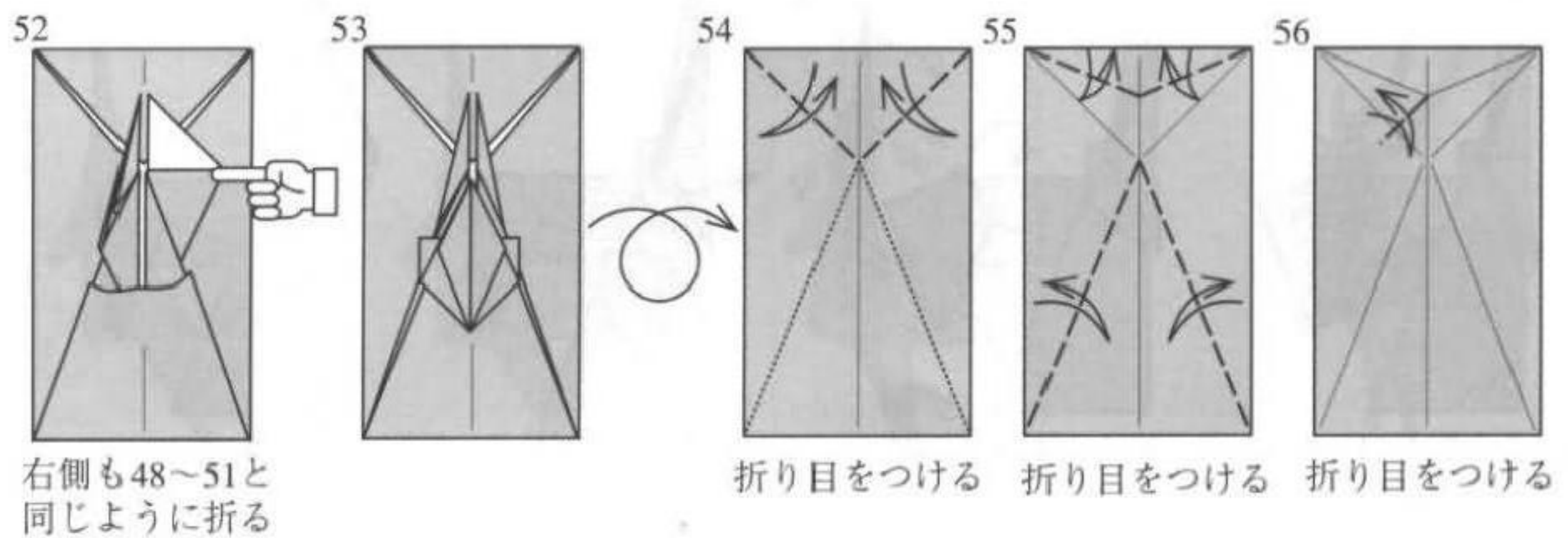
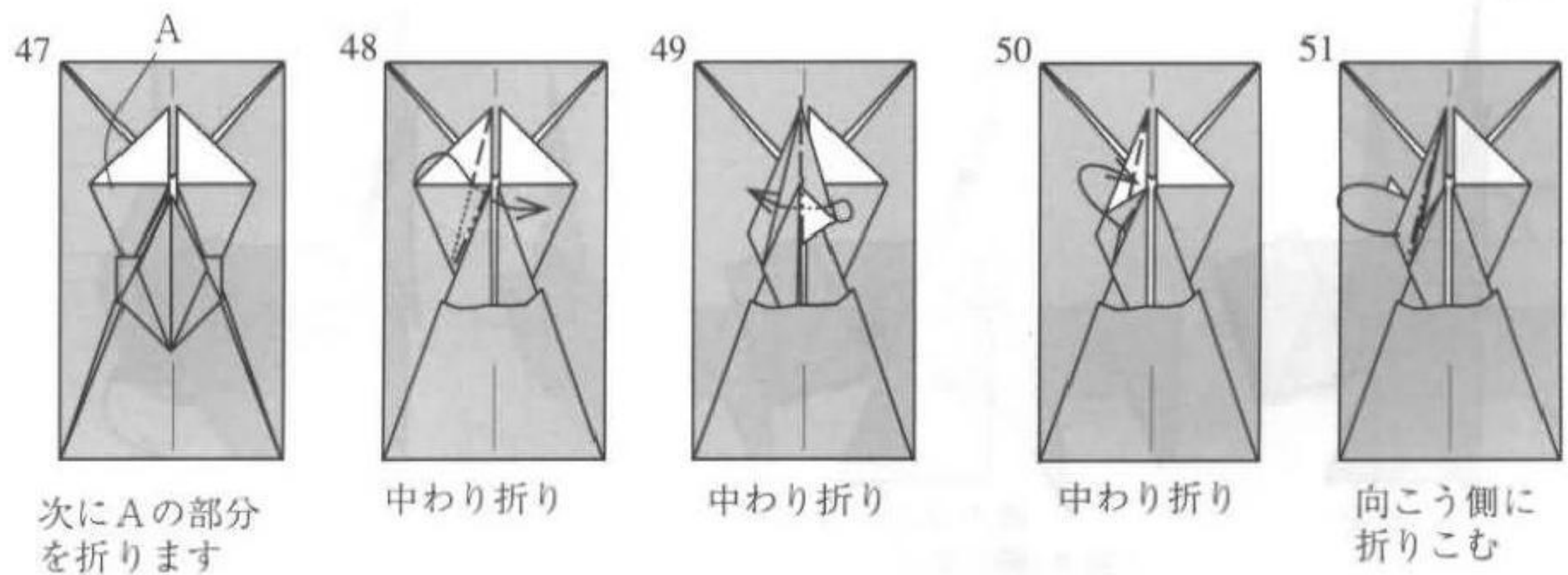
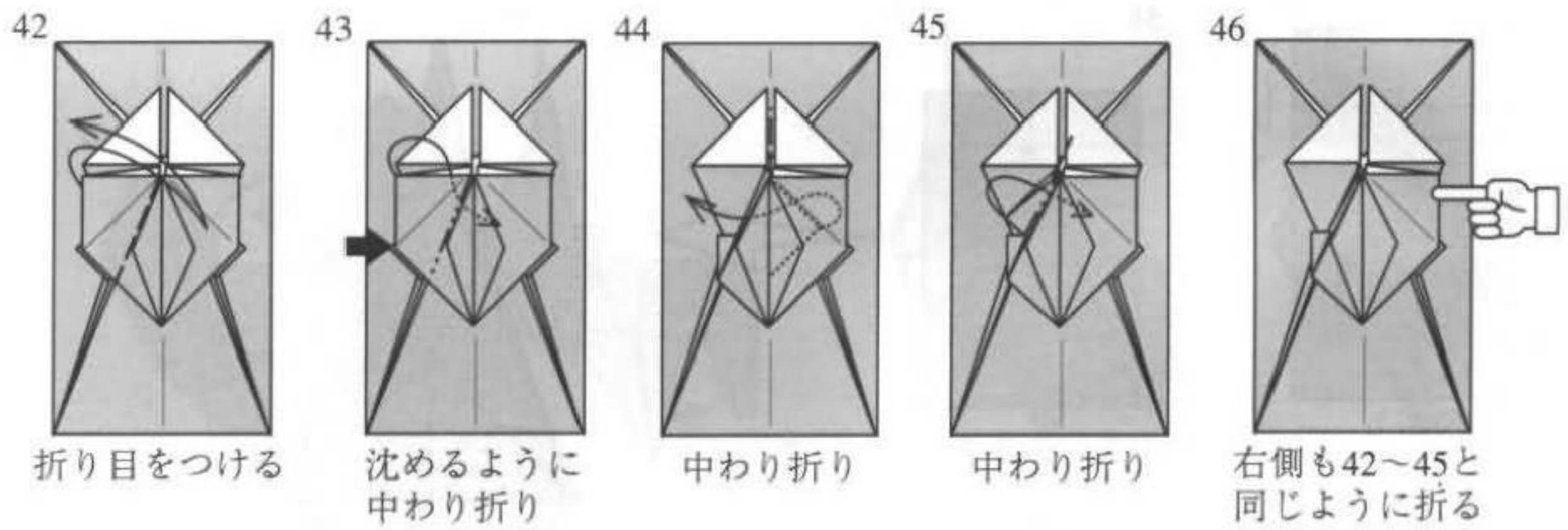
中わり折り

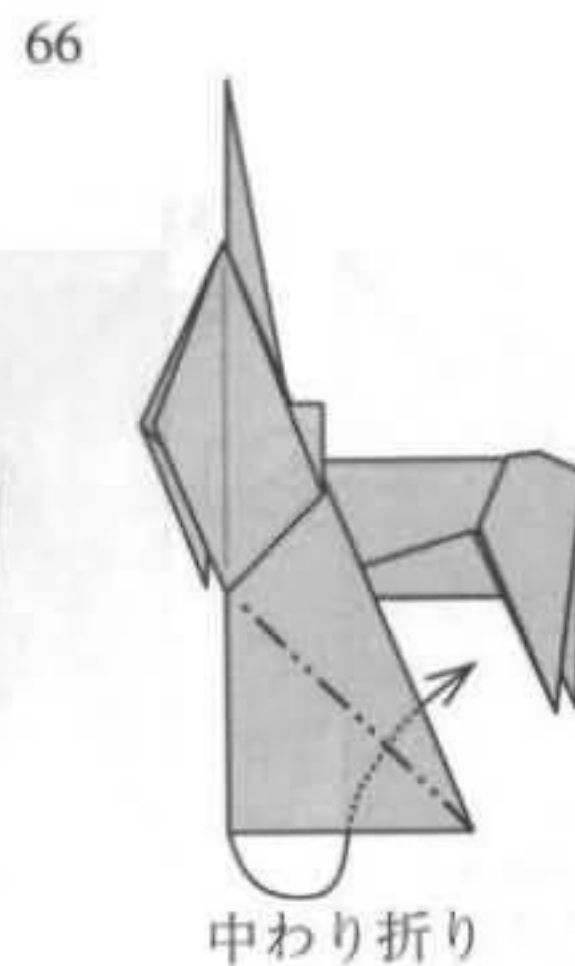
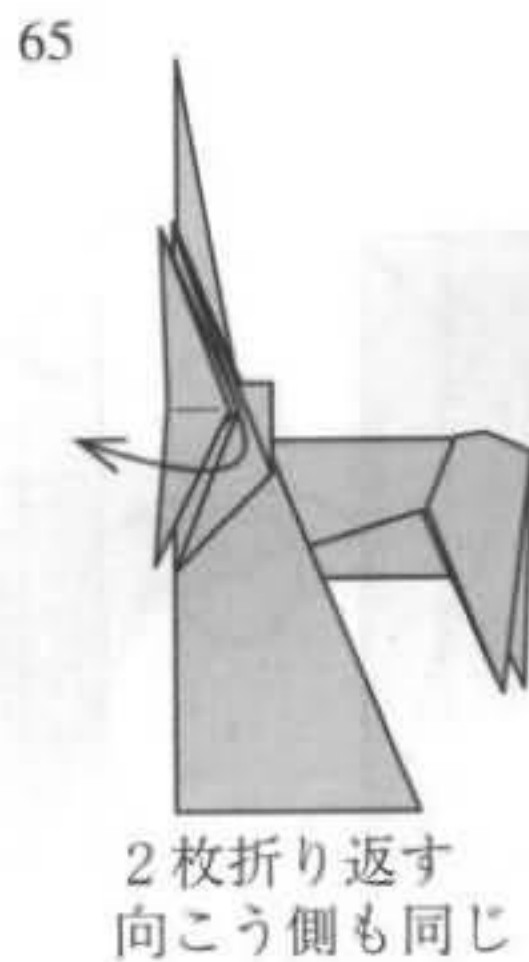
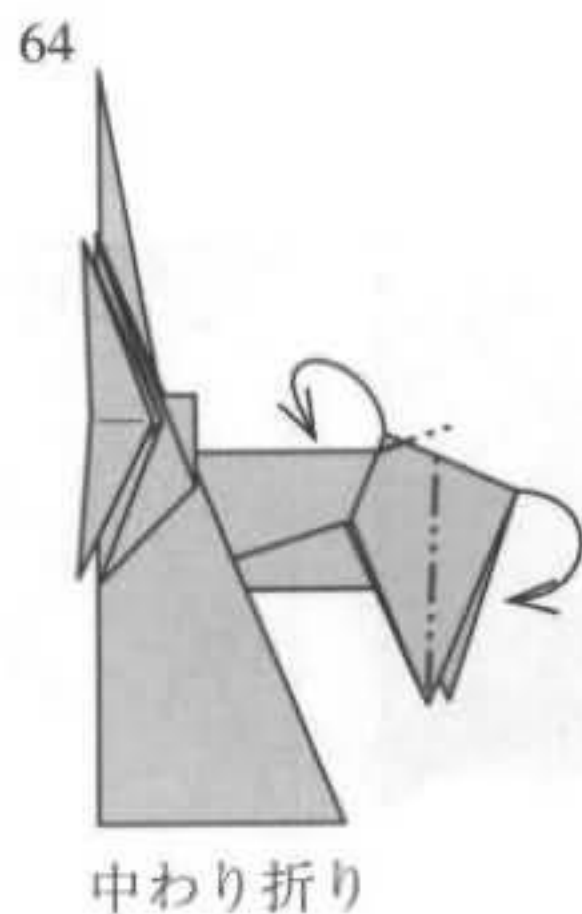
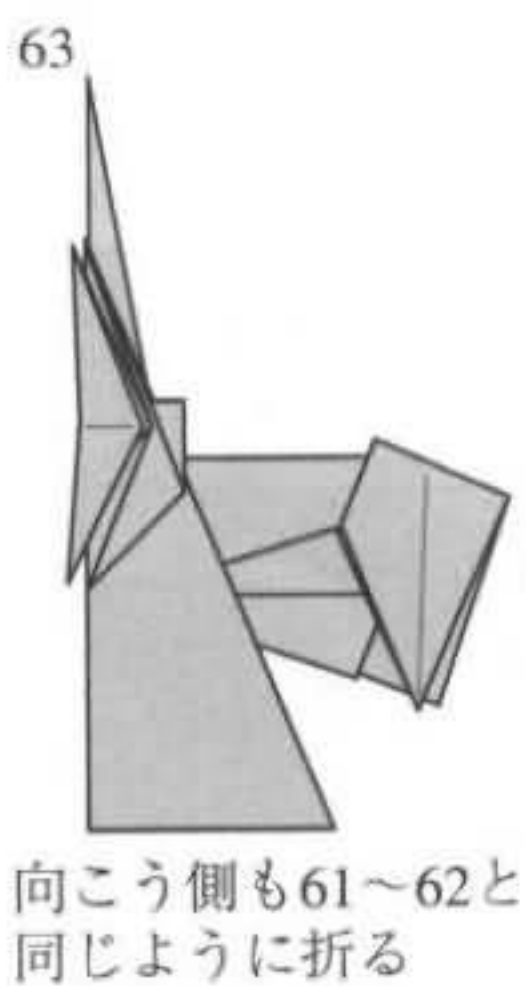
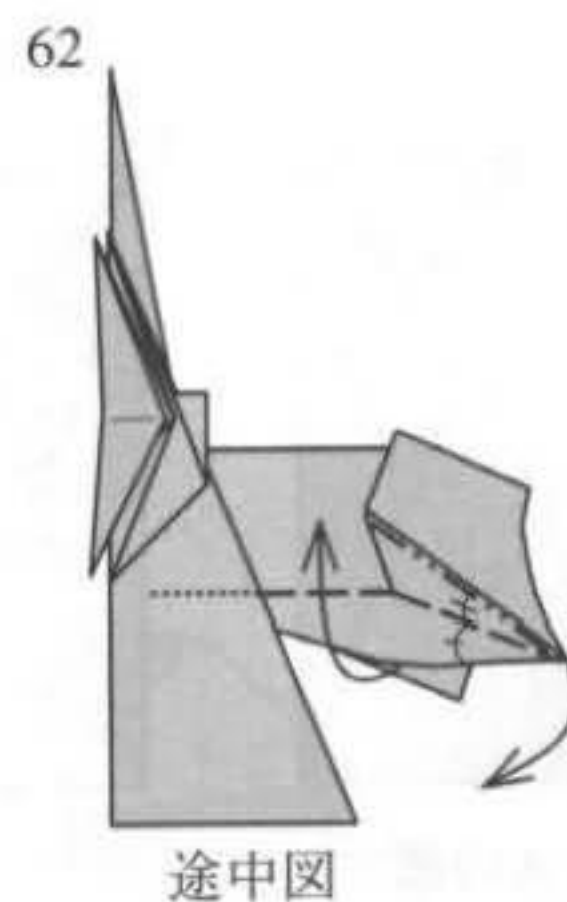
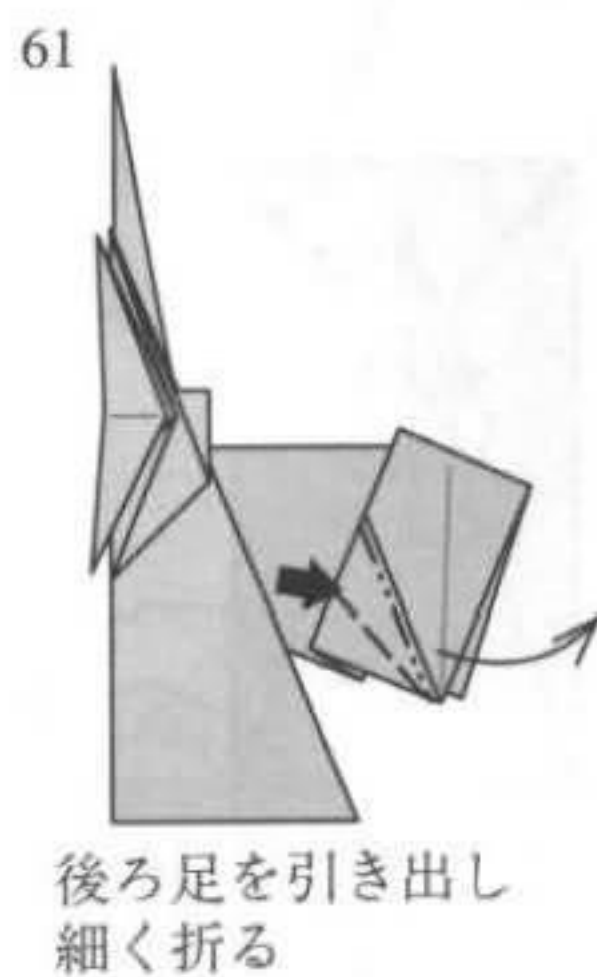
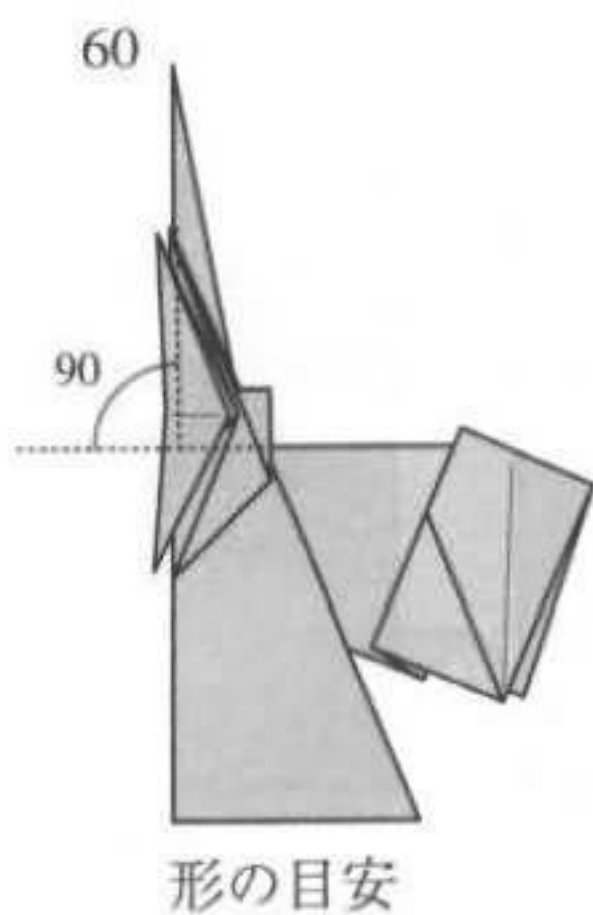
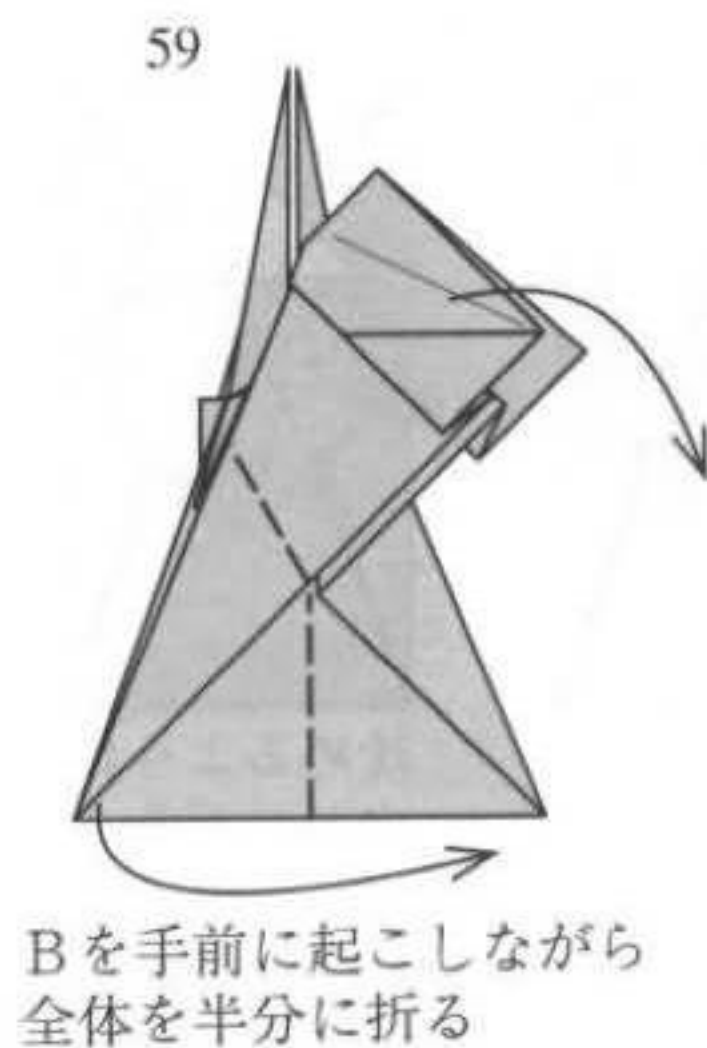
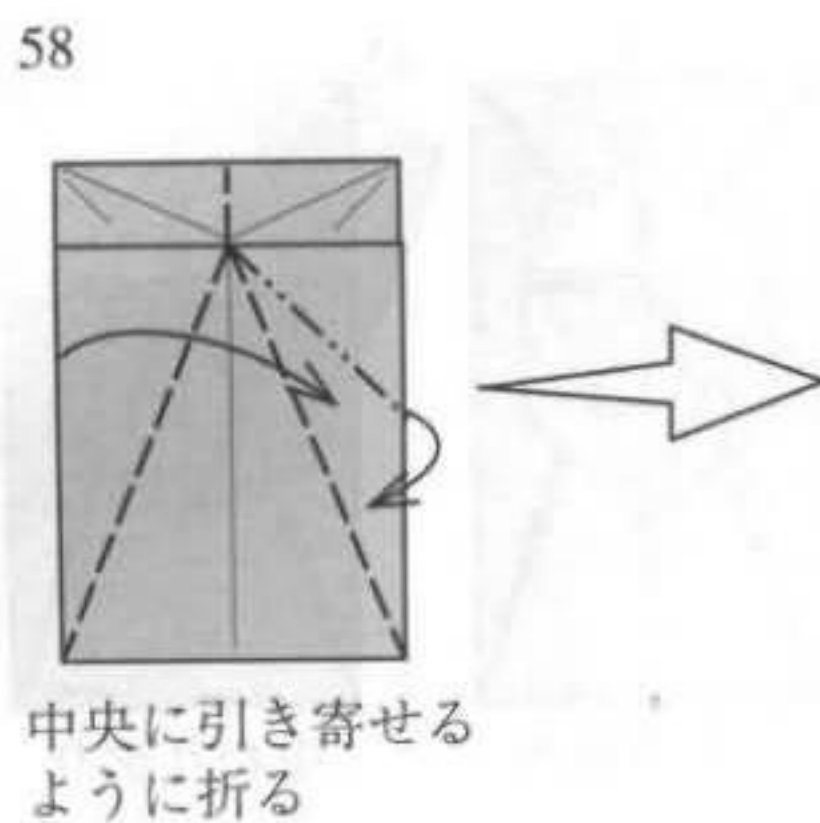
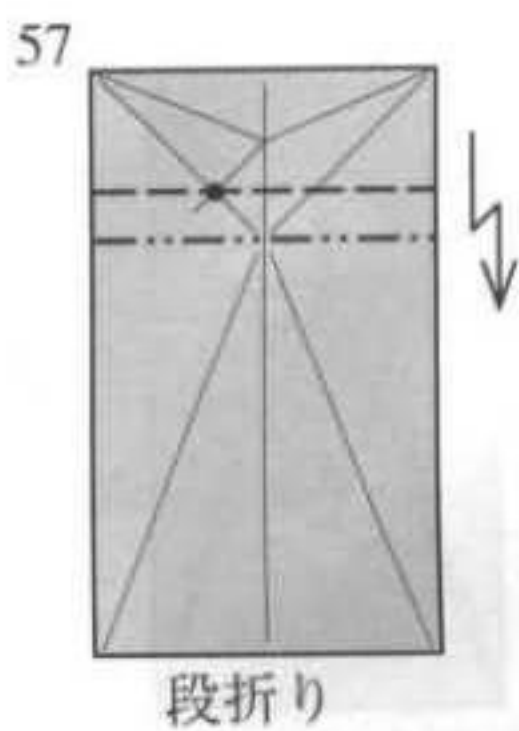


もう一度中わり折り
(内側を見た図)

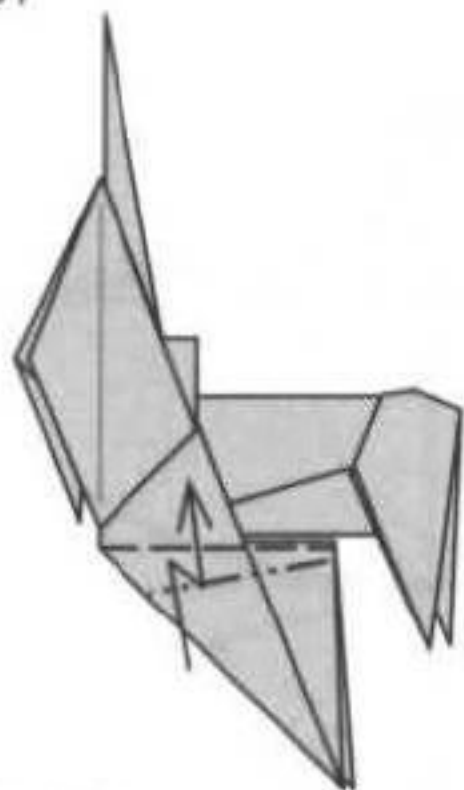


右側も37~40と
同じように折る



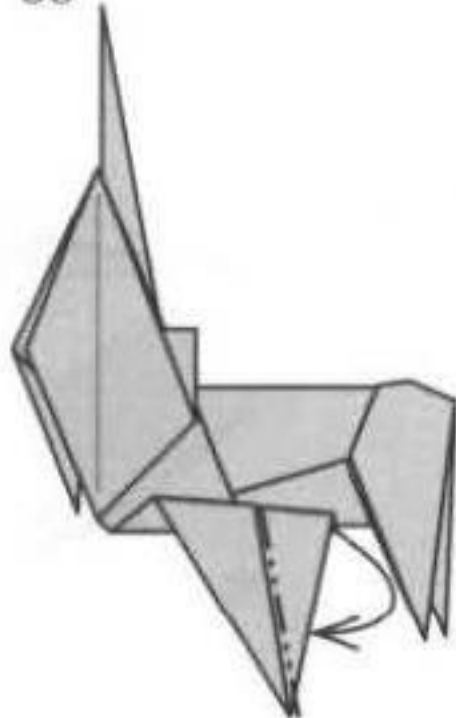


67



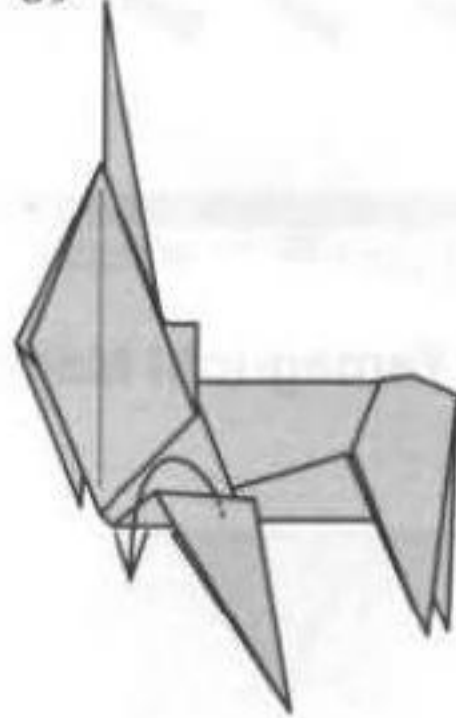
段折り
向こう側も同時に
紙が重なっているので
破れないように注意

68



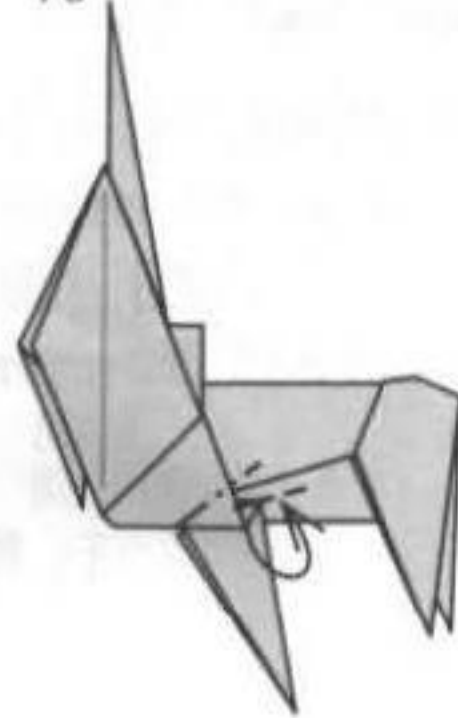
中わり折り
(変則的)

69



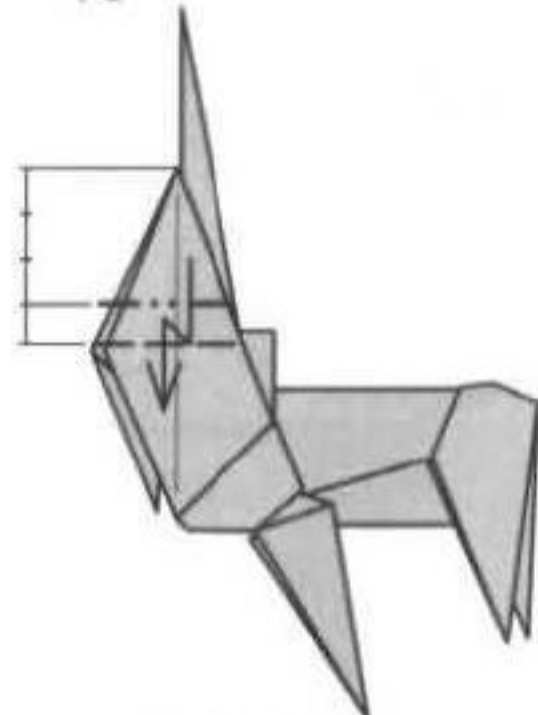
2枚を外側に折り返す
向こう側も同じ

70



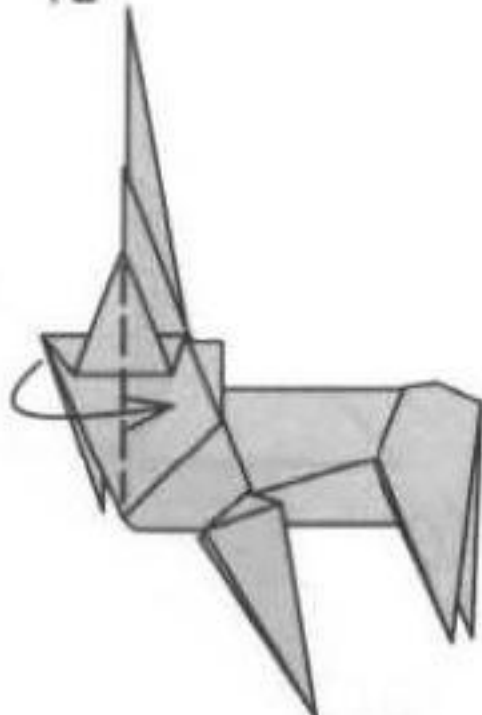
中わり折り
向こう側も同じ

71



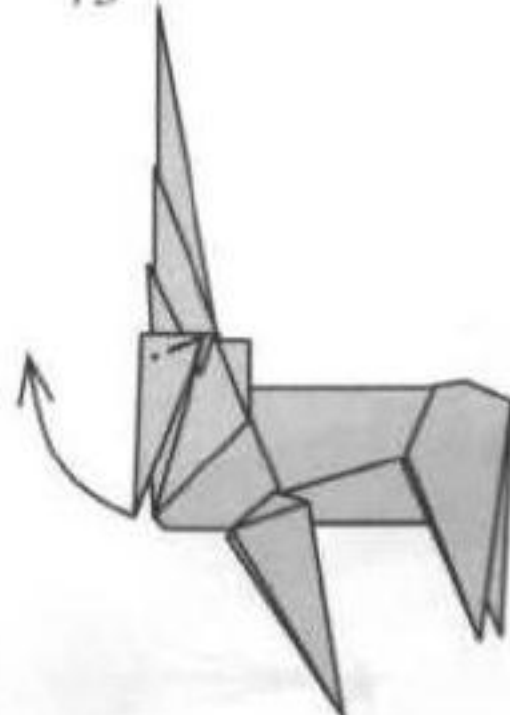
段折り
向こう側も同じ
耳になります

72



折り返す
向こう側も同じ

73



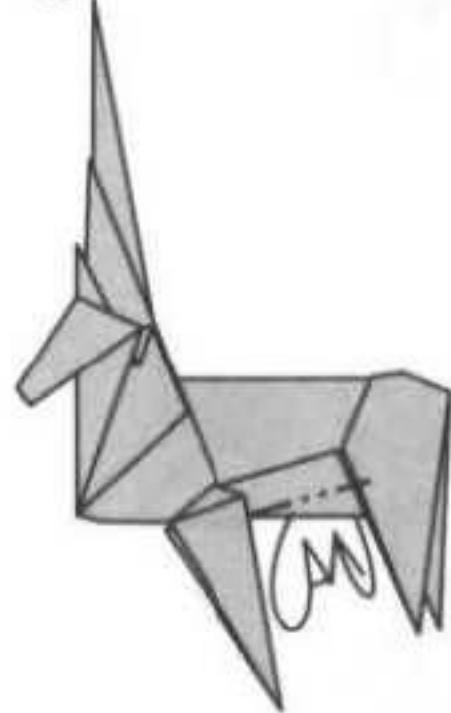
顔を引き起こす

74



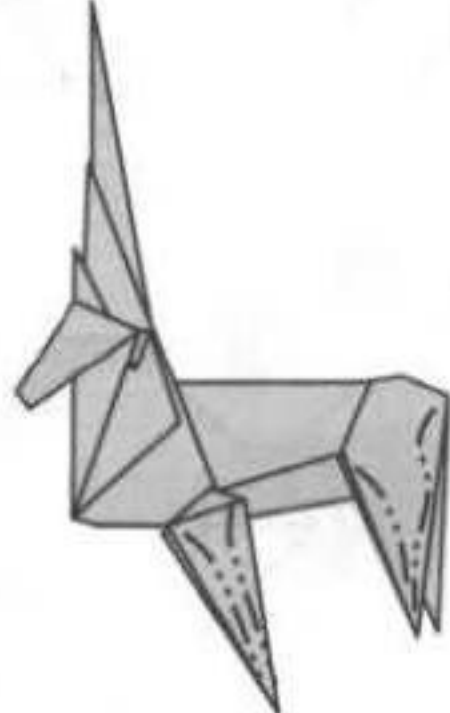
中わり折り

75



内側に折り込む

76



足を細く折る

77



つのを折る

78



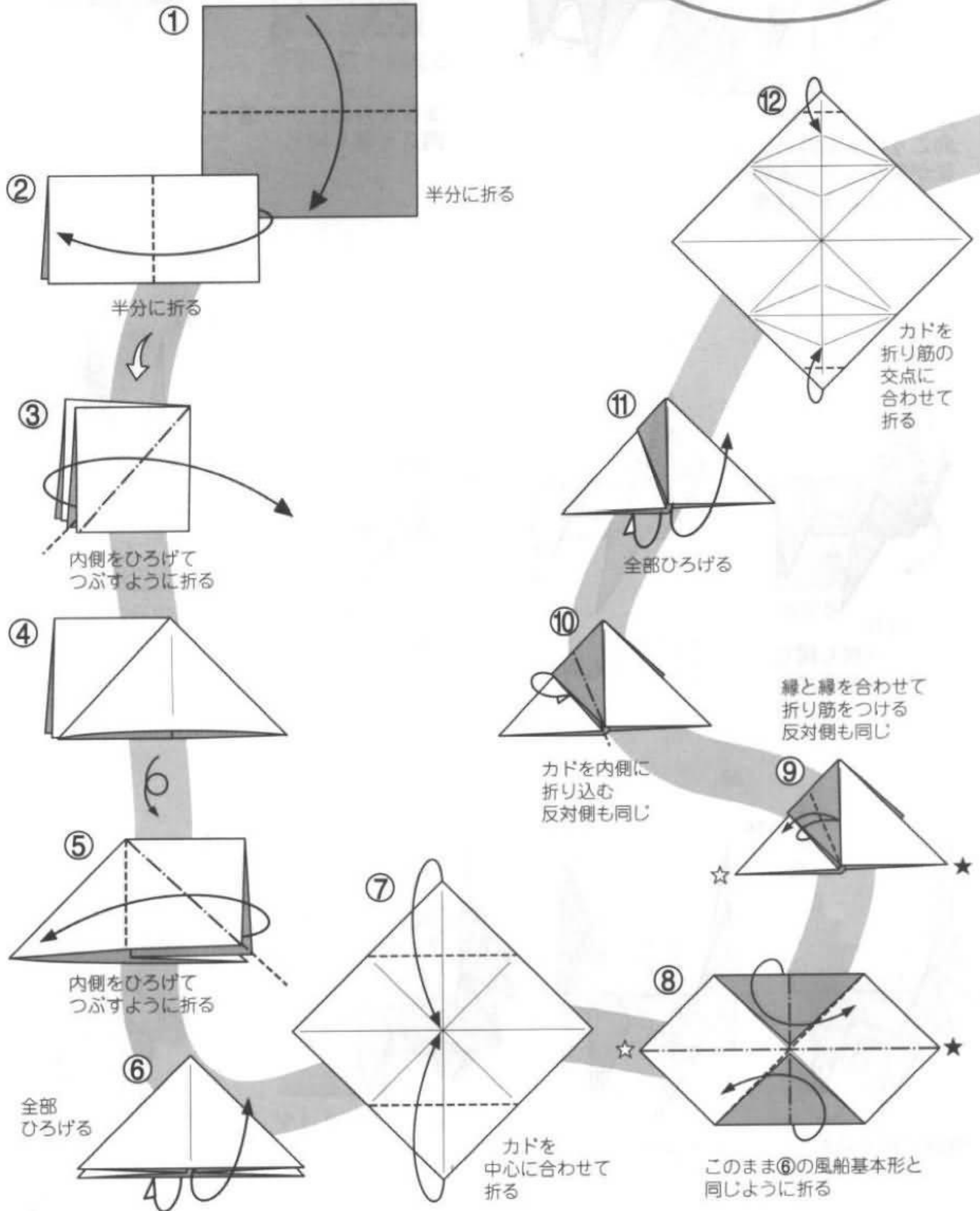
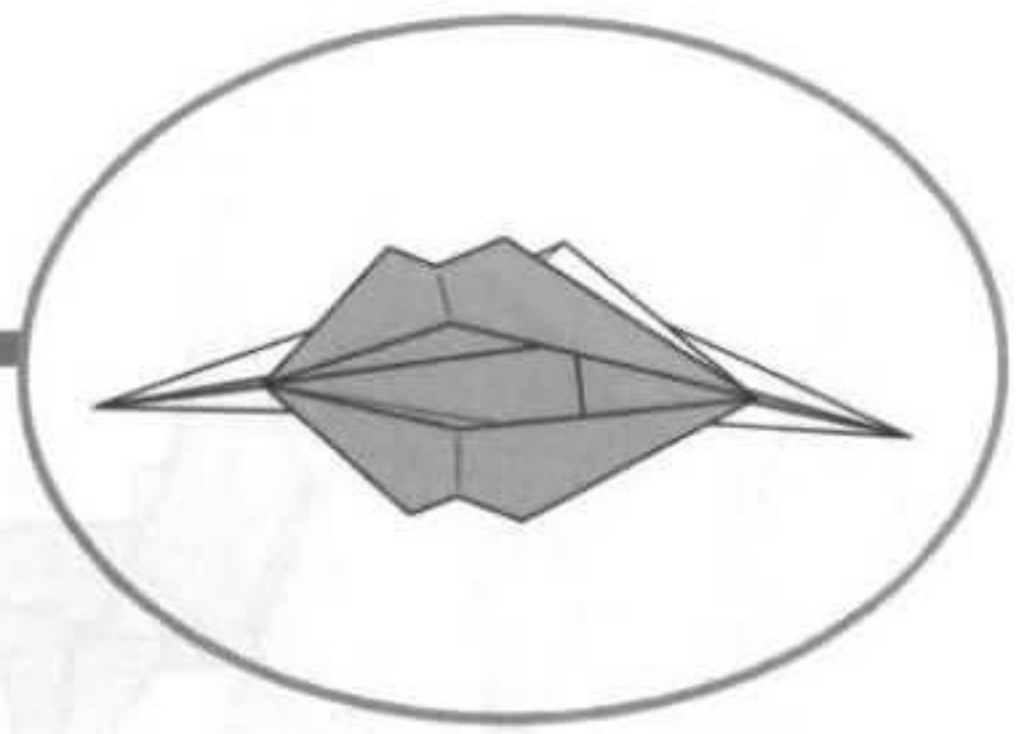
できあがり

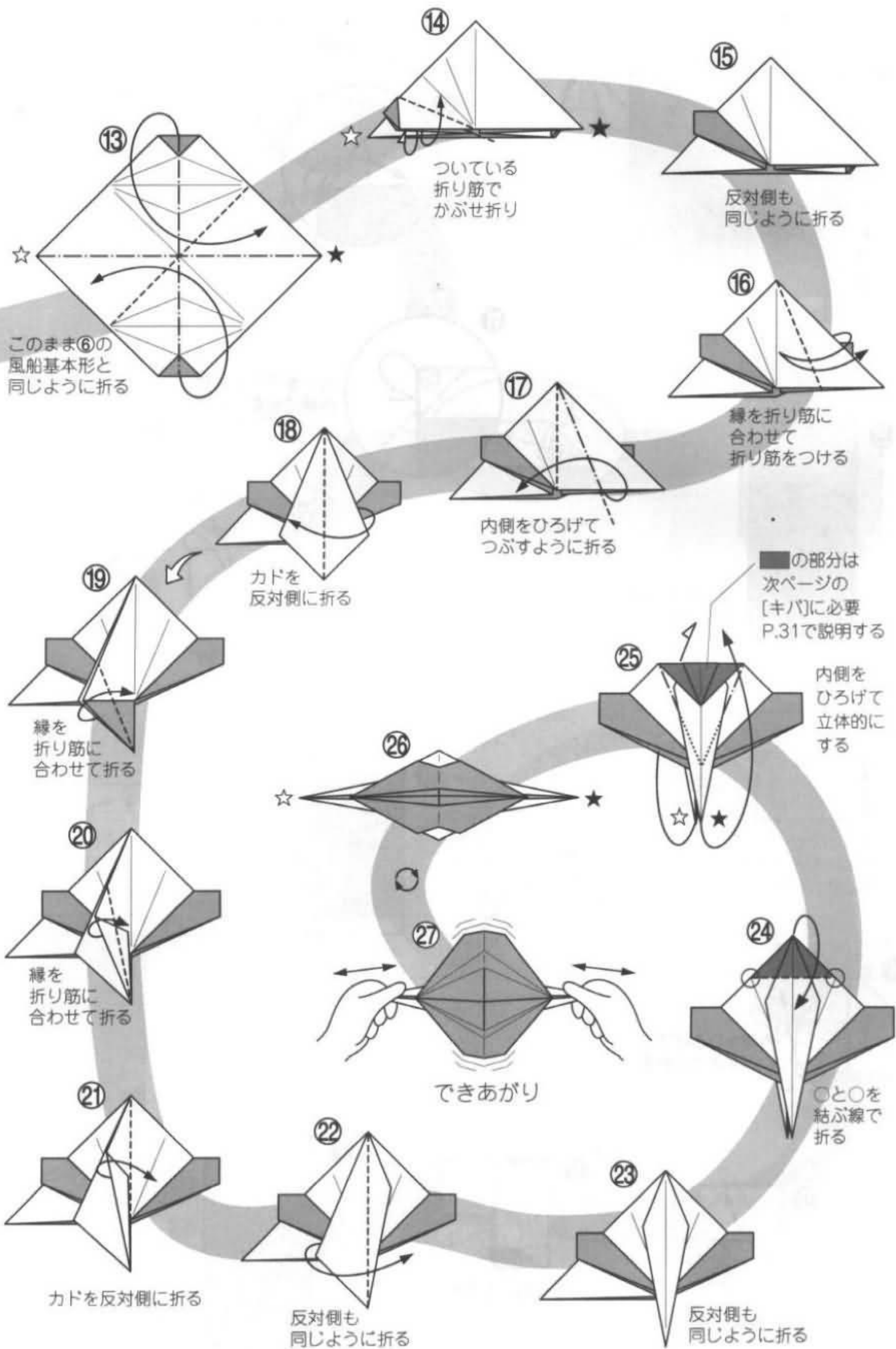
おしゃべりリップ

Chattering Lips

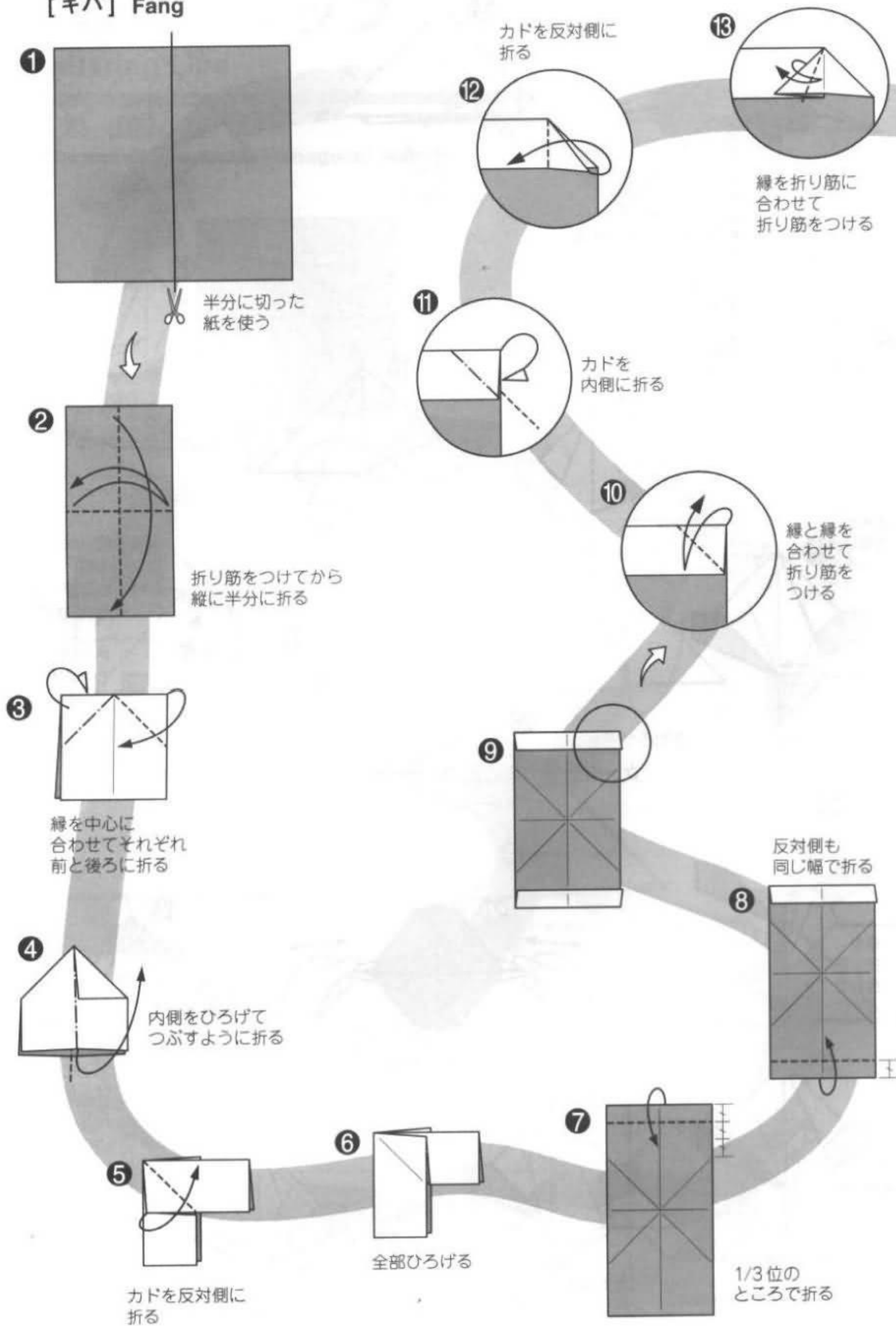
作・図 山口 真

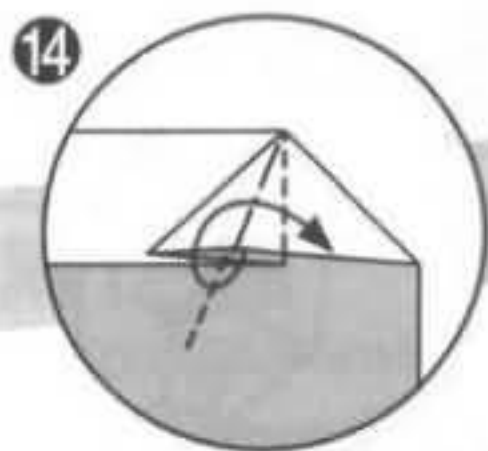
Model and Diagrams by Yamaguchi Makoto



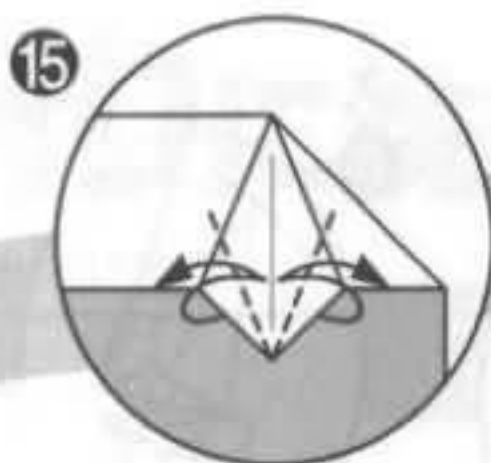


[キバ] Fang

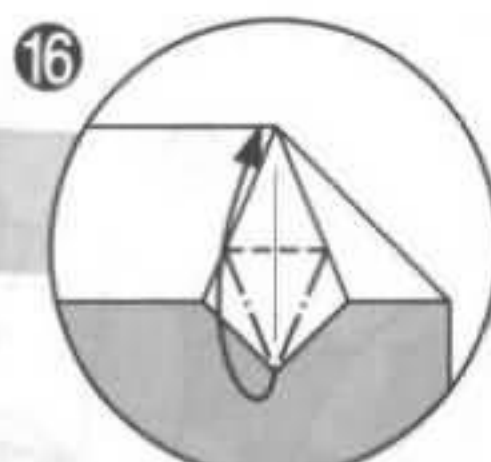




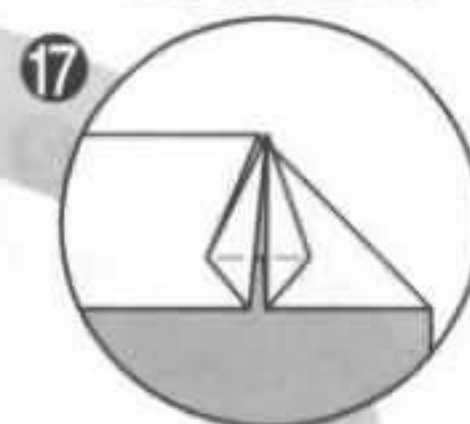
内側をひろげて
つぶすように折る



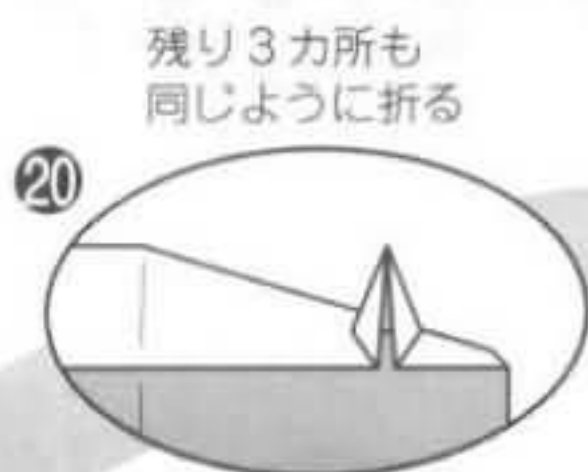
縁を折り筋に
合わせて
折り筋をつける



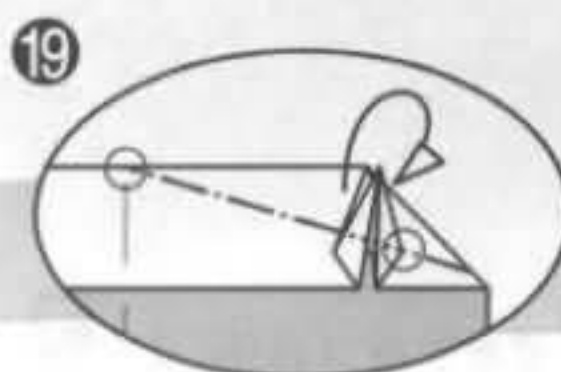
内側をひろげて
つぶすように折る



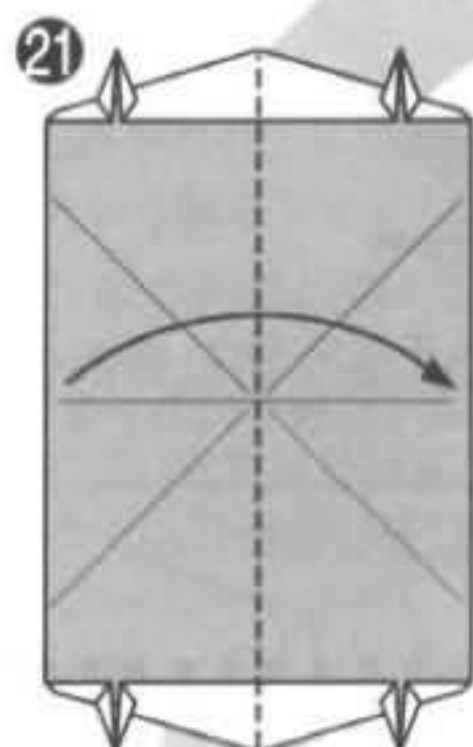
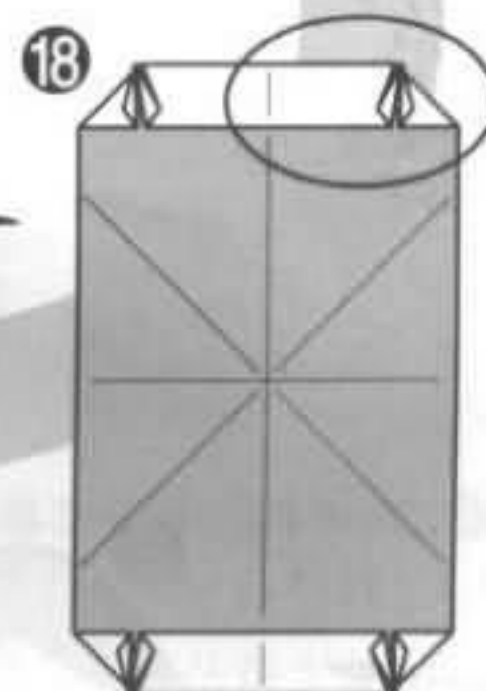
残り3カ所も
同じように折る



残り3カ所も
同じように折る



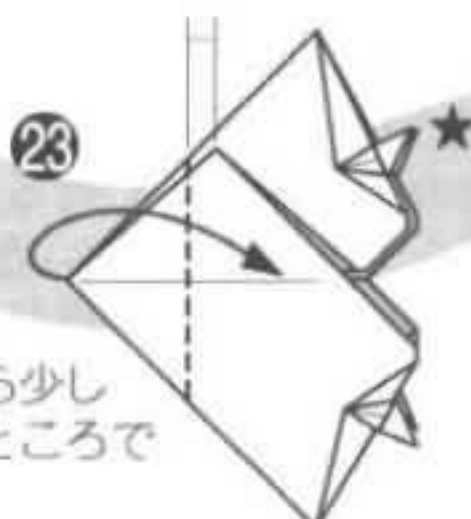
○と○を結ぶ線で
カドを後ろへ折る



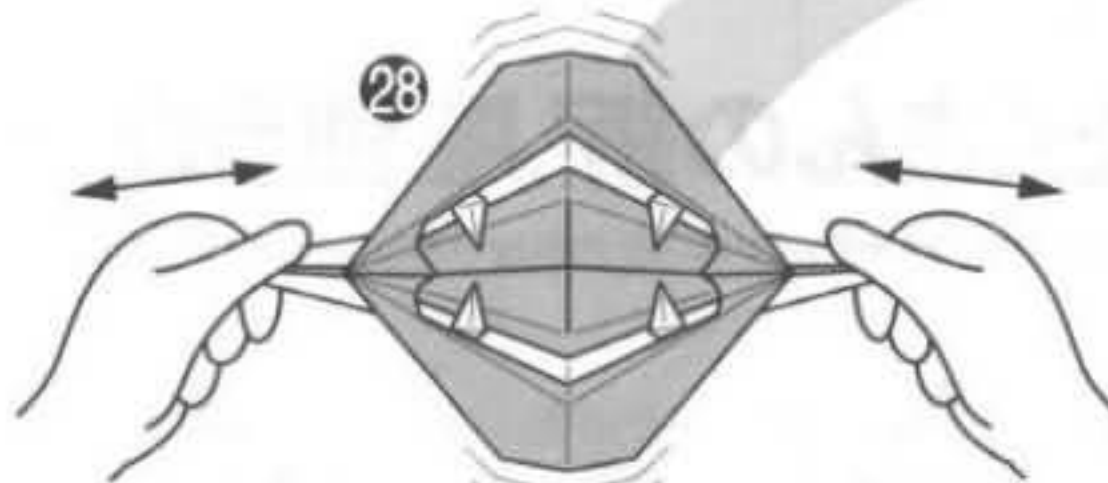
半分に折る



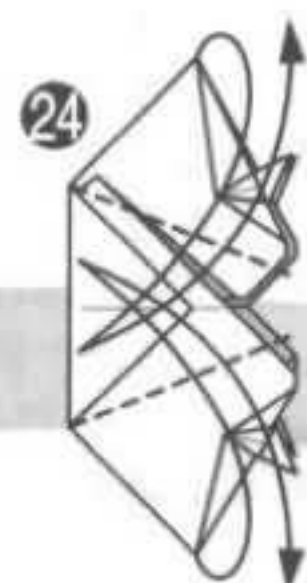
ついている
折り筋を使って
⑥の形に折る



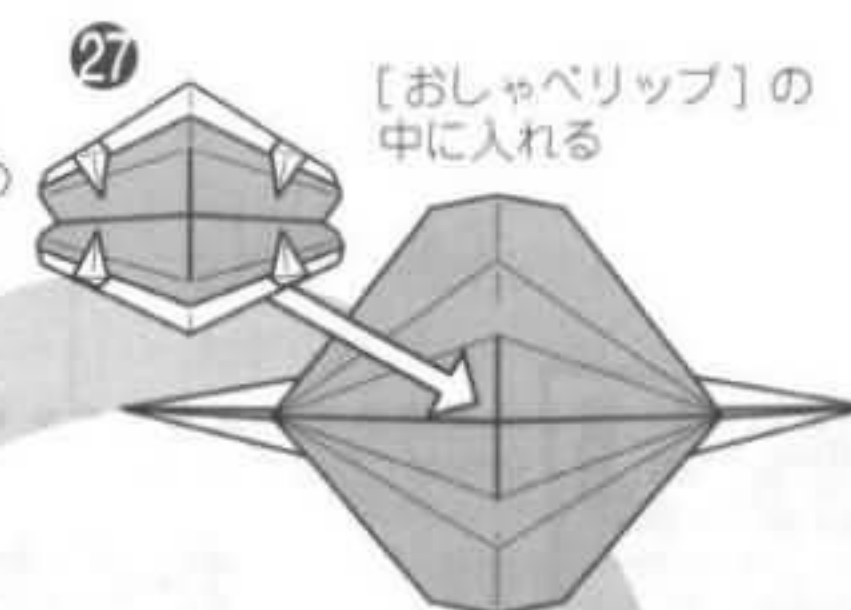
カドから少し
離れたところで
折る



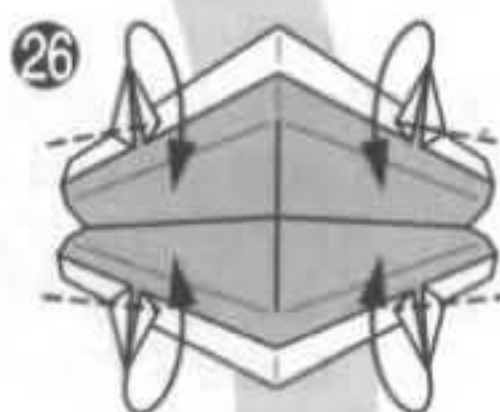
できあがり



縁と縁を合わせて
折り筋をつける



「おしゃべりリップ」の
中に入れる



キバを立てて
形を整える

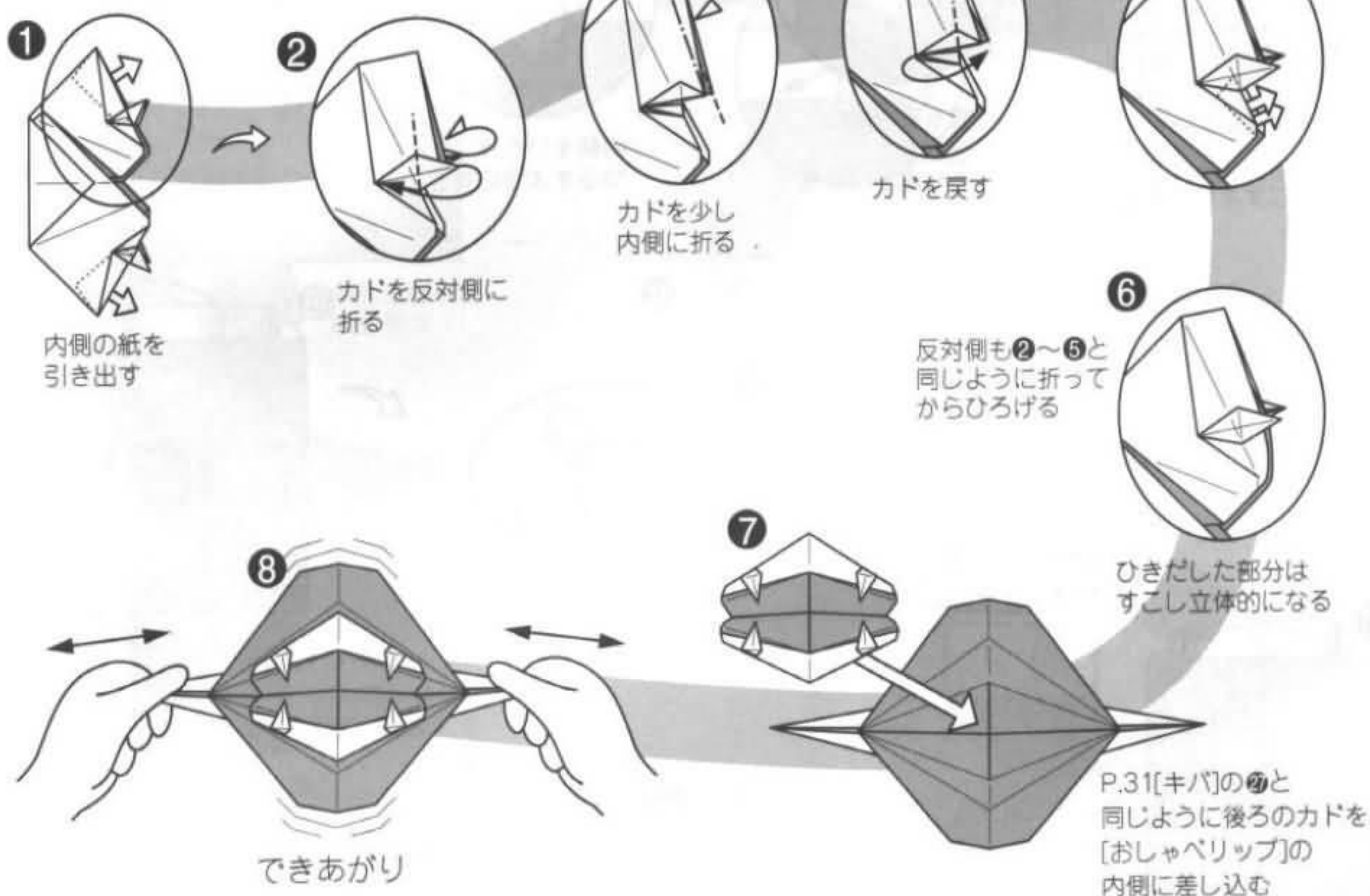
■の部分は
⑦で説明



内側をひろげて
立体的にする

[入れ歯とキバ] False Teeth with Fang

[キバ]の④まで折ったものから始める



Orisuzi ("Fold-Creases")

たくさんの折りを使う理由

The reason why I use so many folds and creases

Kamiya Satoshi

神谷哲史

私の作品には複雑な物が多い。おそらく9割くらいはコンプレックス、スーパーコンプレックスに分類されると思います。ときどき考える、なぜなんだろう?と。

この答えは私の折紙への考え方とともに変わっているのですが、現在の答えは「それが私の求める形だから」

私が物を作る場合、頭の中になんり明確な完成形のイメージがあります。そしてそれを目指して作って行くわけで、当然、完成した物はそのイメージに近い形になります。それで、このイメージというのが、かなり細かい部分まで出来ているのです。

私の中ではその題材のイメージに近いかが最大の評価基準になります。折紙としての完成度、構造の明解さ、折りやすさなどがどうしてもいいとまでは言いませんが、それらにある程度犠牲にしてでも私はイメージを優先します。(あくまで“ある程度”までですが)

例えば複雑なイメージがある物を試作して、それなりにシンプルにまとめたとしても。折紙としても悪くはない。が、なにか満足できない。なぜかと言うと、それは私の中のイメージを表現しきれていないからです。

私が作りたいのはそのイメージをうまく表現した物。頭から足の先、細

部までそれを感じられるものなのです。

これが私なりの複雑になってしまう理由です。

もちろんそのイメージがシンプルな場合、完成形もシンプルな物になります。まあ実際にそういう物はあまり無いのですが……。

ーおまけー

さて、このイメージというのはたいてい折紙的な形です。だからこそ折れる訳なのですが、面白い事にまったく折る予定のない、題材として考えていないものまで、そのイメージは折紙的な形みたいです。どうも私は折紙で世界を見ているらしい……。

展開図折りに挑戦!

Crease Pattern Challenge

第12回

Propeller Plane

プロペラ機

Miyajima Noboru

宮島 登



この作品の創作に着手したのは約4年前になります。(1)紙の中心からプロペラを折り出す、(2)周辺部に仕込み折りをして主翼と尾翼を折り出す、という基本アイデアから出発したもので、紙の内部に鶴の基本形を配置してその周辺部で遊ぶという方法論に

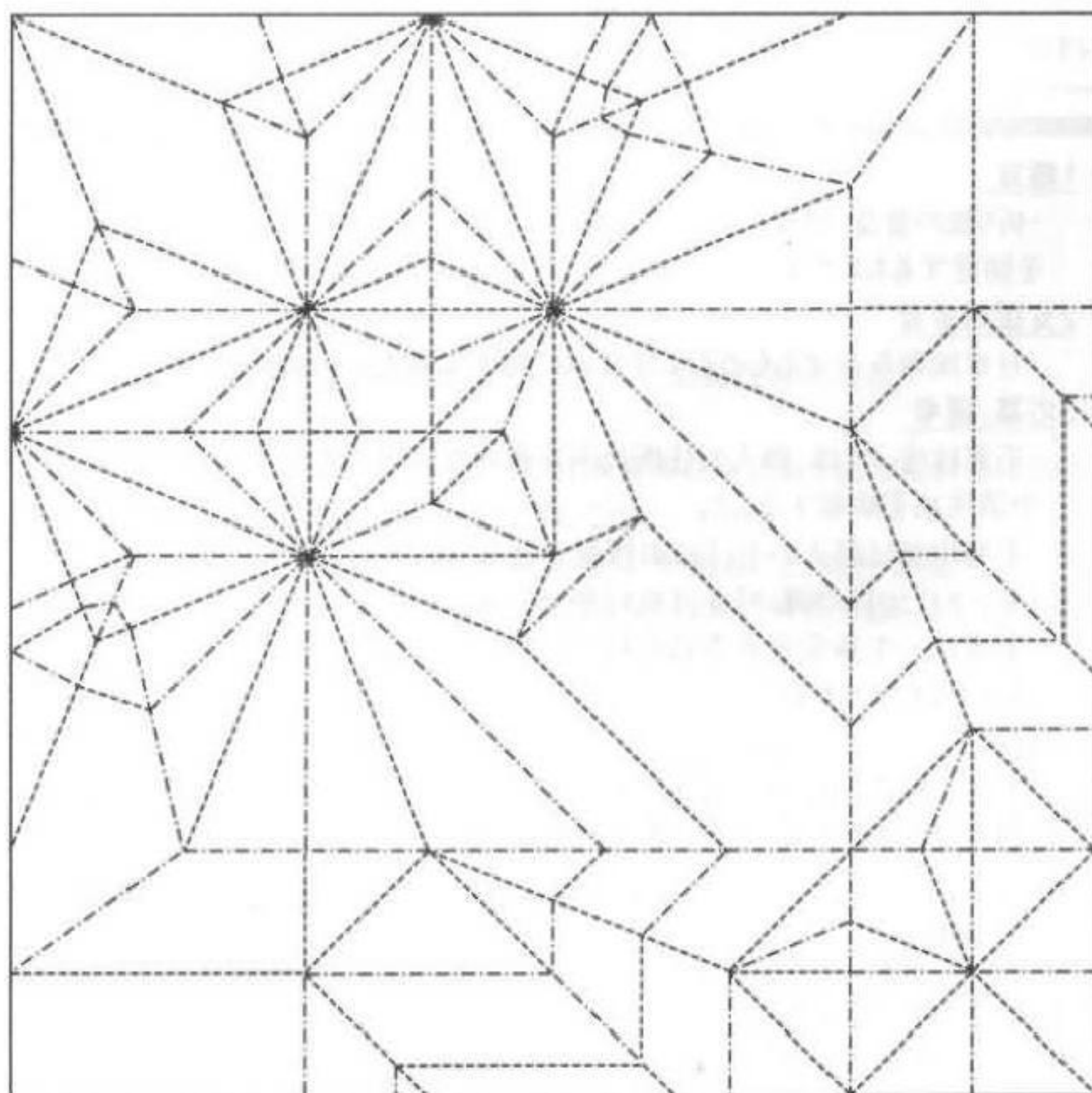
凝っていた(というか、それしかできなかった)時期のものです。コクピットの折り出しが“会心”で、欣喜雀躍した覚えがあります。

飛行機といえば、吉野一生さんの一連の作品が有名です。吉野さんの作品には、基本形という概念が(おそらく)な

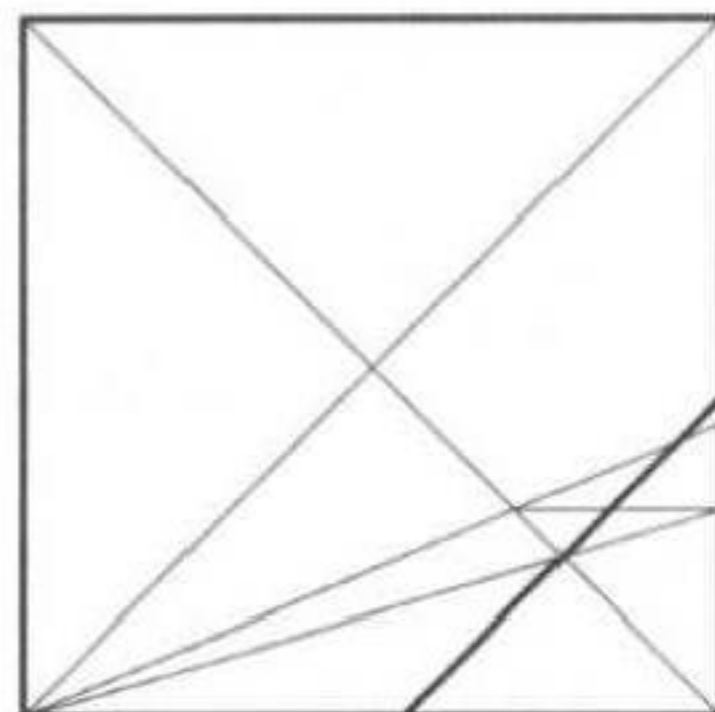
く、紙を端から折っていった、徐々に形を作りあげていくという、ほとんど余人には許されない方法論がとられているのですが、凡才の私に同じことができる訳がなく、最初に基本形を折りだしてから、形を仕上げるという、動物を折る際とまったく同じアプローチを用いました。おかげで、動物的なプロポーションを持った、独特なフォルムの飛行機に仕上がりました。

仕込み折りの比率がやや特殊ですが(図2参照)、基本形自体は結構単純です。実は神谷哲史さんの“バハムート”と構造が偶然にもそっくりだったりするのですが、似たような構造でも全く別の作品ができるというのも、折り紙の面白さですね。

今夏のコンベンションを目指して、折り図を鋭意製作中ですので、御期待ください。



△図1



△図2

日本折紙学会 (JOAS) から お知らせとお願い

雑誌「折紙探偵団」となっからいよいよ3年目を迎えることができました。これも、読者、会員の皆様のおかげと感謝しております。さて、2000年8月4日に行われた第1回の総会において会員の皆様から「日本折紙学会規約」および10名の評議員をご承認いただくことができました。あらためてお礼申し上げます。「日本折紙学会規約」に謳う目的の推進に向けて継続的に活動できますよう、今後とも皆様のご理解とご支援を心よりお願いいたします。この1年間のご報告とともに、次期の計画概要をお知らせいたします。



11期会員に送付予定のカレンダー(神谷哲史氏創作「龍神」展開図入り)と冊子(西川誠司氏「折り紙批評体系」)

1) 会員・定期購読者

本誌65号でもお知らせいたしましたように、第11期の購読者数は第10期に比べて若干下回っておりますが、一方で会員となっていたいただいている方が倍増しております。次期につきましても、引き続きご購読・会員継続していただきますようお願い申し上げます。11期の会員限定冊子は4月上旬にご送付させていただきますが、今後さらに充実させる所存です。

2) 吉野一生基金

海外折り紙愛好家との交流を促進する目的で設立された「吉野一生基金」には2000年1月以降も多くの皆様のご寄付をいただいております。会計報告は下記の通りです。改めてお礼申し上げます。

「吉野一生基金」では昨年8月、イギリスからポール・ジャクソン氏、アメリカからダニエル・ロビンソン氏を第6回折紙

探偵団コンベンションに迎えることができました。2001年も2名の招待を予定しており公募を開始しております。今回は公募枠を1名とし、「選考委員会」から1名の推薦を検討しております。

さて、昨年来予告しておりました日本人の海外渡航助成につきましても、以下の要領で募集いたしますので申請いただきますようお願い申し上げます。なお、募集開始時期が遅れました関係上、2001年に関しましては5月以前の渡航目的については事務対応できないこと

が予想されます。ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

渡航目的は海外コンベンション参加に限りませんが、ご参考までに開催予定のコンベンションカレンダー(つまみおり: P.37)をご参照ください。

3) 折紙探偵団コンベンション

2000年8月4-6日に第6回折紙探偵団コンベンションを東洋大学で開催いたしました。本大会では、本学会の顧問にご就任いただきました伏見康治氏をはじ

吉野一生基金海外渡航助成要項

1趣旨

・折り紙の普及、研究、交流を目的として渡航を希望する者、数名に各5万円を助成するものとする。

2支援対象者

・日本国籍を有するものおよび日本に居する個人。その他は不問。

3応募、選考

- ・応募に当っては、個人の住所氏名を書いた封筒に返信用の切手を貼り、申請用紙を請求すること。
- ・応募用紙に記入の上、「日本折紙学会」に郵送のこと。受付は2001年4月1日～5月20日の間。対象渡航時期は、2001年6月1日～2002年3月31日。
- ・選考は一生基金選考委員が行い、2001年度は5月下旬に採用の可否を知らせるものとする。

4義務

・申請が許諾されたものは報告書を作成すること。報告書は雑誌「折紙探偵団」あるいはその他学会の発行する研究誌等へ掲載される。

吉野一生基金海外派遣助成申請書記載事項

- ・申請年月日
- ・氏名
- ・住所/国名/電話番号/Eメール
- ・生年月日/年令/性別
- ・所属団体
- ・推薦者の氏名住所(あれば)
- ・略歴(書き方は自由)
- ・実績(これまでの活動内容など)
- ・渡航国/予定
- ・目的(できるだけ詳しく)
- ・事業(渡航)期間

吉野一生基金会計報告

2000年1月1日-2000年12月31日まで

収入 742,171円

内訳(個人寄付金650,390円、
コンベンションオークションなど:91,781円)

支出 403,730円

内訳(ポール・ジャクソン氏、ダニエル・ロビンソン氏招待:400,000円、事務費:3,730円)

2000年度基金残金(12月時点)

差し引き残金:338,441円

残金総計(2000年12月現在)

2,284,931円

FROM the BOARD of JOAS (Summary)

1) We have 1,140 subscribers (including 151 overseas) and 238 members (including 13 overseas) as of January 15th 2001. The board consists of around ten directors. They are currently Okamura Masao, Kawasaki Toshikazu, Kawahata Fumiaki, Kimura Yoshihisa, Nishikawa Seiji, Hatori Koshiro, Fuse Tomoko, Hojyo Takashi, Maekawa Jun and Yamaguchi Makoto.

2) Yoshino Issei Fund continues to be managed by JOAS. We will invite two persons from abroad this year with the Yoshino Fund. One person will be invited based on recommendation by the board of directors, and we invite applica-

tions for another.

3) We are going to hold the 7th convention on August 3-5 2001 at Toyo University, Tokyo.

4) The subscription fee of volume 12 is 3,600 yen for domestic or US\$40 for overseas (including postage). The membership fee of 2001 is 8,000 yen for domestic or US\$90 for overseas (including subscription fee and postage)

5) This year we are starting three projects. First, we will explore into the copyright issues surrounding origami. Second, we will start our research into the possibility of founding the Origami Library. Finally, we will systematize our procedures of supporting activities related to origami.

め、芳賀和夫氏、川村みゆき氏による講演会を行い、折り紙教室大会に於きましても250名以上のご参加をいただきました。2001年も8月3-5日に第7回折紙探偵団コンベンションを同じ東洋大学をお借りして開催することが決定いたしました。また、折紙探偵団地方コンベンションもますます充実してきております。地方コンベンションは、雑誌「折紙探偵団」の読者組織である「折紙探偵団友の会」が自主運営するものです。世話役となっていた

だいています友の会の皆様にはこの場を借りて心よりお礼申し上げます。

4) その他の事業計画

第12期は、新しく3つの事業の整備・準備を計画致しております。1つは、多くの折り紙愛好家の皆様の関心事であります著作権問題の研究活動です。著作権問題は、権利保護と利用の利便性、更には侵害についての対処など多方面から議論される必要があり、一朝一夕に決定

版を出すことはできないと思います。しかしながら、困難であることを理由に避けて通ることはできないとの認識から問題点や解決に向けたアプローチを議論するきっかけを作りたいと思っております。具体的にはたたき台となる座談会の企画等により現状の問題点の整理を行ってゆきたいと考えております。

2つ目は、これも多くの折り紙愛好家の皆様から要望の高い、折り紙資料のライブラリー構築に関するものです。折紙図書館(仮称)の設立に向けて検討を開始したいと考えており、資料収集方法・場所・貸出閲覧方法などについて12期中には何らかのインフォメーションを発信したいと思います。

3つ目は、日本折紙学会による折り紙愛好家の皆様への支援活動についてです。まだまだ微力な本学会ではございますが、折り紙の普及・研究活動を行ってられる折り紙愛好家の皆様から、支援のご要望が寄せられております。これへの対応といたしまして「日本折紙学会支援応募要項」を作成いたしました。現状の本学会の経済状況では金銭的支援を行うことは困難ですが(吉野一生基金による海外渡航助成が金銭的支援の唯一のものとなる)、本学会が保有しております幾つかのメディアを利用した支援が可能と考えております。

5) 総会・会計報告

日本折紙学会2000年度の会計報告につきましては、第7回折紙探偵団コンベンション開催期間中に予定しております総会においてご報告いたします。2001年6月30日までに第12期会員登録いただきました皆様には、追って総会のご案内をご送付申し上げます。

日本折紙学会支援応募要項

1趣旨

・折り紙の普及、折り紙を手段として交流を図ることを目的とする者、あるいは折り紙に関する研究活動において日本折紙学会が承認を与えるもので、金銭的支援はしない。

2支援対象者

・国籍、年齢、団体、個人は不問。

3支援内容

・後援、協賛等、「日本折紙学会」の名称使用。
・講師派遣等、人的支援。
・雑誌「折紙探偵団」およびウェブサイトへの活動内容の掲載。

4応募、選考

・支援の応募に当っては、個人または代表者の住所氏名を書いた封筒に返信用の切手を貼り、申請用紙を請求すること。
・応募用紙に記入の上、「日本折紙学会」に郵送のこと。受付は随時。
・選考は評議員が行い、受付より2週間以内に採用の可否を知らせるものとする。

5義務

・申請が許諾された場合、報告書を作成し学会に提出すること。

日本折紙学会支援申請書記載事項

・申請年月日
・氏名
・住所/国名/電話番号/Eメール
・生年月日/年齢/性別
・所属団体
・推薦者の氏名住所(あれば)

・略歴(書き方は自由)
・実績(これまでの活動内容など)
・支援の種別
名称使用・講師派遣・機関誌等への掲載・その他
・事業内容(できるだけ詳しく)
・事業期間



Rabbit Ear

つまみおり

Information

第7回 折紙探偵団コンベンション 開催日決定

2001年8月3日(金)、
4日(土)、5日(日)

会場は東洋大学(東京・文京区)

昨年も250名を超える参加者で大盛況となった「折紙探偵団コンベンション」。すでに夏の一大イベントとして定着している。1日目の8月3日は昨年同様[日本折紙学会総会]及び[講演会]、2日目、3日目は[折り紙教室大会]となる。初日の[講演会]では世界的にミウラ折りで有名な三浦公亮氏を招いての講演が予定されている。「吉野一生基金招待作家」と「第7回コンベンション折り図集」の原稿の募集もはじまった。今年はさらに折り紙教室の講師も募集している。

毎年 内容の充実とレベルアップを重ねてきた「折紙探偵団コンベンション」。海外での評判も上がり、第7回に来日の予定を合わせる問い合わせも多い。(クリス・バルマー、マーク・ケネディー、ジョセフ・ウー氏など10名を超える人が参加予定)

今年も2名の吉野一生基金による海外作家の招待を予定している。毎年積極的に交流する姿が多くなり、国内若手作家にもいい影響が表れている。

コンベンション参加費は三日間通して5000円(予定)。教室に必要な折り紙や記念バッジなどが含まれ、懇親会を除く全てに参加できる。

恒例の懇親会や宿泊(希望者のみ)も計画している。詳細は67号以降で案内の予定。年に1回、ここだけで顔を合わせるといふ人も多い。積もる折り紙話に花を咲かせていただきたい。

7th Origami Tanteidan Convention

We Japan Origami Academic Society is going to hold The 7th Origami Tanteidan Convention on August 3-5 at Toyo University, Tokyo. More than 200 origami-lovers will enjoy many origami classes, classes in origami studies, and attractive events. In addition, you can share origami experiences with advanced designers or eager beginners.

We exempt all foreigners from the admission fee of the 7th convention. We

●講師募集中●

今年のコンベンションでは講師をやっていただけでも広く募集しています。講師としての参加もコンベンションの楽しみ方の一つです。参加費は同様にお支払いいただかなくてはなりませんが、自慢の創作を披露したい方や、創作ではないけれど他の人に是非勧めたい作品があるなど、情熱があれば資格年齢等不問。

申込方法:規定の申込用紙に必要事項を記入の上、事務局までお送りください。申込用紙希望の方は事務局にお問い合わせください。

注意!:他人の作品を使用される場合(アレンジ含む)は、原作者などの許可が必要です。ご自身で許可を取得の上、原作者名を明記してお申込み下さい。

will welcome all of you to our convention 2001.

Further information will be available in the magazine and our web site.

Also you can contact us by e-mail at webman@origami.gr.jp.

Convention Book Vol.7 ● ● ● ● ●

We are accepting diagrams for Origami Tanteidan Convention Book volume 7. The selected models will be published in this book. The format of diagrams is available from our web site. They can be computer-generated or handwritten.

◆折紙探偵団コンベンション 折り図集VOL.7 原稿募集のお知らせ

「折紙探偵団コンベンション折り図集」は今年でVOL.7の発行となります。作品、折り図共に毎年レベルアップし、世界の折り紙愛好家にとっては貴重な資料となっております。この折り図集は、コンベンションの講師を中心に、国内外の折り紙作家、折り紙愛好家の方々から提供していただいた作品・折り図で成り立っています。

今年も充実した内容の折り図集を目指し、現在広く一般からの折り図を募集しています。掲載された方には「折紙探偵団コンベンション折り図集Vol.7」を1冊進呈します。

折り図応募要項

原稿はデジタルデータ、手描きどちらでも可。応募資格:アマ・プロ、年齢不問。本誌購読者及び日本折紙学会会員である必要なし。コンベンション参加不問。

●応募作品の条件

創作もしくはアレンジの作品で、自作の折り図に限る。(アレンジ作品の場合は、オリジナルの著作権者の了解を取った上で、名前も明記すること。)

原稿サイズ:縦227mm×横162mmの枠内に収まるように、さらに図は枠から数mm余裕を取ってレイアウトして下さい。

※作業の都合上レイアウト等に多少変更を加える場合がございます。ご了承下さい。

締切:2001年6月9日(土)事務局必着

※掲載に際しては選考が行われます。詳細は事務局又は折紙探偵団のホームページまで。

TEL&FAX:03-5684-6080(日・祝休)

URL: <http://www.origami.gr.jp/>

Mail: origamih@remus.dti.ne.jp

第7回折紙探偵団コンベンション 第5回吉野一生基金海外招待作家募集 5th Yoshino Issei Fund Invitation

海外との折り紙交流を目的として設立された「吉野一生基金」は、折り紙愛好家の支えによって成り立っている。今年もこの基金によって、折紙探偵団コンベンションに海外作家を招待することになった。第5回となる2001年は、公募枠を1名とし、「選考委員会」から1名の推薦を検討している。

吉野一生基金 第5回海外招待作家募集要項

応募資格・条件

- 1) 現在、折り紙の創作活動に情熱をもって取り組んでいる個人。
- 2) 第7回折紙探偵団コンベンションの開催が予定されている2001年8月3・4・5日に日本に滞在し、コンベンションに全日参加する。
- 3) コンベンションでは講師(1-2時間)を担当する。また来日中の活動について報告書を作成する。
- 4) コンベンション期間内にギャラリーおりがみはうすでの自作品展示をする。

採用決定の連絡

応募者へは5月中旬に採否を連絡します。また、「折紙探偵団」67号(5月25日発行)誌上およびウェブページ上にも発表します。

応募者が複数の場合には、日本折紙学会内で組織する選考委員会(岡村昌夫、川崎敏和、川畑文昭、木村良寿、西川誠司、布施知子、前川淳、山口真)で採否を決定します(これまでに折り紙交流としての来日経験のない若手作家が優先される可能性があります)。

招待内容

- 1) 日本への交通費相当として200,000円を支給。
- 2) 第7回折紙探偵団コンベンションへの参加費・懇親会費を免除。

応募方法

- 自薦・他薦可。
- 応募者の 1.氏名 2.年齢 3.住所 4.電話番号(FAX、電子メールアドレス) 5.簡単なプロフィールを明記し、代表作2-3点を添える(作品写真、折り図、著作物も可)。
- 締切:2001年4月末日
- 応募先:ギャラリーおりがみはうす内日本折紙学会:吉野一生基金宛に封書で郵送(お送り頂いた資料は返却しません。ご了承ください)

Yoshino Issei Fund invites foreign origamists to our conventions.

We have established Yoshino Issei Fund to commemorate the talented origami designer Yoshino Issei and invited foreign origamists to our conventions.

This year, we would like to invite two foreign origamists to the 7th convention. We are accepting candidates until the end of this April. We accept both recommendations and direct applications. The selection committee will decide who we invite and announce the conclusion this May in the magazine, our web site and directly to the winners. The members of the committee are Fuse Tomoko, Kawahata Fumiaki, Kawasaki Toshikazu, Maekawa Jun, Nishikawa Seiji, Okamura Masao, Kimura Yoshihisa, and Yamaguchi Makoto.

The selected guests must attend the 7th convention and instruct some models.

They must also supervise an exhibition at Gallery Origami House.

Yoshino Issei Fund offers them 200,000 yen for traveling and staying expenses. We also advise on their stay.

Send us your application with the candidate's name, age, address, telephone number, fax number, e-mail address, and some works (photographs of the model, diagrams, or books).

Yoshino Issei Fund
c/o Gallery Origami House
1-33-8-216, Hakusan, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-0001, JAPAN

◆2001年世界の折り紙コンベンションカレンダー

日本 人の海外渡航助成について、吉野一生基金から募集がはじまった。海外コンベンションへの参加をはじめ、折り紙に関する事で渡航される方々への助成制度だ。詳細は本誌P.34~35に記載されているので、是非そちらをお読みいただきたい。

ここでは、世界のコンベンション日程などの情報をまとめた。主に国際的なコンベンションを中心に掲載したが、各国の地方コンベンションまであわせると膨大な数になる。各コンベンションの詳細は、ウェブなどを通じて随時公開されているのでそちらをご覧ください。

2001年	
3/30-4/1	ノッティンガム(イギリス) BOS Spring Convention
3/30-4/1	フェルトホーフェン(オランダ) OSN Origami Weekend
5/11-13	アランフェス(スペイン) AEP Convention
5/11-13	ブランネンブルク(ドイツ) OD Convention
5/24-27	パリ(フランス) MFPP Convention
6/23-25	ニューヨーク(アメリカ) OUSA Convention
7/29-7/31	函館(日本) NOAシンポジウム
8/3-5	東京(日本) 第7回折紙探偵団コンベンション
8/10-12	ペーチュ(ハンガリー) HOS Convention
9/7-9	ロンドン(イギリス) BOS Autumn Convention
11/9-11	カリ(コロンビア) Origami Colombia 2001
11/10-11	静岡(日本) 第3回折紙探偵団静岡コンベンション
2002年	
3月下旬	京都市(日本) 第3回折紙探偵団関西コンベンション

◆12期継続のお知らせ

早いものでご購入いただいた11期も今号で最後となります。来期(12期)も魅力ある誌面を提供していきます。

■購読料は今期と変わらず年間で3,600円。67号から72号までの年間6冊の購読となります。

ここで12期でお届けする内容をいち早くお知らせしましょう。

■布施知子氏、田中具子氏の人気連載はそのままに、新たに芳賀和夫氏による「オリガミクス」が登場。折り紙と数学の不思議な関係を氏が分かり易く解説します。折り紙の歴史研究では、岡村昌夫氏に加えて高木

智氏も新たに参加します。前川淳氏の「折り紙散歩」もさらにパワーアップ。その他毎号最新の折り図、海外でも人気の高い「展開図折りに挑戦!」、情報コーナーの「つまみおり」など充実した内容をお届けしていきます。

■継続の詳しい内容は同封の「第12期購読のご案内」をご覧ください。

■12期への継続のお申込みは同封振替用紙をお使い下さい。

◆雑誌『折紙探偵団』未着の際には...

ご存じのように、この雑誌は「クロネコメール便」を利用して配達されています。住所変更の際事務局に直接ご連絡いただかなかった場合は郵便局に転居通知が届けられていても、古い住所にそのまま配送されてしまいます。遅れてご連絡頂くことがあります。発送が終わってしまうと返送してもらうことが難しくなります。ご本人の手続きミスの場合は料金ご負担の上で再送をしております。(右記参照)住所変更が決まりましたら、なるべく早くご連絡ください。

また中には、配送業者の誤配送や天候等による遅れということもあります。あまり時間がたってしまうと原因追及が非常に難しくなります。「発行予定日(奇数月25日)」を大きく過ぎて、翌月第一週も過ぎたのに「折紙

探偵団」が届かない」という場合はトラブルの可能性がります。事務局へ電話又はFAX、E-mail等でお問い合わせください。

日本折紙学会事務局

TEL&FAX: 03-5684-6080 (日祝休)

E-mail: webman@origami.gr.jp

再発行手続きの条件

●事務局に雑誌が返送されてきて、転居、住所表記変更などによる連絡漏れが無い

→調査ののち、問題がなければそのまま再発送。

●前述の連絡事項の申告に遅れがあった
→発送分が返送されている場合には送料本人負担で再発送。

→発送分が返送されていない場合は一冊600円の本人負担で再発送。

◆例会のお知らせ

※おりがみ用紙は各自持参をお願いします。

東京友の会

会場=文京区シビックセンター地下一階
生涯学習センター

参加費=400円(中学生以下半額)

講習会=午後2時~

研究会=午後4時~

●4月7日(土)「アトリエ」で行います

講師:前川淳「未定」

●5月12日(土)「学習室」で行います

講師:中村桂一「未定」

4月、5月共に会場は文京区シビックセンターです。ご注意ください。5月はGWのため第2週に行われます。最寄り駅は都営三田線なら春日駅、丸の内線・南北線の場合は後楽園駅となります。

静岡友の会

毎月第4月曜=やさしい折り紙の好きな主婦を中心としたグループです。気軽に遊びに来て下さい。

4月23日(月)13時~15時。お問い合わせは16時以降、054-254-4541(増武内 山口)

会場=増武ビル 静岡市呉服町1-3-6

関西友の会

4月15日(日)14:00~17:00

1部=長岡京市産業文化会館(3階会議室)
参加費:500円

講師:松原みち「未定」

2部=17:00から場所を変えて懇親会

参加費:4,000円程度

◆日本折紙学会入会とバックナンバーのご案内

●日本折紙学会では会員を随時募集しています。12期でも会費8,000円(購読料含む)で会員を募集しますが、11期についても今から入会可能です。すでに購読料金3,600円を支払われている場合は、追加分4,400円を郵便振替にて、通信欄に「入会希望、会費差額分」と明記の上指定の口座へお振り込みください。

12期の入会方法については同封の「第12期購読のご案内」をご覧ください。

口座番号:00180-8-579860

加入者名:折紙探偵団

●10期、11期バックナンバーも購入可能です。各料金を上記口座へお振り込みください。

▽10期(55号~60号/6冊3,000円)

▽11期(61号~66号/6冊3,600円)

※必ず通信欄に送金目的を記入願います。

◆「折り曲げ厳禁」表示を追加しました

購読者の方から配達時に本誌が折り曲げられて届いた、というご連絡をいただきました。今後このような事が無いよう封筒に「折り曲げ厳禁」の文字を入れ、発送業者にも注意を促してまいります。ご迷惑をお掛けした方々にお詫び申し上げます。

◆おたより大募集◆

宛先 113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216

ギャラリーおりがみはうす内

折紙探偵団編集部

E-mail webman@origami.gr.jp

折紙探偵団ホームページ公開中

<http://www.origami.gr.jp/>

団員パスワード/Pyramid(大文字・小文字別)

折紙探偵団

2001年3月25日発行

第11巻6号通巻66号

発行所/日本折紙学会

〒113-0001

東京都文京区白山1-33-8-216

Phone & Fax / 03-5684-6080

発行人/西川誠司

編集人/山口 真

編集スタッフ/田尻敦士 松浦英子

折り図制作・デザイン/おりがみはうす

発売元/おりがみはうす

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

定価 600 円

■ORIGAMITANTEIDAN / No.66 / Published on 25, March 2001 by Japan Origami Academic Society, 1-33-8-216
Hakusan Bunkyo-ku 113-0001 Tokyo JAPAN / Cover Photo: "Deer" Produced by Kawahata Fumiaki: Photographed by Sato Hitoshi / Publisher: Nishikawa Seiji / Editor in Chief: Yamaguchi Makoto / Editor: Tajiri Atsushi, Matsuura Eiko / Editorial Design: ORIGAMI HOUSE

I♥ORIGAMI おりがみはうす商品案内

※このページの商品の取扱いはすべて「おりがみはうす」です。折紙探偵団の口座とは別になります。



第6回折紙探偵団 コンベンション 折り図集VOL.6 大好評発売中!!

B-5判256ページ
定価2,000円(税込)
送料420円(梱包込)

※郵便振替の場合は
用紙の「通信欄」に
必ず「第6回折り図集」
とご記入下さい。

神谷哲史氏の「パロサウルス」「天馬」、本誌60号に掲載された川村みゆき氏の「クイックスナップ」同じく60号表紙、西川誠司氏の「ドラゴン」、昨年の静岡コンベンションで作品が展示された川畑文昭氏の「ムース」、木村良寿氏現役復活作「ちびけらとぶす」、62号の展開図に登場した小松英夫氏の「うさぎ」、笹出晋司氏の「巨大鳥型生物(ギャ○ス)」、吉野一生基金招待者ダニエル・ロビンソン氏の「シュモクザメ」、ポール・ジャクソン氏のシンプル作品などなど66作品収録。



■ 折紙図鑑「昆虫 I」

B5判/全196ページ
カラー口絵 4ページ
定価: 3,100円(税込)
送料: 460円(梱包込)

川畑文昭、西川誠司・共著 山口 真・編
昆虫大戦争の熱い日々が今甦る。カラーページに全作品掲載。折り図の冒頭には口絵とは異なるアングルから撮った作品のモノクロ写真と作者のコメント掲載。



■ 折るころ

A4判 全108ページ
フルカラー48ページ
指導: 岡村昌夫
定価: 1,400円(税込)
送料: 420円(梱包込)

本誌57号岡村氏の連載で詳しく紹介された「折紙の歴史展」の図録。折紙の貴重な歴史的資料満載で、折紙博士を自称するなら必携の一冊。

好評発売中

折り紙色紙百花 田中具子・著

女性に大人気! 色紙折り紙のバイブル。
B-5判/120ページ/カラー口絵8ページ
定価2,500円(税込) 送料390円(梱包込)

面~The Mask~ 布施知子・著

作者がまだユニット折り紙に出会う前の情熱の作品群。
B-5判/200ページ/全27作品カラー写真紹介
定価3,300円(税込) 送料460円(梱包込)

一生スーパーコンプレックスおりがみ

B-5判200ページ カラー口絵8ページ 吉野一生 著
定価2,900円(税込) 送料460円(梱包込)

只今制作中

西川誠司作品集/西川誠司 著・西川折り紙の集大成。

折紙図鑑「昆虫 II」/北條高史、前川 淳、目黒俊幸共著
世界で一番難しい折り紙の本第2弾。

折紙図鑑「犬」/佐野康博・著 犬折り紙第一人者の作品集
一所懸命制作中です。気長に待っていて下さい。

『折紙探偵団』専用ファイル

変形B-5判/箔押しロゴ入/雑誌「折紙探偵団」1年分(6冊)収録可能

定価750円(税込)
送料250円(梱包込)

はうすオリジナル 折り紙専用和紙

和紙両面おりがみ

2枚の民芸紙を貼り合わせて作りました。折り筋が付きやすく、もみ紙の風合いが作品づくりの幅を広げます。

サイズ/30cm×30cm 5色調/20枚入 定価1,350円
送料: 1セット/390円(梱包込) 2セット/580円 3~4セット/700円

※和紙両面おりがみは見本をお分けしています。
御希望の方は80円切手を同封の上、おりがみはうすまで。

絵はがきセット 限定50部

布施知子ユニット作品絵はがきセット

1セット18枚組(18種類) 定価1,500円 送料160円
美しい自然と調和するユニット作品を絵はがきにしました。

●商品の申し込み方法●

郵便振替か現金書留で料金(商品価格+送料)を送って下さい。

ご希望の商品名と連絡先の記入をお忘れのない様お願いします。

(郵便振替の場合は振替用紙の「通信欄」に記入して下さい。)

入金を確認次第、商品を発送させていただきます。

郵便振替番号 00120-9-715400

加入者名 おりがみはうす



GALLERY ギャラリー

おりがみはうす

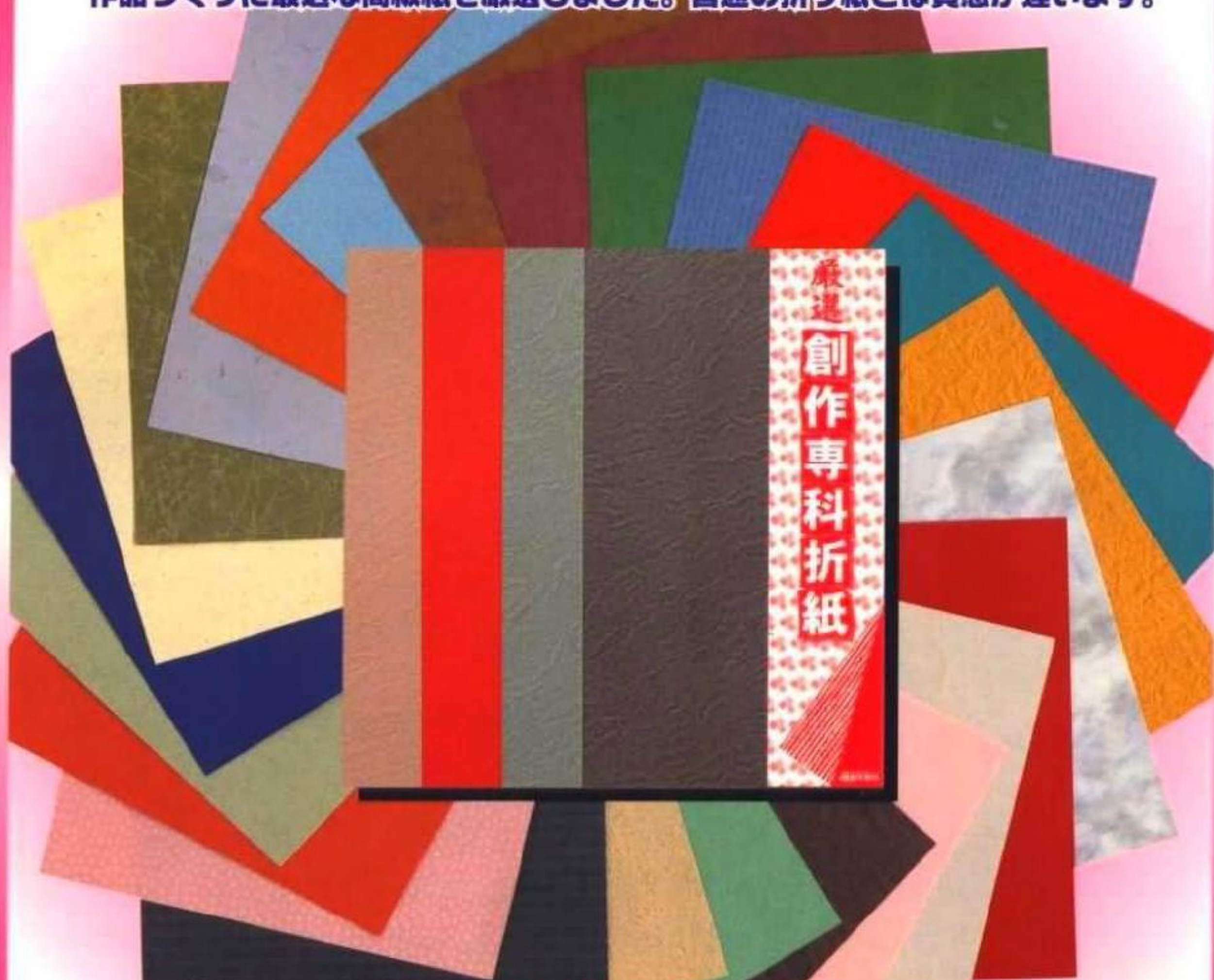
〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216
TEL:(03) 5684-6040 FAX:(03) 5684-6080
E-mail: origamih@remus.dti.ne.jp

■複数商品ご注文の場合は、送料が変わってきます。電話又はメールでお問い合わせください。

(35×35cm)

高級大判折り紙を、宅配。

24種類の折り紙 通信販売にて好評発売中。
作品づくりに最適な高級紙を厳選しました。普通の折り紙とは質感が違います。



ご好評の折り紙、実物見本帳ができました。
入手方法等については直接お問い合わせ下さい。

お問合せ TEL 03-5244-6061
FAX 03-5244-6065



あなたの創作活動をサポートします。

創作専科

株式会社 ポップ・アイ 創作専科
〒120-0044 東京都足立区千住緑町2-10-7
TEL (03) 5244-6061
FAX (03) 5244-6065